

4.3 国際戦略への提言

招致の成功に国際的な信頼関係やネットワークが必須であることは前述の通りであるが、日本サッカーの総合力を高めると言う点でも、国際戦略は重要な位置付けにある。以下では、国際戦略についてのいくつかの具体的な取り組みを提言する。

一つ目に、世界でトップ10の組織と思われるサッカー大国の状況を把握・比較し、サッカーファミリーに向けて積極的に発信することである。招致活動をはじめ多くの国際的な場面において感じられるのは、日本サッカー界に対する評価は意外と海外には知られていないという現状である。他の国の優れた点を積極的に吸収し、不足するところを改善していくためには、積極的に現状をサッカー先進国と比較していくことが必要であり、それが良い刺激となっていく。一方で、アジアのモデル協会として位置づけられていることからわかり、日本サッカー界が他に秀でている部分も発信する必要があるだろう。サッカーファミリーが誇りをもって、さらなる高みを目指すことは非常に重要である。

二つ目に、FIFA ワールドカップ™以外のFIFA主催大会やAFC主催大会を積極的に招致することである。ワールドカップではなくとも、カテゴリー別の大会やAFC主催大会を開催することで、日本の運営能力の高さをPRするだけでなく、大会という場を活用して国際ネットワークの強化・構築や、当該カテゴリーの日本代表チームの強化・育成等を効果的に図ることができる。事業として許容できる経済的なバランスが取れるのであれば、こうした機会は積極的に活用すべきである。

三つ目に、サッカーを通じた外交機会を積極的に創出することである。特にFIFA理事国やアジアでの支持基盤となる国々と接点がある場合には、政府レベルのみならず企業レベルでの外交機会を提供していくことで、サッカーを支援することの価値を高めるとともに、サッカー界としての国際

的なネットワークを深めることができる。具体的な機会としては、日本代表による親善試合の開催や、サッカー協会間での社会貢献といった活動が挙げられる。

上記のような国際戦略は、FIFA ワールドカップ™開催へ向けた総合力強化と言う観点で重要と言える。

4.4 サッカー界の発展に向けて

サッカー界として前述の総合力を高めることは、FIFA ワールドカップ™開催にとって必要条件であって十分条件ではない。しかしながら、FIFA ワールドカップ™開催を目指してサッカー界を総合的に発展させるというプロセスには、多くの人々にサッカーの楽しさを提供すると同時に、ワールドカップ開催という夢を共有するという機能が含まれている。

夢を共有しながらサッカーを楽しめるような仲間を増やすことこそが、FIFA ワールドカップ™開催の意義であり、「JFA2005年宣言」の真意であると言える。

「夢があるから強くなる」というスローガンにさらなる重みを加えられれば、本報告書の期すところである。

資料集

1. 用語集

AFC (The Asian Football Confederation)

アジアサッカー連盟。FIFA (国際サッカー連盟) に加盟する6つの大陸連盟の一つ。1954年設立、加盟協会数は46。本部はマレーシア/クアラルンプール。会長はモハメド・ビン・ハمام (FIFA 理事、カタール)。

CAF (Confederation of African football)

アフリカサッカー連盟。FIFA (国際サッカー連盟) に加盟する6つの大陸連盟の一つ。1957年設立、加盟協会数は54。本部はエジプト。会長はイッサ・ハヤトゥー (FIFA 副会長、カメルーン)。

CONCACAF (Confederation of North, Central American and Caribbean Association Football)

北中米カリブ海サッカー連盟。FIFA (国際サッカー連盟) に加盟する6つの大陸連盟の一つ。1961年設立、加盟協会数は40。本部は米国/ニューヨーク。会長はジャック・A・ワーナー (FIFA 副会長、トリニダード・トバゴ)。

CONMEBOL (The South American Football Confederation)

南米サッカー連盟。FIFA (国際サッカー連盟) に加盟する6つの大陸連盟の一つ。1916年設立、加盟協会数は10。本部はパラグアイ/アスンシオン。会長はニコラス・レオス (FIFA 理事、パラグアイ)。

FIFA (Fédération Internationale de Football Association)

国際サッカー連盟。サッカーの国際統括団体で、1904年に設立。傘下にアジアサッカー連盟(AFC)、アフリカサッカー連盟 (CAF)、北中米カリブ海サッカー連盟 (CONCACAF)、南米サッカー連盟 (CONMEBOL)、オセアニアサッカー連盟 (OFC)、欧州サッカー連盟 (UEFA) の6つの大陸連盟がある。加盟協会数は208。本部はスイス/チューリヒ。会長はジョゼフ・S・ブラッター (スイス)。

FIFA CSR (Corporate Social Responsibility) 活動

FIFA が実施する社会貢献活動で、社会発展のためにサッカーの力を利用し、現地組織の世界的ネットワークをサポートすることを目的とする。健康増進、平和構築、子供の権利と教育、差別禁止、社会的統合ならびに環境保護をサポートする、FIFAにより展開されるイベント、活動及びプログラムを意味する。2010年 FIFA ワールドカップ™南アフリカ大会では、“Football for Hope (希望のためのサッカー)” 運動、“20 Centres for Hope (2010年に向けた20施設)”、“Education for All (万人のための教育)” などのキャンペーンを実施した。また、2018/2022年 FIFA ワールドカップ™招致においても、大会の開催を通じた CSR 活動の提案を「招致ブック」に示すことが求められた。

FIFA Hyper Application (FIFA ハイパーアプリケーション)

日本が提案したモバイル端末の形態で、インター

ネットを通じて Freeviewpoint Vision (フリービューポイント・ビジョン: 自由視点映像) が視聴できるほか、50ヶ国語対応の自動翻訳機能、デジタルチケットングシステム、電子マネー、スタジアム観戦 AR (Augmented reality) サポートなどの機能が搭載され、各種サービスの利用が可能になるとされた。

FIFA インスペクション

FIFA ワールドカップ™招致立候補国に FIFA の調査団を派遣し、大会の開催運営に必要なスタジアム、トレーニングサイト、宿泊施設、輸送インフラなどを調査するもの。調査に際しては、招致立候補国から提出された開催契約等の契約書類を含む「招致ブック」をあらかじめ仔細に分析、示された内容に齟齬がないかを実地に調査することにより、当該国の開催運営能力を評価する。調査結果は、「招致ブック」の分析結果とともに、後日、「評価レポート」としてまとめられ、FIFA 理事に提出される。開催国決定の投票権を持つ24名の FIFA 理事は、この「評価レポート」を参考に投票行動をとるとされている。

FIFA コンフェデレーションズカップ

FIFA が主催するナショナルチームによる国際サッカー大会で、各大陸連盟が開催する大陸選手権の優勝チームが出場する。FIFA ワールドカップ™の前年に、次回 FIFA ワールドカップ™開催国で開催され、各大陸の代表のほか開催国、その他招待国の8チームによって行われる。日本は2001年に、2002年 FIFA ワールドカップ™のプレ大会として韓国と共同開催した。

FIFA 総会

FIFA の最高議決体で、FIFA 会長の選出、FIFA ワールドカップ™の大陸別出場枠などの重要事項が決定される。原則として年1回開催され、各加盟協会から3名が出席することができる。FIFA ワールドカップ™開催国は、開催年の FIFA 総会開催が義務付けられている。

FIFA パートナー

FIFA が展開する最も包括的なグローバル・スポンサーシップ権のパッケージ、及びFIFAとFIFAワールドカップ™等の大会に対する最高レベルの商業的結びつきをFIFAが付与する、または付与している組織。2010年現在、アディダス、コカコーラ、エミレーツ、ヒュンダイ、ソニー、ビザの6社がFIFAパートナーとなっている。

FIFA 評価グループ (FIFA Evaluation Group)

FIFA が設置するグループで、FIFA ワールドカップ™招致立候補国の開催能力を調査・分析し、「FIFA 評価レポート」を取りまとめることを目的とする。2018/2002年 FIFA ワールドカップ™招致では、FIFA インスペクション団長を務めたハロルド・メイン-ニコルズ氏(チリ協会会長(当時))が責任者となった。

「招致登録書」に定めた各種手続き及びスケジュール。

付属文書として開催契約が盛り込まれる。

招致プロセス

FIFA ワールドカップ™の開催国を決定するために、FIFA が「招致登録書」に定めた各種手続き及びスケジュール。

招致登録書

FIFA ワールドカップ™の招致意思表示フォームを提出した加盟協会の、招致プロセスへの参加登録を意味し、これにより加盟協会は、加盟協会が遵守すべき定め、手続き、条件及び要件への無制限の同意を表明することとなる。

スタジアム契約

FIFA と開催国組織委員会（LOC）、及び FIFA ワールドカップ™においてスタジアムとして使用することが予定されるスタジアムの所有者／経営者との間で締結されるスタジアム枠組み契約。FIFA ワールドカップ™に関して予定されるスタジアムの所有者／経営者の主たる権利と義務の全枠組み及び概略が記載され、招致契約において FIFA が提示するテンプレートに完全に準拠した形で、招致ブックの一部として FIFA に提出される。

政府宣言

FIFA ワールドカップ™の招致ならびに開催国における大会の開催及び実施に対する支援を示す招致国の最高政府執行機関の長が発出する宣言を意味し、招致契約において FIFA が提示するテンプレート宣言に完全に準拠した形で、招致ブックの一部として FIFA に提出される。

政府保証

合法的に当該保証を行う能力を有する開催国の主務大臣または政府当局の長が付与することを求められる 8 項目からなる保証を意味し、招致契約において FIFA が提示するテンプレート宣言に完全に準拠した形で、招致ブックの一部として FIFA に提出される。

チームベースキャンプ

FIFA ワールドカップ™の期間中に、チームの本部として機能し、かつ、専用のトレーニングサイトと宿泊施設がセットになったチームホテル。

チームベースキャンプ自治体

FIFA ワールドカップ™の期間中（期間前後を含む）に、チームの本部として機能し、かつ、専用のトレーニングサイトと宿泊施設がセットになったチームホテルを有し、チームの誘致を希望する自治体。

チームホテル

チームが FIFA ワールドカップ™の期間中に宿泊する、チームベースキャンプに付帯するホテル及び開催地指定チームホテルの総称。

抽選会

FIFA ワールドカップ™及び FIFA コンフェデレーションズカップに関連する抽選会（本大会抽選会：FIFA ワールドカップ™の決勝大会において、チームをグループに振り分ける抽選セレモニー、予選抽選会：FIFA ワールドカップ™の大陸別予選においてチームをグループに振り分ける抽選セレモニー、及び FIFA コンフェデレーションズカップ組み合わせ抽選会：参加チームをグループごとに振り分ける抽選セレモニーなど）を意味する。

トレーニングサイト

FIFA ワールドカップ™に出場するチームが、トレーニングを行うための開催国内のトレーニングに使用されるスタジアム施設。敷地の上空、常設及び臨時の駐車場、メディア用エリア、商業ディスプレイ地域などが含まれる。トレーニングサイトには、チームベースキャンプトレーニングサイトと開催地指定トレーニングサイトが含まれる。

トレーニングサイト契約

開催地組織委員会（LOC）とトレーニングサイト所有者／経営者との間で締結される契約。トレーニングサイト所有者／経営者の主たる権利及び義務の枠組み及び概略が記載され、FIFA が提供するテンプレートに完全に準拠した形で、招致ブックの一部として FIFA に提出される。

ヒューマニティ & テクノロジー部会

2022 年 FIFA ワールドカップ™日本招致に際し、大会理念・コンセプト及び大会構想の策定など、大会のグランドビジョン構築を専門的な見地から支援することを目的に、日本招致委員会の諮問機関として設置。

ブロードキャストコンパウンド

FIFA が決定するスタジアム内周部またはスタジアム外周部内の立ち入り制限区域を意味し、当該区域内において、ホストブロードキャスターまたは放送ライセンシーは、放送権に関するコンテンツ等の制作、及び放送権の活用、実施を目的として、技術装置及び中継車を置くことができる。

法律意見書

招致ブックの一部として FIFA に提出される、専門家としての最高の評価を有する現地の弁護士による法的意見書。開催契約書、開催都市契約書、スタジアム契約書、政府宣言、及び政府保証などの招致文書が、招致国において十分に法的拘束力を有し、かつ強制可能であるか、当該文書が担当当局により合法的に署名及び発行されているか否かを確認する。法律意見書は、招致契約において FIFA が提供するテンプレートに完全準拠した形で招致ブックの一部として FIFA に提出される。

放送ライセンシー

放送権利者。FIFA から放送権を付与されたテレビ局等の放送関係者。

ホスピタリティビレッジ

スタジアム外周部内、または FIFA ファンフェスト等のサイト近くに臨時に設けられた、ホスピタリティプログラムを提供するための施設。施設内には招待客が試合までの時間を過ごすことのできるレストラン等の施設が設けられる。

ホスピタリティボックス

スタジアム内のホスピタリティ目的で使用される各部屋、特定観覧席またはエリアを意味し、大会に際し FIFA が指定する。ピッチが良く見える限定数のシート及び大会期間中使用するその他の企業ホスピタリティ関連のインフラが含まれる。

ホストブロードキャスター

FIFA の放送権に従い、テレビ放送コンテンツ等の制作に関するサービスを提供することを、FIFA から指名された団体。

ホテル契約

FIFA ワールドカップ™の開催に際して使用される宿泊施設について、招致委員会または開催地組織委員会（LOC）と、開催国内のホテルとの間で締結される契約。招致段階で客室提供の仮契約を締結することが要求される。

メディア席

当該スタジアム内で開催される試合を報道するためにメディア代表者専用の FIFA が指定するスタンドの一部。開幕戦及び決勝戦では、机、電力、インターネットアクセス、テレビモニターの付きメディア席 1,000 席、机なしメディア席 1,000 席、シートカメラマン席 100 席が要求される。

メディアセンター（スタジアムメディアセンター）

FIFA ワールドカップ™の開催に際して開催地組織委員会（LOC）が設置する、メディアのための作業スペース。開幕戦及び決勝戦開催スタジアムにおいては 6,000 m²のスペースが要求される。

2. 招致活動年表

年	月日	招致委員会の動き	海外 (FIFA) の動き	国内 (政府・開催候補自治体等) の動き
2007	10.29・30		FIFA 理事会 (チューリヒ: FIFA ワールドカップ™ホスト国の大陸ローテーション方式を、2018年大会以降廃止すること、及び前2大会のホスト協会が所属する大陸連盟は当該大会の招致を行えないことを決定)	
	11.8	FIFA ワールドカップ招致検討委員会 (委員長: 小倉純二 JFA 副会長) の設置を決定		
	12.20	第1回 FIFA ワールドカップ招致検討委員会		
2008	7.12	犬飼基昭 JFA 会長就任		
	12.11～21		FIFA クラブワールドカップ開催 (日本)	
	12.19・20		FIFA 理事会 (東京: 2018/2022年 FIFA ワールドカップ™ホスト国を2010年12月に同時決定することを決定)	
2009	1.22	招致意思表明フォームを FIFA に提出		
	2.2	招致意思表明フォーム提出締切	2018/2022年の2大会合わせて、アジア連盟: 5カ国、欧州連盟: 共催2グループ4カ国・単独2カ国、北中米カリブ海連盟: 2カ国が立候補の意思を表明	
	2.18	第2回 FIFA ワールドカップ招致検討委員会		
	3.12	FIFA ワールドカップ招致検討委員会の元に FIFA ワールドカップ招致本部 (統括: 田嶋幸三専務理事) を設置		
	3.16	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™ 及び 2017/2021 FIFA コンフェデレーションズカップの招致登録フォームを FIFA に提出		
	4.16	第3回 FIFA ワールドカップ招致検討委員会		
	5.7	招致契約書・開催契約書受領		
	5.8		AFC 総会	
	5.25	第4回 FIFA ワールドカップ招致検討委員会		
	5.30～6.4	FIFA 総会 (バハマ) オブザーバー出席	FIFA 総会 / 理事会 (5.30～6.3: バハマ)	
	6.14～28		FIFA コンフェデレーションズカップ開催 (南アフリカ)	
	6.20・21	FIFA コンフェデレーションズカップ オブザーバープログラム参加		
	7.8～10	立候補国対象ワークショップ参加 (チューリヒ・FIFA 本部)		
	7.11			第22回参議院議員通常選挙
	7.25	都道府県協会「全国専務理事会議」にて、「日本国内での招致関連手続きの説明及び誘致の関心表明」を発信		
	7.28		2015/2019年ラグビーワールドカップ開催国決定	2019年ラグビーワールドカップ日本開催決定
	8.5			スルガ銀行チャンピオンシップ (大分)
8.14	招致委員会規約 / 内部規則草案提出期限			

年	月日	招致委員会の動き	海外 (FIFA) の動き	国内 (政府・開催候補自治体等) の動き
2009	8.24～26	立候補国個別ワークショップ参加 (チューリヒ・FIFA 本部)		
	8.3			第45回衆議院議員選挙
	9.7	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会 (委員長: 犬飼基昭 JFA 会長) 設立を FIFA に報告	犬飼委員長、ブラッター FIFA 会長訪問 (チューリヒ・FIFA 本部)	
	9.8	ブラッター会長、旭日大綬章勲章伝達式 (スイス日本大使公邸)		
	9.9	「日本国内での招致関連手続きの説明及び誘致の関心表明」応募締切		
	9.11	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会法人登記完了		
	9.13	ブラッター会長来日		
	9.14	ブラッター会長 JFA メディカルセンター落成式出席		JFA メディカルセンター落成式挙行
	9.15	開催地自治体、チームベースキャンプ自治体の募集開始		
	9.18	招致委員会設立期限		
	9.24～10.16		FIFA U-20 ワールドカップ開催 (エジプト)	
	9.25・27	自治体、都道府県協会向けに開催地自治体、チームベースキャンプ自治体の募集説明会を開催		
	9.29・30		FIFA 理事会 (ブラジル・リオデジャネイロ)	
	9.30	招致マーク提出・承認締切		
	10.2		2016年オリンピック開催国決定	
	10.4	ブラッター会長、ワールドカップの開幕戦及び決勝会場は収容8万人以上とする条件に、必ずしもこだわらない考えを示す		
	10.8	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会設立記者発表 (JFA ハウス)		
	10.10	日本 vs. スコットランド代表戦にて、アトムがワールドカップ招致活動を PR		
	10.30	開催地自治体「意向表明書」提出締切		
	10.24～11.15		FIFA U-17 ワールドカップ開催 (ナイジェリア)	
	11.9			アジアチャンピオンズリーグ決勝 (東京・国立競技場)
	11.10	招致実行本部幹部会		
	11.13～15	スペインサッカー協会 100周年記念式典に田嶋本部長が出席		
	11.16～22		FIFA ビーチサッカーワールドカップ開催 (UAE・ドバイ)	
	11.22～25	田嶋本部長、グロンドーナ FIFA 上級副会長 (AFA 会長)、レオス FIFA 理事 (CONMEBOL 会長) を表敬訪問		
	11.25～27		CONMEBOL 理事会 (パラグアイ)	
	12.3		FIFA 理事会 (南アフリカ・ケープタウン)	
12.4	本選抽選会において、招致 PR イベント メディア・エキスポ 出展 (南アフリカ・ケープタウン)	2010年 FIFA ワールドカップ本選抽選会 (南アフリカ・ケープタウン)		

年	月日	招致委員会の動き	海外 (FIFA) の動き	国内 (政府・開催候補自治体等) の動き
2009	12.8	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致が閣議了解される		政府、FIFA ワールドカップの日本招致を閣議了解
	12.9	招致契約書を FIFA に提出		
	12.10	招致実行本部幹部会		
	12.10～20		FIFA クラブワールドカップ開催 (アブダビ)	
2010	1.8	開催地自治体、チームベースキャンプ自治体の募集締切		
	1.10～31		CAF アフリカネーションズカップ開催 (アンゴラ)	
	1.12	招致実行本部幹部会		
	1.14	11 開催候補都市 (13 スタジアム)、64 チームベースキャンプの正式申請書を受理		開催地自治体、チームベースキャンプの正式申請書を日本招致委員会に提出
	1.22	犬飼委員長、ビジャル・スペイン連盟会長 (FIFA 副会長) と会談。スペインサッカー連盟とパートナーシップ協定締結 (JFA ハウス)		
	1.27	招致アンバサダー (7 名) が決定		
	1.28	オフィシャル招致パートナー (6 社) を発表		
	1.29		CAF 総会 (アンゴラ)	
	1.31	田嶋本部長、CAF 総会、CAF アフリカネーションズカップ出席。ハヤトウー FIFA 副会長 (CAF 会長) を表敬訪問		
	2.8	招致実行本部幹部会		
	2.12～28		冬季オリンピック開催 (カナダ・バンクーバー)	
	2.15	第 1 回 2018/2022 年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会・招致連絡協議会開催 (ホテルオークラ東京)		
	2.26	開催地自治体及びチームベースキャンプ自治体が提出する FIFA 契約書類の提出締切		
	2.26	J リーグクラブ選手が招致アンバサダーに就任		
	3.2～5	田嶋本部長、サッカーレックス (英国・マンチェスター) に参加		
	3.5～7		IFAB (国際サッカー評議会)	
	3.16	犬飼委員長、小倉副委員長 (FIFA 理事)、プラティニ FIFA 理事 (UEFA 会長) と会談 (チューリヒ・FIFA 本部)		
	3.18・19		FIFA 理事会 (チューリヒ・FIFA 本部)	
	3.20	犬飼委員長、ワラウィ FIFA 理事と会談 (タイ・バンコク)		
	3.22～28	田嶋本部長、UEFA 総会に出席 (イスラエル・テルアビブ)	UEFA 総会 (イスラエル・テルアビブ)	
	3.26	オフィシャル招致パートナー (6 社) を発表	AFC 理事会 (マレーシア・クアラルンプール)	
	3.31	LOC 登記簿提出期限		
	4.2	ニュースレター「208 Smiles」Vol.1 発刊		
	4.5	招致実行本部幹部会		
	4.16	トリーズマン FA (イングランド協会) 会長が、小倉 FIFA 理事を訪問		

年	月日	招致委員会の動き	海外 (FIFA) の動き	国内 (政府・開催候補自治体等) の動き
2010	4.16	オフィシャル招致パートナー (3 社) を発表		
	4.20～29	犬飼委員長、南米の FIFA 理事を訪問 4月21-22日: グロンドーナ FIFA 理事・デルーカ CONMEBOL 専務理事 (アルゼンチン・ブエノスアイレス) 4月23日: レオス FIFA 理事 (パラグアイ・アスンシオン) 4月26日: テイシェイラ FIFA 理事 (ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ) 4月27日: アベランジェ FIFA 名誉会長 (ブラジル・リオ・デ・ジャネイロ)		
	5.3	犬飼委員長、川端達夫文部科学大臣と FIFA プラッター会長を表敬訪問。2022 年大会の招致に専念するとコメント (FIFA 本部)		川端達夫文部科学大臣、犬飼 JFA 会長と FIFA プラッター会長を表敬訪問
	5.11	第 2 回 2018/2022 年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会開催。招致ブックの承認、及び招致活動の 2022 年大会一本化の承認 (ホテルオークラ東京)		
	5.13	ニュースレター「208 Smiles」Vol.2 発刊		
	5.14	招致ブック・開催契約書提出。犬飼委員長ら招致ブック提出セレモニーに出席	招致ブック提出セレモニー (チューリヒ・FIFA 本部)	
	5.17	招致ブック提出後記者説明会開催 (JFA ハウス)		
	5.17	招致実行本部幹部会		
	5.17	「ワールドカップを日本へ！」トークバトル in 大阪開催		
	5.31	「ワールドカップを日本へ！」トークバトル in 豊田開催		
	6.2			横浜市が「2022 年 FIFA ワールドカップ™日本招致イベント in 横浜」を開催
	6.3	「ワールドカップを日本へ！」トークバトル in 埼玉開催		
	6.6	「ワールドカップを日本へ！」トークバトル in 札幌開催		
	6.6・7	FIFA 理事ホテル及び FIFA 理事会会場周辺にて各 FIFA 理事に挨拶	FIFA 理事会 (南アフリカ・ヨハネスブルグ)	
	6.7	オフィシャル招致パートナー (1 社) を発表		
	6.8	CONCACAF 総会にて招致プレゼンテーション実施	CONCACAF 総会 (南アフリカ・ヨハネスブルグ)	
	6.9		AFC 臨時総会 (南アフリカ・ヨハネスブルグ)	
	6.9・10	FIFA 総会にて各 FIFA 理事に挨拶 犬飼委員長、田嶋専務理事がレオス FIFA 理事にプレゼント贈呈 犬飼委員長、田嶋専務理事がメイン・ニコルス (FIFA インспекションチームリーダー) に挨拶 丸山本部長がサルゲロ FIFA 理事、アヌマ FIFA 理事、レオス FIFA 理事に挨拶	FIFA 総会 (南アフリカ・ヨハネスブルグ)	

年	月日	招致委員会の動き	海外 (FIFA) の動き	国内 (政府・開催候補自治体等) の動き
2010	6.10	招致国エキシビション(南アフリカ・ヨハネスブルグ)に出展		
	6.11～7.11		2010年 FIFA ワールドカップ南アフリカ大会開催	
	6.15	田嶋専務理事、ドーグ FIFA 理事(ベルギー)と面会		
	6.15	濱口エグゼクティブアドバイザー、レフカリティス FIFA 理事(キプロス)と面会		
	6.16	濱口エグゼクティブアドバイザー、アボ・リダ FIFA 理事(エジプト)と面会		
	6.21	ニュースレター「208 Smiles」Vol.3・4 発刊		
	6.24	オフィシャル招致パートナー(1社)を発表		
	6.28～7.1	オブザーバーズプログラム(南アフリカ・ヨハネスブルグ)		
	7.1			大阪市の小学生 45,000 人が招致メッセージを招致委員会に届ける
	7.8	田嶋専務理事、マクディ FIFA 理事(タイ)との昼食会開催		
	7.9	FIFA ワールドカップ南アフリカ大会・電通ガラパーティにおいて、ブラッター FIFA 会長はじめ各 FIFA 理事と会談		
	7.13～8.1		FIFA U-20 女子ワールドカップ開催(ドイツ)	
	7.19～22	FIFA インспекションチーム日本訪問	FIFA インспекション(7.19～9.17)	FIFA インспекションチームが訪れる7月19・20日の両日、通天閣をブルーにライトアップ
	7.25	小倉純二 JFA 会長就任、併せて2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会委員長に就任		
	7.28・29	サッカーレックス参加(シンガポール)		
	7.30	AFC 理事会にて招致プレゼンテーション実施	AFC 理事会(マレーシア・クアラルンプール)	
	8.4			スルガ銀行チャンピオンシップ(東京・国立競技場)
	8.6	ニュースレター「208 Smiles」Vol.5 発刊		
	8.14～24		ユースオリンピックゲーム(シンガポール)	
	8.22	「ワールドカップを日本へ！」トークバトル in 東京開催		静岡県が静岡ダービー(清水 VS. 磐田戦)で招致 PR 活動
	8.31	ニュースレター「208 Smiles」Vol.6 発刊		
	9.4			日本 VS. バラグアイ代表戦(横浜)
	9.5～25		FIFA U-17 女子ワールドカップ開催(トリニダード・トバゴ)	
	9.6	招致実行本部幹部会		
	9.7			日本 VS. グアテマラ代表戦(長居)
	9.9	オフィシャル招致パートナー(1社)を発表		
	9.16	オフィシャル招致パートナー(1社)を発表		
9.21	欧州主要記者ブリーフィング実施(ロンドン)			
9.24	欧州主要記者ブリーフィング実施(パリ)			

年	月日	招致委員会の動き	海外 (FIFA) の動き	国内 (政府・開催候補自治体等) の動き
2010	9.29	ニュースレター「208 Smiles」Vol.7 発刊		
	10.4	招致実行本部幹部会		
	10.4	欧州主要記者ブリーフィング実施(マドリッド)		
	10.6・7	フットボールビジネスイベント(リーダーズ・イン・フットボール)参加(ロンドン)		
	10.8	キリンチャレンジカップ2010の開催される埼玉スタジアムで招致グッズ販売		キリンチャレンジカップ2010 日本 VS. アルゼンチン代表戦(埼玉)
	10.17		英紙サンデー・タイムズが開催国投票に関わる FIFA 理事の不正疑惑を報道	
	10.20		FIFA 倫理委員会開催、FIFA 理事2名の暫定資格停止を決定	
	10.22	欧州主要記者ブリーフィング実施(ミラノ)		
	10.23・24	208 Kids Dream Mini tour 実施		
	10.25・26	フットボールビジネスイベント(インターナショナル・フットボール・アリーナ)参加(チューリヒ)		
	10.26	ニュースレター「208 Smiles」Vol.8 発刊		
	10.28・29	開催国決定投票方法の決定(FIFA 理事会)	FIFA 理事会(チューリヒ:FIFA 評価レポートの提示、開催国決定投票方法の決定)	
	11.8	招致実行本部幹部会		
	11.10	第3回2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会開催		
	11.11～13	招致イベント「ワールドカップを日本に！」出陣式開催		
	11.13			アジアチャンピオンズリーグ決勝(東京・国立競技場)
	11.17		FIFA 評価レポート概要版を FIFA.com 上に公開	
	11.18		FIFA 倫理委員会開催、FIFA 理事2名及び FIFA 役員4名の処分を発表	
	11.20～24	サッカーレックス参加(リオデジャネイロ)		
	11.24		AFC 理事会	
	11.25	ニュースレター「208 Smiles」Vol.9 発刊		
	11.25・26		CONMEBOL 理事会	
	11.29		英国国営放送 BBC が FIFA 理事4名に関する不正疑惑を報道	
	11.29		FIFA 女子ワールドカップ抽選会(フランクフルト)	
	12.1	招致国最終プレゼンテーション(チューリヒ)	FIFA 理事会(12.1・2:チューリヒ)	
	12.2	開催国決定(チューリヒ)		
	12.7	招致実行本部幹部会		
12.7	招致記者報告会開催(JFAハウス)			

3. 開催地自治体・スタジアム、チームベースキャンプ自治体・トレーニングサイト

3.1 開催地自治体・スタジアム

自治体名	スタジアム名
札幌市（北海道）	札幌ドーム
茨城県	茨城県立カシマサッカースタジアム
埼玉県	埼玉スタジアム2002
東京都	東京スタジアム（味の素スタジアム） 国立霞ヶ丘競技場
横浜市（神奈川県）	横浜国際総合競技場（日産スタジアム）
新潟県	新潟スタジアム（東北電力ビッグスワンスタジアム）
静岡県	静岡スタジアム（エコパスタジアム）
豊田市（愛知県）	豊田スタジアム
大阪市（大阪府）	大阪エコ・スタジアム（仮称） 大阪市長居陸上競技場
神戸市（兵庫県）	ユニバー記念競技場
大分県	大分スポーツ公園総合競技場（大分銀行ドーム）

※（ ）内は自治体の所在都道府県

3.2 チームベースキャンプ自治体・トレーニングサイト

自治体名	トレーニングサイト名
網走市（北海道）	網走スポーツ・トレーニングフィールド
札幌市（北海道）	札幌サッカーアミューズメントパーク
札幌市（北海道）	白旗山競技場
遠野市（岩手県）	遠野運動公園陸上競技場
花巻市（岩手県）	花巻市スポーツキャンプむら
仙台市（宮城県）	仙台スタジアム（ユアテックスタジアム仙台）
秋田市（秋田県）	秋田市八橋運動公園球技場
にかほ市（秋田県）	仁賀保グリーンフィールド
山形県 / 天童市	山形県総合運動公園
福島県 / 楡葉町 / 広野町	Jヴィレッジ
小美玉市（茨城県）	（仮称）小美玉スポーツシュレ公園
鹿嶋市（茨城県）	鹿嶋市高松緑地公園多目的球技場
神栖市（茨城県）	神栖市若松運動場
つくば市（茨城県）	フットボールスタジアムつくば
ひたちなか市（茨城県）	ひたちなか市総合運動公園陸上競技場
水戸市（茨城県）	ケーズデンキスタジアム水戸 / 水戸市立サッカー・ラグビー場
習志野市（千葉県）	習志野秋津サッカー場
成田市（千葉県）	サウンドハウス・スポーツセンター内 プレイテック・スタジアム
川崎市（神奈川県）	川崎市等々力陸上競技場
相模原市（神奈川県）	相模原麻溝公園競技場
長野市（長野県）	南長野運動公園総合運動場 総合球技場
松本市（長野県）	松本平広域公園総合球技場（アルウィン）
糸魚川市（新潟県）	美山陸上競技場
十日町市（新潟県）	当間多目的グラウンド
長岡市（新潟県）	長岡ニュータウン運動公園
金沢市（石川県）	金沢市民サッカー場
御殿場市（静岡県）	御殿場市陸上競技場
静岡市（静岡県）	清水ナショナルトレーニングセンター
沼津市（静岡県）	静岡県愛鷹広域公園 多目的競技場
藤枝市（静岡県）	藤枝総合運動公園サッカー場
豊田市（愛知県）	豊田スタジアム
伊勢市（三重県）	伊勢市朝熊山麓公園フットボール場
飛騨市（岐阜県）	飛騨市古川ふれあい広場
大津市（滋賀県）	皇子山陸上競技場
長浜市（滋賀県）	神照運動公園（長浜市多目的競技場）
守山市（滋賀県）	野洲川歴史公園サッカー場
堺市（大阪府）	堺市立サッカー・ナショナルトレーニングセンター
吹田市（大阪府）	ガンバ大阪練習場

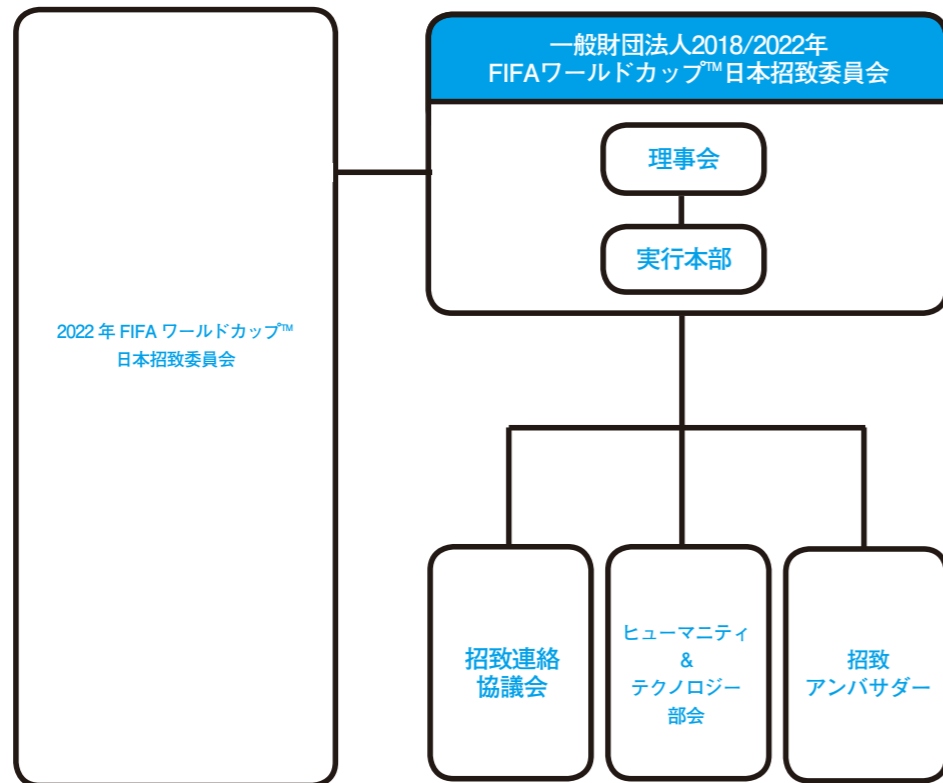
高槻市（大阪府）	高槻市立萩谷総合公園サッカー場 / 高槻市立総合スポーツセンター
神戸市（兵庫県）	ホームズスタジアム神戸
奈良県	奈良県立橿原公苑陸上競技場
和歌山県	紀三井寺公園陸上競技場
出雲市（島根県）	出雲健康公園
益田市（島根県）	島根県立サッカー場
広島市（広島県）	広島広域公園陸上競技場
香川県	香川県立丸亀競技場
徳島県	鳴門・大塚スポーツパーク ポカリスエットスタジアム
今治市（愛媛県）	桜井海浜ふれあい広場 / 上浦多々羅スポーツ公園
西条市（愛媛県）	ひうち陸上競技場 / 東予運動公園球技場
新居浜市（愛媛県）	新居浜市営サッカー場（グリーンフィールド新居浜）
松山市（愛媛県）	ニンジニアスタジアム
高知県	高知県立春野総合運動公園
北九州市（福岡県）	新設予定のスタジアム
福岡市（福岡県）	博多の森球技場（レベルファイブスタジアム）
島原市（長崎県）	島原市営陸上競技場 / 島原市営平成町多目的広場
長崎県	長崎県立総合運動公園新陸上競技場（仮称）
長崎市（長崎県）	長崎市総合運動公園かきどまり陸上競技場
熊本県 / 熊本市	熊本県民総合運動公園陸上競技場
佐伯市（大分県）	佐伯市総合運動公園
日田市（大分県）	鯛生スポーツセンター
豊後大野市（大分県）	サンスポーツランドみえ / 豊後大野市三重総合グラウンド
別府市（大分県）	実相市サッカー競技場 / 野口原総合運動場
指宿市（鹿児島県）	指宿いわさきホテル サッカー場
霧島市（鹿児島県）	霧島市国分運動公園（陸上競技場・多目的グラウンド）

※（ ）内は自治体の所在都道府県

※「/」による併記は連名による立候補の意

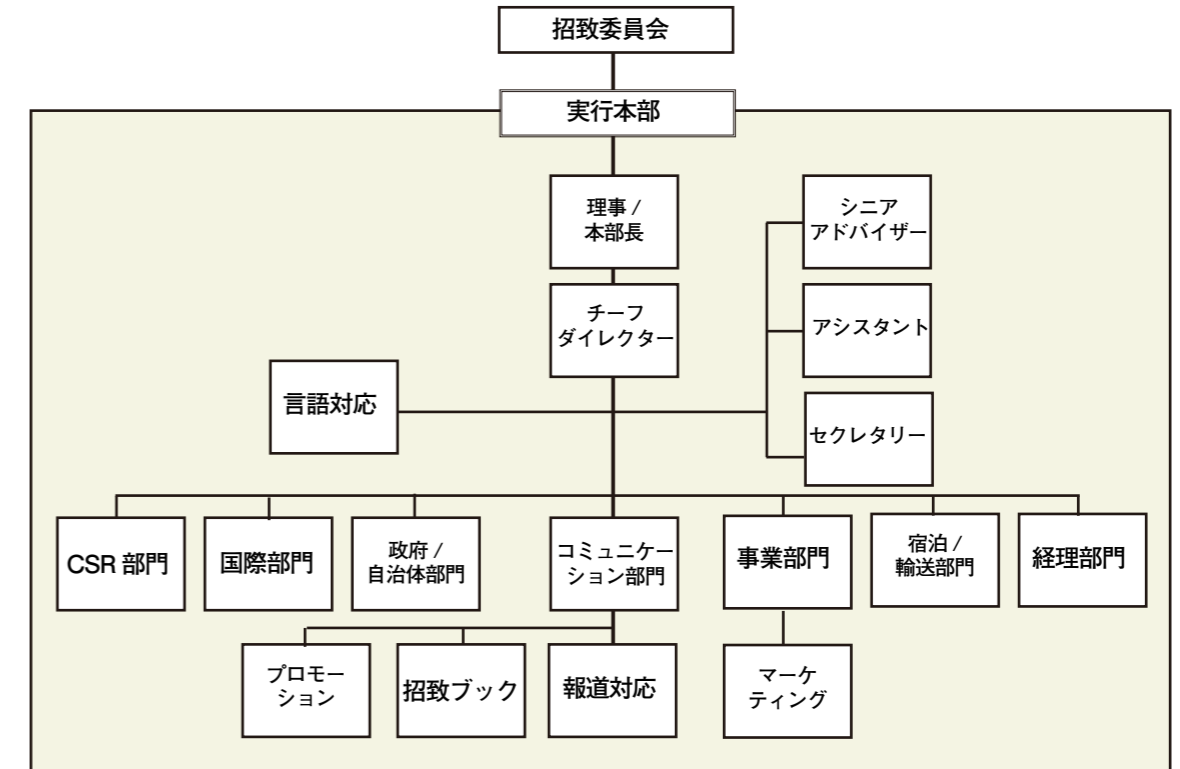
4. 2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会 組織体制

4.1 招致委員会 組織体制

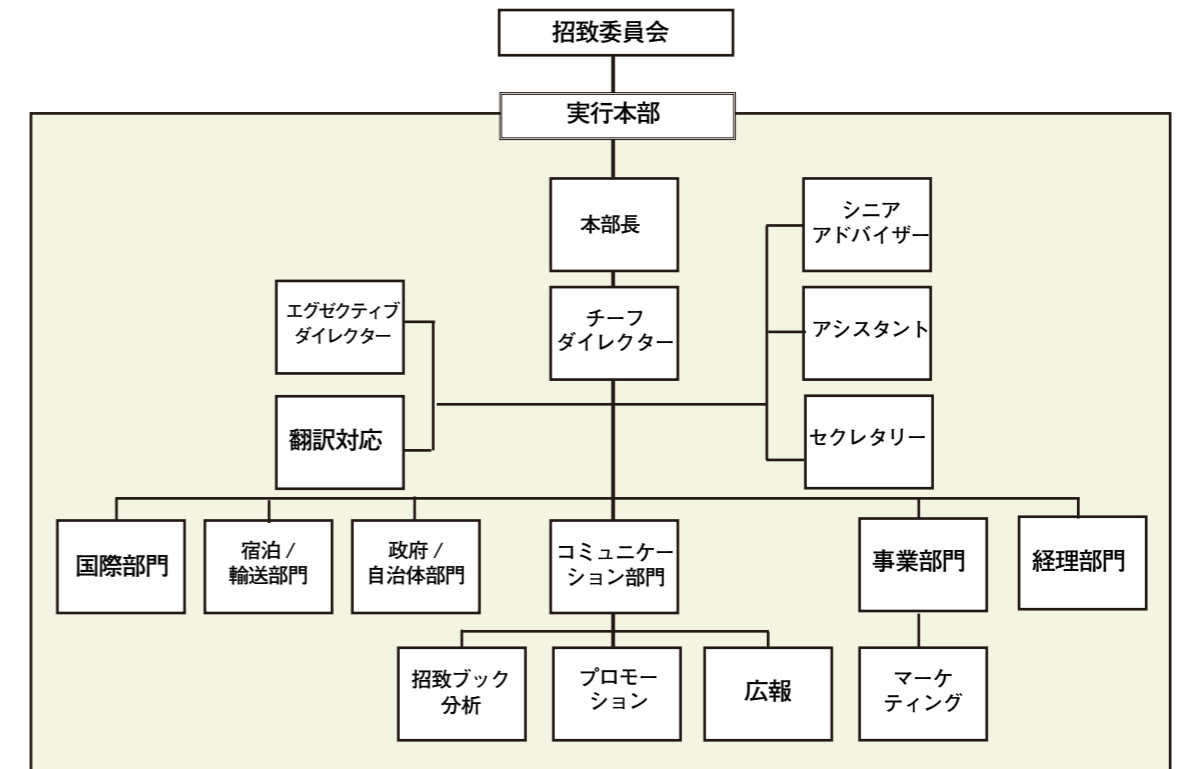


4.2 招致委員会実行本部 組織体制

4.2.1 2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会実行本部組織図 (2009.11.2 ~)



4.2.2 2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会実行本部組織図 (2010.9.1 ~)



5. 日本招致委員会関係 名簿

5.1 2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会 名簿 (2010年10月14日現在)

役職	氏名	所属/役職	
委員長	小倉 純二	国際サッカー連盟/理事 財団法人日本サッカー協会/会長	
特別顧問	麻生 渡	全国知事会/会長	
	岡村 正	日本商工会議所/会頭	
	金子 万寿夫	全国都道府県議会議長会/会長	
	川端 達夫	2022年 FIFA ワールドカップ招致推進議員連盟/会長	
	古賀 伸明	日本労働組合総連合会/会長	
	五本 幸正	全国市議会議長会/会長	
	桜井 正光	公益社団法人経済同友会/代表幹事	
	高木 義明	文部科学大臣	
	竹田 恆和	財団法人日本オリンピック委員会/会長	
	野村 弘	全国町村議会議長会/会長	
	藤原 忠彦	全国町村会/会長	
	森 民夫	全国市長会/会長	
	森 喜朗	財団法人日本体育協会/会長	
	米倉 弘昌	社団法人日本経済団体連合会/会長	
	顧問	岡野 俊一郎	財団法人日本サッカー協会/最高顧問
		鬼武 健二	財団法人日本サッカー協会/名誉副会長
		川淵 三郎	財団法人日本サッカー協会/名誉会長
副委員長	大東 和美	財団法人日本サッカー協会/副会長 社団法人日本プロサッカーリーグ/チェアマン	
	鈴木 寛	文部科学副大臣	
	大仁 邦彌	財団法人日本サッカー協会/副会長	
	田嶋 幸三	財団法人日本サッカー協会/副会長兼専務理事	
委員	有馬 利男	富士ゼロックス株式会社/相談役	
	内山 斉	社団法人日本新聞協会/会長	
	加藤 壹康	キリンホールディングス株式会社/取締役会長	
	響田 隆史	文筆家	
	畔柳 信雄	株式会社三菱東京 UFJ 銀行/取締役会長	
	清水 正孝	東京電力株式会社/取締役社長	
	下妻 博	住友金属工業株式会社/代表取締役会長	
	高嶋 達佳	株式会社電通/代表取締役社長	
	高橋 治之	株式会社電通/顧問	
	中鉢 良治	ソニー株式会社/取締役 代表執行役 副会長	
	豊田 章男	トヨタ自動車株式会社/代表取締役社長	
	中島 勇一郎	クリムゾンファイニクス株式会社/代表取締役・マネージングパートナー	
	広瀬 道貞	社団法人日本民間放送連盟/会長	
	細谷 英二	株式会社りそなホールディングス/会長 株式会社りそな銀行/会長	
	ポール・ハーディスティ	アディダスジャパン株式会社/代表取締役	
	村井 純	慶應義塾大学/環境情報学部長兼教授	
	柳井 正	株式会社ファーストリテイリング/代表取締役会長兼社長	

※敬称略、役職別に五十音順

※所属/役職は当時

5.2 2018/2022年 FIFA ワールドカップ™ 招致連絡協議会 名簿 (2010年10月14日現在)

役職	氏名	所属/役職
会員	市原 則之	財団法人日本オリンピック委員会/専務理事
	岡崎 助一	財団法人日本体育協会/専務理事
	中川 浩明	全国知事会/事務総長
	中村 利雄	日本商工会議所/専務理事
	中村 芳夫	社団法人日本経済団体連合会/副会長・事務総長
	南雲 弘行	日本労働組合総連合会/事務局長
	前原 金一	公益社団法人経済同友会/副代表幹事・専務理事
	芳山 達郎	全国市長会/事務総長
	上田 文雄	札幌市/市長
	橋本 昌	茨城県/知事
	上田 清司	埼玉県/知事
	石原 慎太郎	東京都/知事
	林 文子	横浜市/市長
	泉田 裕彦	新潟県/知事
	川勝 平太	静岡県/知事
	鈴木 公平	豊田市/市長
	平松 邦夫	大阪市/市長
	矢田 立郎	神戸市/市長
	広瀬 勝貞	大分県/知事

※敬称略、開催地自治体からの会員以外のメンバーは五十音順

※所属/役職は当時

5.3 ヒューマニティ & テクノロジー部会、及び協力者 名簿

氏名	所属
2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会	ヒューマニティ & テクノロジー部会
村井 純	ヒューマニティ & テクノロジー部会部会長/慶應義塾大学環境情報学部 学部長
竹内 郁雄	東京大学名誉教授
稲見 昌彦	慶應義塾大学大学院 メディアデザイン研究科
江渡 浩一郎	独立行政法人 産業技術総合研究所
高橋 克己	NTT 情報流通プラットフォーム研究所 リーダー
森 祐治	株式会社 シンク
ヒューマニティ & テクノロジー部会協力者	
安藤 広志	独立行政法人 情報通信研究機構 けいはんな研究所
飯田 啓之	株式会社 ムロドー
井之上 直己	独立行政法人 情報通信研究機構 けいはんな研究所
植村 弘洋	日本電気株式会社 C&C イノベーション研究所
榎並 和雅	独立行政法人 情報通信研究機構 けいはんな研究所
園道 知博	名古屋大学大学院 工学研究科
及川 道雄	株式会社 日立製作所 システム開発研究所
勝本 道哲	独立行政法人 情報通信研究機構 ユニバーサルメディア研究所センター
クロサカ タツヤ	株式会社 企
小池 崇文	株式会社 日立製作所 システム開発研究所
小池 英樹	電気通信大学大学院 情報システム学研究所
斎藤 英雄	慶應義塾大学理工学部 情報工学科
酒澤 茂之	株式会社 KDDI 研究所 超臨場感通信グループ
三功 浩嗣	株式会社 KDDI 研究所 超臨場感通信グループ
谷本 正幸	名古屋大学大学院 工学研究科
土肥 健純	東京大学 情報理工学系研究科
永森 昌志	株式会社 音力発電
パナヒブラ テヘラニ メヒルダド	名古屋大学大学院 工学研究科
速水 浩平	株式会社 音力発電
山田 敬嗣	日本電気株式会社 C&C イノベーション研究所
廖 恩洪	東京大学 工学系研究科

※敬称略、ヒューマニティ & テクノロジー部会協力者は五十音順

※所属/役職は当時

5.4 招致アンバサダー名簿 (2010年11月現在)

氏名	所属
イビチャ・オシム	元日本代表監督
ギド・ブッフバルト	元浦和レッズ監督
ジーコ	元日本代表監督
ドラガン・ストイコビッチ	名古屋グランパス監督
フィリップ・トルシエ	2002年FIFAワールドカップ日本代表監督・現FC琉球総監督
中村俊輔	日本代表・横浜F・マリノス
長谷部誠	日本代表・VfLヴォルフスブルグ
本田圭佑	日本代表・CSKAモスクワ
森島寛晃	セレッソ大阪アンバサダー
岡田武史	元日本代表監督
アルベルト・ザッケローニ	日本代表監督
パトリック・エムボマ	元カメルーン代表
中山雅史	コンサドーレ札幌・日本プロサッカー選手会名誉会長
藤田俊哉	ロアッソ熊本・日本プロサッカー選手会会長
宮本恒靖	ヴィッセル神戸 2006年ドイツワールドカップ日本代表チームキャプテン
渡辺広大	ベガルタ仙台
長谷川悠	モンテディオ山形
小笠原満男	鹿島アントラーズ
鈴木啓太	浦和レッズ
藤本主税	大宮アルディージャ
平山相太	FC東京
谷口博之	川崎フロンターレ
渡邊千真	横浜F・マリノス
村松大輔	湘南ベルマーレ
千葉和彦	アルビレックス新潟
岩下敬輔	清水エスパルス
大井健太郎	ジュビロ磐田
吉村圭司	名古屋グランパス
柳沢敦	京都サンガF.C.
藤ヶ谷陽介	ガンバ大阪
羽田憲司	セレッソ大阪
佐藤寿人	サンフレッチェ広島
井上裕大	大分トリニータ

※敬称略、順不同

※所属/役職は当時

5.5 オフィシャル招致パートナー名簿

スポンサー	ロゴマーク
朝日新聞社	
アディダス ジャパン株式会社	
キリンホールディングス株式会社	
近畿日本ツーリスト株式会社	
産経新聞社	
株式会社JTB グローバルマーケティング&トラベル	
スカパー JSAT 株式会社	
株式会社TBS テレビ	
株式会社テレビ朝日	
株式会社テレビ東京	
凸版印刷株式会社	
西鉄旅行株式会社	
日清オイリオグループ株式会社	
日本経済新聞社	
日本航空	
日本テレビ放送網株式会社	
びあ株式会社	
株式会社フジテレビジョン	
株式会社ファーストリテイリング (ユニクロ)	
寄付金・助成団体	
寄付金：トヨタ自動車株式会社	

6. 2018/2022年FIFAワールドカップ™日本招致委員会 定款

定 款

第1章 総 則

(名称)

第1条 当法人は、一般財団法人2018・2022年FIFAワールドカップ日本招致委員会と称し、英文では2018・2022 FIFA World Cup Japan Bid Committeeと称する。

(主たる事務所の所在地)

第2条 当法人は、主たる事務所を東京都文京区本郷三丁目10番15号JFAハウス3階に置く。

(目的)

第3条 当法人は、2018年もしくは2022年FIFAワールドカップ（以下、「大会」）の日本招致を実現することを目的とする。

(事業)

第4条 当法人は、前項の目的を達成するため、次の事業を行う。

1. 大会招致のための総合計画に関すること
2. 大会招致に必要な経費に関すること
3. 大会招致に必要な渉外に関すること
4. 大会招致のための広報活動に関すること
5. その他招致のために必要と認める事項に関すること

(公告方法)

第5条 当法人の公告は、主たる事務所の掲示板に掲示する。

第2章 資産及び会計

(剰余金の分配制限)

第6条 当法人は、設立者その他の者に対し、剰余金の分配をすることができない。

(事業年度)

第7条 当法人の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第3章 評議員及び評議員会

(評議員)

第8条 当法人に評議員を3名以上置く。

(評議員の資格)

第9条 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号、以下「一般社団・一般財団法」という。）第65条第1項に規定する者は、評議員になることができない。

2. 評議員はこの法人又はその子法人の理事、監事又は使用人を兼ねることができない。

(評議員の選任及び解任)

第10条 評議員の選任及び解任は、財団法人日本サッカー協会の理事会の決議によって行う。

2. 財団法人日本サッカー協会は、前条で定める評議員の定数を欠くこととなるときに備えて、補欠の評議員を選任することができる。
3. 前項の場合には、財団法人日本サッカー協会は、次の事項も併せて決定しなければならない。
 - ①当該候補者が補欠の評議員である旨
 - ②当該候補者を1人又は2人以上の特定の評議員の補欠の評議員として選任するときは、その旨及び当該評議員の氏名
 - ③同一の評議員（2以上の評議員の補欠として選任した場合にあっては、当該2以上の評議員）につき2人以上の補欠の評議員を選任するときは、当該補欠の評議員相互間の優先順位
4. 第2項の補欠の評議員の選任に係る決議は、当該決議後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時まで、その効力を有する。

(任期)

第11条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2. 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとする。
3. 評議員は、第8条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

(評議員に対する報酬等)

第12条 評議員は無報酬とする。

2. 評議員には、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。

(評議員会の構成)

第13条 評議員会は、すべての評議員をもって構成する。

(評議員会の権限)

第14条 評議員会は、次の事項及び一般社団・一般財団法に規定する事項に限り決議することができるものとする。

- ① 理事及び監事の選任及び解任
- ② 理事及び監事の報酬等並びに評議員、理事および監事の報酬等の支給基準の承認
- ③ 計算書類等の承認
- ④ 定款の変更
- ⑤ 事業の全部または一部の譲渡
- ⑥ 継続
- ⑦ 合併契約の承認
- ⑧ 残余財産の帰属の決定
- ⑨ 理事、監事が評議員会に提出し、または提出した資料を調査する者の選任
- ⑩ 評議員による招集の請求により招集された評議員会における、法人の業務および財産の状況を調査する者の選任
- ⑪ その他評議員会で決議するものとして法令又はこの定款で定められた事項

(評議員会の開催)

第15条 定時評議員会は毎事業年度終了後3ヶ月以内に、臨時評議員会は必要に応じて随時、開催する。

(評議員会の招集)

第16条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき代表理事が招集する。

2. 評議員は、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。
3. 評議員会を招集する場合には、理事会は次の事項を決議しなければならない。
 - ① 評議員会の日時および場所
 - ② 評議員会の目的である事項（当該事項が役員を選任、役員報酬等、事業の全部の譲渡、定款の変更、合併のいずれかであるときは、その議案の概要を含む。）

(評議員会の招集通知)

第17条 理事長は、評議員会の日の1週間前までに、前条第3項各号に掲げる事項を記載した書面によりその通知を発しなければならない。

ただし、評議員の全員の同意がある場合には、招集の手続きを経ることなく評議員会を開催することができる。

(評議員会の議長)

第18条 評議員会の議長は、評議員会において評議員の中から選出する。

(評議員会決議)

第19条 評議員会の決議は、議決に加わることができる評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、議決に加わることができる評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行う。

- ① 監事の解任
- ② 定款の変更
- ③ 事業の全部または一部の譲渡
- ④ 継続
- ⑤ 合併契約の承認
- ⑥ その他法令で定められた事項

3 前2項の決議について特別の利害関係を有する評議員は、議決に加わることができない。

(評議員会決議の省略)

第20条 代表理事が評議員会の目的である事項につき提案した場合において、評議員の全員が提案された議案につき書面により同意の意思表示をしたときは、その議案を可決する評議員会の決議があったものとみなす。この場合においては、その手続きを第16条第3項の理事会において定めるものとし、第17条から前条までの規定は適用しない。

(評議員会議事録)

第21条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

第4章 役員

(役員の設置)

第22条 この法人に、次の役員を置く。

- ①理事 3名以上
- ②監事 1名以上
- 2. 理事のうち1名を代表理事とする。
- 3. 代表理事は、理事長とする。
- 4. 代表理事以外の理事のうち、1名を業務執行理事とする。

(役員の資格)

第23条 監事はこの法人又はその子法人の理事又は使用人を兼ねることはできない。

2. 一般社団・一般財団法人第65条第1項に規定する者は、理事又は監事になることができない。

(役員の選任)

第24条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

2. 代表理事及び業務執行理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3. 監事の選任に関する議案を評議員会に提出する場合には、監事（2名以上いる場合にはその過半数）の同意を受けなければならない。

(理事の職務及び権限)

第25条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

2. 代表理事は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を執行し、業務執行理事は、理事会において別に定めるところにより、この法人の業務を分担執行する。

3. 代表理事に事故があるときは、理事会が予め定めた順位に従い、他の理事がその職務を代行するものとする。

4. 代表理事及び業務執行理事は、毎事業年度に4ヶ月を超える間隔で2回以上自己の職務の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務及び権限)

第26条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

2. 監事は、いつでも理事及び使用人に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況を調査することができる。

(役員の任期)

第27条 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

2. 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとする。

- 3. 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 4. 理事又は監事は、第22条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

(役員の解任)

第28条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- ①職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- ②心身故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(報酬等)

第29条 理事及び監事は、原則として無報酬とする。ただし、常勤の理事及び監事に対しては、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、評議員会の決議を経て、報酬等として支給することができる。

2. 役員には、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。

第5章 理事会

(構成)

第30条 この法人に理事会を設置する。理事会は、すべての理事をもって構成する。

(権限)

第31条 理事会は、次の職務を行う。

- ①評議員会の招集に関する事項
- ②代表理事及び業務執行理事の選定及び解職
- ③重要な財産の処分及び譲受け
- ④多額の借財
- ⑤重要な使用人の選任及び解任
- ⑥従たる事務所その他の重要な組織の設置、変更、廃止
- ⑦一般財団法人の業務の適正を確保するために必要なものとして法務省令で定める体制の整備
- ⑧一般社団・財団法人法第198条で準用する同法第114条第1項に規定する損害賠償責任の一部免除
- ⑨その他この法人の業務の執行に関する事項（評議員会の決議を要する事項を除く。）

(招集)

第32条 理事会は、代表理事が招集するものとする。

2. 理事会を招集しようとするときは、代表理事は、理事会の日の1週間前までに、各理事及び各監事に対し、理事会の目的である事項並びに日時及び場所、その他必要な事項を記載した文書により通知を発しなければならない。
3. 前項の規定にかかわらず、理事及び監事の全員の同意があるときは、理事会は招集の手続きを経ることなく開催することができる。

(議長)

第33条 理事会の議長は、代表理事とする。

(決議)

第34条 理事会の決議は、議決に加わることができる理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、その決議に特別の利害関係を有する理事は、議決に加わることができない。

2. 前項の規定にかかわらず、一般社団・一般財団法人法第197条において準用する同法第96条の要件を満たしたときは、理事会の決議があったものとみなす。

(議事録)

第35条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2. 出席した理事及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

第6章 定款の変更及び解散

(定款の変更)

第36条 この定款は、評議員会の決議によって変更することができる。

2. 一般社団・財団法人法第200条第1項の規定にかかわらず、前項の規定は、この定款の第3条及び第4条並びに第10条についても適用する。

(解散)

第37条 この法人は、大会の日本招致を実現したとき、または、法令で定められた事由によって解散する。

(残余財産の帰属)

第38条 この法人が清算をする場合において有する残余財産は、評議員会の決議を経て、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第5条第17号に掲げる法人又は国若しくは地方公共団体に贈与するものとする。

第7章 附 則

(設立者の名称、住所及び拠出する財産)

第39条 この法人の設立者の名称、住所及び設立に際して拠出する財産は、次のとおりである。

住 所 東京都文京区本郷三丁目10番15号JFAハウス
 名 称 財団法人日本サッカー協会
 拠出財産 金300万円

(設立時の役員等)

第40条 この法人の設立時評議員、設立時理事及び設立時監事は、次のとおりとする。

設立時評議員	岡 野	俊一郎
設立時評議員	川 渕	三 郎
設立時評議員	小 倉	純 二
設立時理事	犬 飼	基 昭
設立時理事	鬼 武	健 二
設立時理事	大 仁	邦 彌
設立時理事	田 嶋	幸 三
設立時理事	田 中	道 博
設立時監事	本 林	徹
設立時監事	齊 藤	幸 司

(最初の事業年度)

第41条 この法人の最初の事業年度は、この法人成立の日から平成22年3月31日までとする。

(定款に定めのない事項)

第42条 この定款に定めのない事項については、すべて一般社団・一般財団法人法に関する法律その他の法令の定めるところによる。

以上、一般財団法人2018・2022年FIFAワールドカップ日本招致委員会の設立のため、設立者 財団法人日本サッカー協会 の定款作成代理人である 司法書士 宮部 岳彦 は電磁的記録である本定款を作成し、電子署名する。

平成21年9月7日

一般財団法人2018・2022年FIFAワールドカップ日本招致委員会 設立者

東京都文京区本郷三丁目10番15号JFAハウス
財団法人日本サッカー協会
代表理事 犬飼 基昭

上記設立者の定款作成代理人

東京都千代田区神田錦町一丁目27番4号
司法書士 宮部 岳彦

7. 2022年FIFAワールドカップ招致推進議員連盟名簿 (2010年11月5日現在) (敬称略)

役職	氏名	所属	党派
会長	川端 達夫	衆議院	民主
会長代行	衛藤 征士郎	衆議院	無・副議長
顧問	麻生 太郎	衆議院	自民
	安倍 晋三	衆議院	自民
	羽田 孜	衆議院	民主
	鳩山 由紀夫	衆議院	民主
	福田 康夫	衆議院	自民
	横路 孝弘	衆議院	無・議長
	西岡 武夫	参議院	無・議長
副会長	漆原 良夫	衆議院	公明
	般田 恵二	衆議院	共産
	下地 幹郎	衆議院	国民
	園田 博之	衆議院	た日
	照屋 寛徳	衆議院	社民
	山内 康一	衆議院	みんな
	荒井 広幸	参議院	改革
代表幹事	樽床 伸二	衆議院	民主
幹事	逢沢 一郎	衆議院	自民
	遠藤 利明	衆議院	自民
	奥村 展三	衆議院	民主
	高木 毅	衆議院	自民
	富田 茂之	衆議院	公明
	谷 亮子	参議院	民主
	友近 聡朗	参議院	民主
加盟議員	あべ 俊子	衆議院	自民
	網屋 信介	衆議院	民主
	石井 登志郎	衆議院	民主
	石田 祝稔	衆議院	公明
	石田 真敏	衆議院	自民
	石津 政雄	衆議院	民主
	稲見 哲男	衆議院	民主
	今村 雅弘	衆議院	自民
	打越 あかし	衆議院	民主
	大口 善徳	衆議院	公明
	大谷 啓	衆議院	民主
	大西 孝典	衆議院	民主
	大村 秀章	衆議院	自民
	小野寺 五典	衆議院	自民
	柿沢 未戸	衆議院	みんな
	勝又 恒一郎	衆議院	民主
	加藤 公一	衆議院	民主
	金子 恭之	衆議院	自民
	金田 勝年	衆議院	自民
	川崎 二郎	衆議院	自民
	河村 建夫	衆議院	自民
	木内 孝胤	衆議院	民主
	城内 実	衆議院	無
	岸本 周平	衆議院	民主
	北村 誠吾	衆議院	自民
	櫛淵 万里	衆議院	民主
	楠田 大蔵	衆議院	民主
	熊谷 貞俊	衆議院	民主
	黒岩 宇洋	衆議院	民主
	古賀 誠	衆議院	自民
	小林 正枝	衆議院	民主
	小宮山 泰子	衆議院	民主
小室 寿明	衆議院	民主	
阪口 直人	衆議院	民主	
佐藤 勉	衆議院	自民	

加盟議員	階 猛	衆議院	民主
	白石洋一	衆議院	民主
	新藤義孝	衆議院	自民
	杉本かずみ	衆議院	民主
	菅川 洋	衆議院	民主
	瑞慶覧長敏	衆議院	民主
	首藤信彦	衆議院	民主
	高井崇志	衆議院	民主
	高井美穂	衆議院	民主
	高木美智代	衆議院	公明
	高木義明	衆議院	民主
	高橋英行	衆議院	民主
	武正公一	衆議院	民主
	竹本直一	衆議院	自民
	橘 秀徳	衆議院	民主
	田中けいしゅう	衆議院	民主
	田名部匡代	衆議院	民主
	田村謙治	衆議院	民主
	津川祥吾	衆議院	民主
	中後 淳	衆議院	民主
	仁木博文	衆議院	民主
	西野あきら	衆議院	自民
	西村康稔	衆議院	自民
	額賀福志郎	衆議院	自民
	萩原 仁	衆議院	民主
	橋本清仁	衆議院	民主
	橋本 勉	衆議院	民主
	馳 浩	衆議院	自民
	初鹿明博	衆議院	民主
	浜本 宏	衆議院	民主
	伴野 豊	衆議院	民主
	福島健一郎	衆議院	民主
	福島伸亨	衆議院	民主
	福田昭夫	衆議院	民主
	松木 けんこう	衆議院	民主
	松本剛明	衆議院	民主
	三谷光男	衆議院	民主
	三ツ矢 薫生	衆議院	自民
	宮腰光寛	衆議院	自民
	宮崎岳志	衆議院	民主
	宮島大典	衆議院	民主
	宮本岳志	衆議院	共産
	向山好一	衆議院	民主
	村田吉隆	衆議院	自民
	本村賢太郎	衆議院	民主
	森山浩行	衆議院	民主
	森 喜朗	衆議院	自民
	谷田川元	衆議院	民主
	柳田和己	衆議院	民主
	山岡賢次	衆議院	民主
	山口和之	衆議院	民主
	山本剛正	衆議院	民主
	山本幸三	衆議院	自民
	吉田おさむ	衆議院	民主
	笠 浩史	衆議院	民主
	鷲尾英一郎	衆議院	民主
	井上哲士	参議院	共産
	岩井茂樹	参議院	自民
	上野ひろし	参議院	みんな
	上野通子	参議院	自民

加盟議員	江崎 孝	参議院	民主
	大島九州男	参議院	民主
	大野元裕	参議院	民主
	小川勝也	参議院	民主
	加賀谷健	参議院	民主
	金子原二郎	参議院	自民
	行田邦子	参議院	民主
	小坂憲次	参議院	自民
	小西洋之	参議院	民主
	斎藤嘉隆	参議院	民主
	桜内文城	参議院	みんな
	自見庄三郎	参議院	国民
	鈴木 寛	参議院	民主
	谷合正明	参議院	公明
	ツルネンマルティ	参議院	民主
	外山 斎	参議院	民主
	中西健治	参議院	みんな
	中山恭子	参議院	た日
	那谷屋正義	参議院	民主
	林 芳正	参議院	自民
	姫井由美子	参議院	民主
	広野ただし	参議院	民主
	藤井孝男	参議院	た日
	藤井基之	参議院	自民
	藤谷光信	参議院	民主
	藤田幸久	参議院	民主
	牧山ひろえ	参議院	民主
	松浦大悟	参議院	民主
	松下新平	参議院	自民
	松田公太	参議院	みんな
	松山政司	参議院	自民
	水岡俊一	参議院	民主
	水戸将史	参議院	民主
	宮沢洋一	参議院	自民
	森田 高	参議院	国民
	山本順三	参議院	自民
	吉川沙織	参議院	民主
	吉田忠智	参議院	社民

合計：158名（衆議院議員：112名、参議院議員：46名）

8. 2022年大会招致立候補国「招致ブック」分析

	招致立候補国名	United States	Australia	Japan	Korea Republic	Qatar
1)	招致ブック本体 主な章 / Chapter					
1)	開催理念 Hosting Concept	<ul style="list-style-type: none"> 米国におけるサッカーの成長は、全世界のサッカー経済の前進 史上最も収益性の高いワールドカップ 平均7万6千人を収容するスタジアム、500万枚のチケットセールス 世界最強のスポンサーマーケットのFIFAへの提供 	<ul style="list-style-type: none"> 最後に残されたオーストラリア大陸での初の開催 世界で最も情熱的なスポーツファン：サッカー競技人口の拡大、テレビ視聴者数の拡大 理想的な雰囲気：陽気な気候、2000年シドニー五輪 全ての試合が満席：90%のチケット販売率を見込む 	<ul style="list-style-type: none"> “208 Smiles” — 世界中に笑顔をもたらす、世界が一つになる次世代ワールドカップの開催 次世代ワールドカップを実現する5つの提案 最先端技術によるサッカーコンテンツの革新 2022年大会で実証した市民の熱狂 7回連続で本大会出場 いかなる立候補国よりも少ない経費でWCを開催 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの試合を北朝鮮で開催する可能性をFIFAと協議する意向—FIFAの世界平和への原則に符合し、世界平和を高める歴史的な大会になる 国会がLOCの活動を立法で支える意向 2002年大会で実証した市民の熱狂 7回連続で本大会出場 いかなる立候補国よりも少ない経費でWCを開催 	<ul style="list-style-type: none"> 中東及びアラブ世界で初の世界的イベントの開催により、世界的な理解と調和、統一のメッセージ 大会コストは、カタル国家ビジョン2030により充当 コンパクトな大会：各競技会場をコンパクトに配置（ドーハから車で30分以内に11のスタジアム） 9スタジアムを新築、3スタジアムを改修、環境保全型の冷房システムを導入、大会後は適正規模にスケールダウン
2)	サッカーの発展 Football Development	<ul style="list-style-type: none"> サッカーを第4のメジャースポーツとして定着、TV視聴者の拡大、MSLの市場拡大により、世界のサッカー史上に影響を及ぼす CONCACAF 各国の活動を支援することにより、地域のサッカー発展に貢献 FIFAのフルパートナーとして全世界にサッカーを奨励 	<ul style="list-style-type: none"> 国内においてサッカーを第1希望のスポーツにする FFAの国内サッカーの普及・発展計画(NFDP)が、WCの開催によりサッカー発展のための最大の利益を生み出す 先住民サッカーの普及・発展プログラム：先住民のサッカー競技への参加促進と、健康、社会・経済的支援 	<ul style="list-style-type: none"> JFAのアジアサッカー発展の貢献活動と、それらの事業を拡大した世界のサッカーの発展への貢献策を提示 Universal Fan Fest in 208 Nationsを活用した、世界サッカーの競技力向上、競技人口の拡大の提案 最先端テクノロジーを用いたFIFAの新たな収益事業など、FIFAワールドカップの事業価値拡大の提案 	<ul style="list-style-type: none"> 開催とともに、アジアの発展途上国の代表チームにコーチを派遣するなどの事業拡大が決定 南米・アフリカの発展途上国のサッカー開発のため、政府と米州開発銀行(IDB)その他と協議、プロジェクトの拡大を検討 女性、高齢者をスタジアムに向わせることを目論む 	<ul style="list-style-type: none"> ユースチームの育成を最重要視、女性サッカー育成、居留外国人のサッカーコミュニティ参加促進、障害者サッカー環境整備、草の根サッカー支援 世界サッカー発展貢献策：「驚嘆創造」大使；ネパール、パキスタン、シリアなどでユース年代の大会開催、優秀な選手らを「驚嘆創造」大使(ユースリーダー)として育成
3)	持続可能な社会と人の発展 Sustainable, Social and Human Development	<ul style="list-style-type: none"> CSR活動のコンセプト：One on One, One by One World Cup of Life：開発途上国の500万人の人々のために、命のための水を提供、チケット1枚につき25ドルのチャージを課し、それを原資に水を提供のインフラ整備 Football X-Change：開発途上国の活動に対する支援者である個人・企業をマッチングさせるネットワーク構築 FIFA社会変革機関：サッカーを活用し教育やコミュニティを支援するアクションシンクタンク 	<ul style="list-style-type: none"> 2015年で終了する、国連ミレニアム開発目標(MDGs)に代わり、豪州及び各国政府、国連を含む国際機関と、FIFA及びLOCが連携したサミットを2014年に開催 「結ばれたサッカー！」プログラム：難民、移民、先住民などの弱者への自立支援 ジャストプレー！：太平洋諸島の地域社会のための能力開発・生活改善事業 	<ul style="list-style-type: none"> WCの開催を通じて、次世代育成(教育)に重点的に取り組むことを宣言 JFAこころのプロジェクトの活動ノウハウを活用したプログラムを、世界的レベルで持続的に展開 Universal Fan Fest in 208 Nationsをプラットフォームにした、FIFA CSR活動の持続的な展開を提案 次世代育成の具体的なプログラムとして、“208 Kids Dream Japan Tour”、“208 Kids Dream Workshop”、“208 Kids Dream 基金”の設立を提案 	<ul style="list-style-type: none"> 「アジアにおけるサッカー」キャンペーンを実施するつもり：2018年、2022年大会期間中4回サッカー及び文化交流 「2022年のための22のアジアセンター」：FIFAの「2010年のための20のセンター」をモデルに、アジア全域に設立される予定のセンター 「2022年キャンペーンのためのTV2022」：財政的理由でテレビのない地域にテレビを贈るキャンペーン 	<ul style="list-style-type: none"> 国内地方対象活動：女性スポーツのリーダーの育成、大会・イベント等の開催等、上記2)と同様 世界対象活動：社会変革のためのリーダーたる若者の育成、サッカーを通じて貧困等の社会問題への取り組み、紛争に支配された地域のサッカーインフラの開発 開発途上国に2022年大会で使用した22のモジュラースタジアムを寄贈、建設

	招致立候補国名	United States	Australia	Japan	Korea Republic	Qatar
4)	環境保護 Environmental Protection	<ul style="list-style-type: none"> WCを世界中の環境及び持続可能性の取り組みに積極的な影響を及ぼすムーブメントとするため、金銭的・人的投資を行う 大会開催による直接的な環境負荷を65%削減、CO2排出量を1000t以下に抑制 FIFAグリーンゴールの6つの課題に対し目標値を設定 	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラルな大会開催 FFAが環境保護(EP)プラン(環境意識の改善、教育、スタジアムの持続可能性の増大)を開発 	<ul style="list-style-type: none"> JFAが実施する「JFAスタジアム環境評価」等により、「環境アセスメント指針」を作成、その評価に基づき「2022年FIFAワールドカップ環境保護計画」を策定 JFAによる環境保護活動：国連グローバルコンパクトへの参加、JFAグリーンプロジェクト、グリーンスタジアム活動、Jクラブによる活動 	<ul style="list-style-type: none"> 政府は気候温暖化防止対策「グリーン成長政策」にGDPの2%を投資 2022年大会は環境及び開催都市にいかなるマイナスの影響を与えない高い可能性がある 	<ul style="list-style-type: none"> 史上初の完全なカーボンニュートラルのWC FIFAグリーンゴール活動の計測可能目標を全て満たす コンパクトな大会により、移動に伴う負荷を低減、国内航空輸送によるCO2排出量を2006年ドイツ大会比33%削減
5)	資金調達と保険 Finance and Insurance	<ul style="list-style-type: none"> GDP成長率：-2.5% (2009年) GDP成長率予測：2.1~2.2% (2010~2018年) 国民所得：USD 26,964 (2009年) インフレ率：-0.4% (2008年) インフレ率予測：1.5%~2% (2010~2018年) 基準金利：3.25% (2009年) 為替レート：USD 1=USD 1(2009年7月) : USD 1=1.0829CHF (2009年7月) 	<ul style="list-style-type: none"> GDP：1兆1020億ドル (2009年) GDP予測：1兆1296億ドル~1兆6361億ドル (2010~2022年) インフレ率：1.8% (2009年) インフレ率予測：2.6~2.5% (2010~2022年) 基準金利：3.5% (短期；2009年) 基準金利予測：4.3~5.2% (短期；2010~2022年) 為替レート：USD 1=AUD 0.768(2009年) : CHF1=AUD0.820 (2009年) 	<ul style="list-style-type: none"> GDP：5兆5409億9000万ドル (2008年) GNI：5兆4510億4000万ドル (2008年) 国民所得：USD 29,430 (2007年) インフレ率：1.4% (2008年) インフレ率予測：0~2% (日銀目安) 基準金利：0.30% (2008年12月) 為替レート：USD 1=95 YEN(2009年12月) : CHF1= 83 YEN (2009年12月) 	<ul style="list-style-type: none"> GDP成長率：4.6% (2010年) 国民所得：USD 20,955 (2009年) インフレ率：2.8% (2009年) インフレ率予測：2.6% (2010-2022年平均) 基準金利：2% (2009年12月) 為替レート：1KRW=USD 1,166.5 (2009年12月) : 1KRW=CHF1,133.9 (2009年12月) 	<ul style="list-style-type: none"> GDP：1023億ドル (2008年) GDP成長率：44% (2008年) 国民所得：USD 93,203 (2008年) インフレ率：0.0% (2009年) インフレ率予測：4.04~3.0% (2010~2022年) 基準金利：5.5% (2009年) 為替レート：USD 1=3.64QAR (2009年) : CHF1=3.507QAR (2009年)
2	招致ブック情報テンプレート / Template					
1)	招致国概要 Overview of Bidding Country	<ul style="list-style-type: none"> 開催都市数：18 人口：3億721万人 面積：9,826,675km² 開催都市間において最大4時間の時差がある 	<ul style="list-style-type: none"> 開催都市数：10 人口：2220万人 面積：7,617,930km² 	<ul style="list-style-type: none"> 開催都市数：11 人口：1億2700万人 面積：377,914km² 	<ul style="list-style-type: none"> 開催都市数：12 人口：4,977万人 面積：99,828km² ※人口、面積の項には韓国、北朝鮮の情報を併記 	<ul style="list-style-type: none"> 開催都市数：7 人口：166万人 面積：11,437km²
2)	開催都市概要 Overview of Host Cities	<ul style="list-style-type: none"> 気温：各都市、各時間帯で15.3℃~40.4℃ (6.7月) 湿度：各都市、各時間帯で11.4~82.8% (6.7月) 降水量：各都市、各時間帯で0.0~0.65ℓ/m² (6.7月) 	<ul style="list-style-type: none"> 気温：各都市、各時間帯で4.6℃~25.0℃ (6.7月) 湿度・降水量：データ無し 	<ul style="list-style-type: none"> 気温：各都市、各時間帯で16.3℃~28.9℃ (6.7月) 湿度：各都市、各時間帯で49.1~90.1% (6.7月) 降水量：各都市、各時間帯で0.0~1.55ℓ/m² (6.7月) 	<ul style="list-style-type: none"> 気温：各都市、各時間帯で20℃~29℃ 湿度：各都市、各時間帯で47~86% 降水量：各都市、各時間帯で1.9~6.5ℓ/m² 	<ul style="list-style-type: none"> 気温：各都市、各時間帯で31.2℃~41.3℃ (6.7月) 湿度：各都市、各時間帯で31.3%~69.8% (6.7月) 降水量：各都市、各時間帯で0.0ℓ/m² (6.7月)
3)	スタジアム Stadiums	<ul style="list-style-type: none"> スタジアム数：18 全て既存スタジアム 全て多目的スタジアム 収容規模：8万~5万、7万~9万、6万~4万 スタジアムの平均収容数：76,067席 	<ul style="list-style-type: none"> スタジアム数：12 新築スタジアム数3 11のスタジアムが多目的スタジアム 収容規模：8万~2万、6万~1万、4万~9 スタジアム平均収容数：46,089席(改修後：55,107席) 	<ul style="list-style-type: none"> スタジアム数：13 新設スタジアム数：1=大阪エコースタジアム(サッカー専用；83,300席) サッカー専用：3/13 収容規模：8万~1万、7万~1万、6万~1万、4万~10 スタジアムの平均収容数：56,110席 	<ul style="list-style-type: none"> スタジアム数：14 新設スタジアム数：1=2014年インチョンアジア大会メインスタジアム(83,600席) サッカー専用：7/14 収容規模：8万~2万、7万~1万、6万~2万、4万~9 平均収容数：54,850席 	<ul style="list-style-type: none"> スタジアム数：12 9スタジアムが新設、既存3スタジアムも改修を予定 全てサッカー専用スタジアム 収容規模：8万~1万、6万~1万、4万~10 スタジアム平均収容数：50,485席 ピッチは天然芝もしくはFIFAの要望に沿う意向

	招致立候補国名	United States	Australia	Japan	Korea Republic	Qatar
4)	開催地指定チームホテル Venue-Specific Team Hotels	・開催地指定チームホテル数：54 ・5星：31 4星：23	・開催地指定チームホテル数：24 ・5星：9 4星：15	・開催地指定チームホテル数：28 ・5星：13 4星：15	・開催地指定チームホテル数：28 ・5星：13 4星：14 3星：1	・開催地指定チームホテル数：24 ・5星：19 4星：5
5)	開催地指定トレーニングサイト Venue-Specific Training Sites	・開催地指定トレーニングサイト数：36	・開催地指定トレーニングサイト数：48	・開催地指定トレーニングサイト数：46	・開催地指定トレーニングサイト数：56ヶ所 ・全56ヶ所中6ヶ所が新設。既存の全てが改修予定	・開催地指定トレーニングサイト数：48 ・29施設が新設、19の既存施設の全てが改修を予定
6)	チームベースキャンプ Team Base Camps	・チームベースキャンプホテル数：64 ・5星：30 4星：34	・チームベースキャンプホテル数：64 ・5星：14 4星：50	・チームベースキャンプホテル数：96 ・5星：23 4星：55 3星：18	・チームベースキャンプホテル数：65 ・5星：11 4星：26 3星：27 2星：1	・チームベースキャンプホテル数：64 ・64ホテル全てが5星
7)	チームベースキャンプトレーニングサイト Team Base Camp Training Sites	・チームベースキャンプトレーニングサイト数：64	・チームベースキャンプトレーニングサイト数：64	・チームベースキャンプトレーニングサイト数：69	・チームベースキャンプトレーニングサイト数：68 ・全68ヶ所中3ヶ所が新設。既存の全てが改修予定	・チームベースキャンプトレーニングサイト数：64 ・39施設が新設、25の既存施設の全てが改修を予定
8)	ホテルルーム数 Number of Hotel Rooms	・ホテル総数：2,237 (584,37室) ・5星：194 (53,572室) 4星：509 (153,455室) 3星：1,534 (377,344室) ※計画含む	・ホテル総数：2,660 (139,29室) ・5星：120 (24,393室) 4星：1,346 (76,471室) 3星：1,119 (36,554室) 2星：75 (1,877室) ※計画含む	・ホテル総数：453 (126,346室) ・5星：93 (37,871室) 4星：139 (36,106室) 3星：221 (53,236室) ※計画含む	・ホテル総数：327 (71,445室) ・5星：69 (32,086室) 4星：64 (15,041室) 3星：194 (24,318室) ※計画含む	・ホテル総数：220 (95,438室) ・5星：61 (21,254室) 4星：102 (50,177室) 3星：57 (24,007室) ※計画含む
9)	宿泊施設概要 Accommodation Overview	・ラックレートはUSD40～USD899の範囲にある ・各開催都市ごとに十分な客室が確保されている	・各ホテルごとに写真の解説があるが、ラックレート契約レート、契約客室数、契約客室割合等のFIFAが要求するデータが示されていない	・ラックレートはUSD45～USD700の範囲にある ・各開催都市ごとに十分な客室が確保されている	・ラックレートはUSD20～USD450の範囲にある ・Daegu:930室、Goyang:1,078室、Jeonju:1,289室など、客室の不足が心配される都市がある	・ラックレートはUSD54～USD602の範囲にある
10)	開催都市間の移動距離 Travel distances between Host Cities	・シアトル=タンパの8h50minをはじめ、マイアミ=サンディエゴ8h5min、マイアミ=フェニックス7h42minなど、航空機利用でも7～8時間以上の移動時間を要する都市がある	・最大の移動時間は、ニューキャッスル=パース間の4h20min (航空機利用)	・全ての開催都市間を概ね3時間以内での移動が可能	・JejuからCheonan、Goyang、Suwonへの鉄道、車、航空、いずれのアクセス時間も示されていない	・開催都市間の移動は、全て2時間以内、航空機の利用は無し
11)	開催都市内の移動距離 Travel within Host Cities	・IBCは、アトランタ(ジョージアワールドコンgresセンター)に設定 ・全ての都市で概ね60分以内にベニュー内移動が可能	・多くの開催都市の都市内移動が約30分以内 ・IBCをシドニー、メルボルンの2都市に設定	・茨城・静岡以外の都市は、空港へのアクセスを除き、概ね60分以内にベニュー内移動が可能	・IBCが各開催都市に設定されている(?) ・Jejuには鉄道駅がなく、最寄の空港は28km/40分の距離にあり、スタジアムへは全て車での移動	・Al-Shamallは、スタジアムから市中心部までの距離があり、移動に60分以上を要する。それ以外の都市は、空港アクセスを除き30分以内で移動可能
12)	輸送インフラ Transport Infrastructure	・スタジアムから主要輸送拠点までの輸送手段は、バスが中心となる	・キャンベラ、タウンズヴィルにはスタジアム周辺に鉄道駅がなく、スタジアムから主要輸送拠点までの輸送手段はすべてバス	・新潟、静岡、大分以外の各スタジアムには、徒歩圏内に鉄道駅があり、輸送処理能力が高い	・輸送処理能力データに疑問が残る(スタジアムから主要輸送拠点までの1時間当りの処理人数が、バス利用のみで30,000人/時間など)	・地下鉄、バスの他水上タクシーが用いられている

	招致立候補国名	United States	Australia	Japan	Korea Republic	Qatar
13)	空港インフラ Airport Infrastructure	・空港数：18 ・すべての空港が夜間飛行制限無し ・各空港の10時間あたりの処理能力は34,000～105,000人	・空港数：12 ・5つの空港に夜間飛行制限あり ・スタジアムのない11都市・11空港についても記載	・空港数：10 ・羽田、成田、中部、関空など5つの空港が夜間飛行制限無し	・空港数：15 ・インチョン空港を除く全ての空港が夜間の飛行禁止	・空港数：1 (New Doha International Airport) ・夜間飛行制限無し ・10時間あたりの到着・出発乗客処理人数：各32,000
14)	フライトコネクション/所要時間 Flight Connections / Journey Times	・ボストン=ナッシュビル間以外、全ての空港間に乗り継ぎ便がある				・開催都市へのフライトコネクションは無い
15)	競技会関連イベント Competition-related Events	・予選抽選会：ニューヨーク、本選抽選会：マイアミ、FIFA晩餐会：ワシントンD.C.、FIFA総会：ダラス	・予選抽選会、本選抽選会：シドニー(オペラハウス)の他、メルボルンの会場も提案 ・FIFA総会も、シドニー、メルボルンの2都市を提案	・予選・本選抽選会：東京国際フォーラム、パシフィコ横浜、FIFA晩餐会：リーガロイヤルホテル大阪、ホテルニューオータニ大阪、FIFA総会：大阪国際会議場	・本選抽選会では、FIFA、PMA、コマーシャルアフェリエイト、メディア、FIFA事務所が全て同一のホテルであり、個別に設定されていない	・予選・本選抽選会：ドーハコンベンションセンター ・FIFA晩餐会：ドーハコンベンションセンター ・FIFA総会：ドーハコンベンションセンター
16)	屋外広告確保 Outdoor Media Reservation	・簡単な記述のみ	・各開催都市ごとに詳細な記述	・スタジアムから半径2km以内など、あまりに範囲が広いため、詳細な記述は避けている	・詳細に回答	・各開催都市ごとに広告メディアの詳細な数量を記述
17)	支出予算 Expenditure Budget	・支出予算：2022WC；USD783,936,000 2021コンフェデ；USD77,523,000 ・年率0.024%のインフレ率を考慮	・支出予算：2022WC；USD639,044,000 2021コンフェデ；USD51,049,000	・支出予算：2022WC；USD796,073,200 2021コンフェデ；USD47,333,400	・支出予算：2022WC；USD1,007,434,000 2021コンフェデ；USD33,148,000	・支出予算：2022WC；USD645,498,000 2021コンフェデ；USD32,134,000
18)	チケット収入見込 Ticketing Revenue Estimation	・チケット収入：2022WC；USD1,239,717,060 ・チケット枚数：4,956,506枚 ・チケット最高/最低価格：USD1,260/140	・チケット収入：2022WC；USD658,220,293 ・チケット枚数：3,019,992枚 ・チケット最高/最低価格：USD1,614/81	・チケット収入：2022WC；USD987,528,000 ・チケット枚数：4,006,051枚 ・チケット最高/最低価格：USD1,000/166	・チケット収入：2022WC；USD564,231,305 ・チケット枚数：3,163,714枚 ・チケット最高/最低価格：USD1,000/20	・チケット収入：2022WC；USD401,561,000 ・チケット枚数：2,868,879枚 ・チケット最高/最低価格：USD800/45

9. 最終プレゼンテーションスピーチ全文

小倉純二委員長スピーチ（英語）全文

Rio, thank you.

President Blatter, dear colleagues.

There is a phrase ...
that we use a lot in our bid.

FIFA WORLD CUP ...FOR THE NEXT GENERATION.

Rio reminds us ...
that these are not just words.

We have a passionate ambition ...
for the people of Rio's generation ...
and beyond,
in Japan ...
and around the world ...
in all 208 FIFA member associations.

We have received FIFA's Evaluation Report.

It raises a number of important points.

We have studied all of these comments very carefully ...
and I want to assure you that all of them are being addressed.

When we talk about our vision ...
for a world cup in 2022 ...

We are talking about the things everyone takes for granted about Japan ...
security, transport, accommodation.
We are talking about our thirteen fabulous stadiums...
in Tokyo,
in Osaka with our fantastic new Next Generation Stadium.

But we are also talking about what will happen in 400 iconic stadiums around the planet ...

we are talking about putting down giant flat bed screens across the entire pitches ...
at Wembley, at Maracana, at the Allianz, at SoccerCity, at Azteca...

we are talking about filling all of those 400 stadiums with crowds ...
gathered to witness something completely new ...
live relay of World Cup Matches from Japan,

played out life size, in 3D, in real time.
We're talking about one very big idea.

More people, in more countries, enjoying football more than ever before.

Our Next Generation World Cup bid ...
is not about one nation hosting the games,
not about two nations hosting the games.

It's about 208 countries and regions -
FIFA member associations -
hosting the games together.

Japan?

We're just the Co-ordinator.

The partner ...
who can enable FIFA ...
to lead this revolution in how the world experiences sport ...
to create a World Cup for the next generation ...
to bring 208 smiles to the world ...
and to leave behind a legacy:

Now I would like to invite Kohzo Tashima ...
Vice President of the Japan Football Association,
And CEO of our bid,
to give you more details about our bid.

Kohzo.

田嶋幸三副委員長スピーチ (英語) 全文

Thank you Mr. Ogura.

[photo]

That was then, But this is now...

I want to talk ...
simply and I hope briefly ...
about just three things.

Our Dream Tour programme.

Our Dream Teacher programme.

And our plan for a world cup experienced in 400 stadiums worldwide.

Together, these make up the heart of our bid.

Our Dream Tour...

means inviting 6000 children from all 208 FIFA member associations ...
to come to Japan ...
to have a great time ...
and to take home the smiles of our Next Generation World Cup ...

5 weeks ago we tried out a Mini Dream Tour.

This is how the kids got on.

[video]

Dream Tour is a very personal project for me - I can't wait!

The Kids' Dream Tour builds on a project which the JFA set up four years ago,
Under the visionary leadership of Mr. Kawabuchi.
Everybody knows.

We call this project Yume Sensei
- Dream Teacher.

Here's another short video to show you how it works.

[video]

The Dream Teacher project works.

When Harold Mayne-Nicholls saw the Dream Teacher programme, as head of the FIFA Inspection Delegation,
he just said four words:

"This", he said,
"is real football."

We plan to have Dream Teachers ...
running kids' workshops ...
at Fan Fest locations around the world.

Imagine every FIFA member association ...
getting this generation's footballers ...
to be Dream Teachers ...
inspiring the next generation.

But we don't just want today's players.

We want to work with FIFA ...
to put FIFA's own legends ...
at the heart of the Dream Teacher programme.

The stories of Pele. of Diego. of Franz and Michel.
The two Bobbies, Charlton and Moore.

So. Dream Tour, and Dream Teacher.

Reaching out to the next generation as never before.

But we want to reach even wider.

Japan will work with the FIFA member associations to set up Universal Fan Fests
In 400 world class stadiums, each with 40,000 plus capacity.
I have the privilege of knowing some of you, and you know that I am a simple footballer.

I am not a technology kind of guy.
But I have to tell you, the idea of this technology blows my mind!

With Universal Fan Fests in 400 locations,
360 million people could have a full stadium experience of the matches.
360 million people...

That's over 100 times the record breaking number of spectators ...
for the 1994 World Cup in the USA.

We have calculated this number carefully.
We know that in Europe, the time zones do not make it easy.
We have assumed only between 30 and 50% capacity in European stadiums for most matches.
We also forecast a dramatic increase in the TV audience from the latest confirmed figure of 26 billion.

Not just because of the new technology, but also because of new audiences. We all know the speed at which
the population of Asia is growing.

That's why 50 billion is the number we estimate hitting with an Asian home for the 2022 World Cup.

This technology means private and public sectors working together...
Japan putting everything we have into it.
All of our innovation, all of our know how.

Every piece of new technology has to have a name.

We have called ours,
"Full Court 3D Vision" and "Freeviewpoint Vision."

But the names are not important.
Even the technology is not important.
What's important is the enjoyment.

A completely new experience of enjoying football ...
for millions,
for billions of fans,
the world over.

This is the magic that will revolutionise the experience ...
the excitement ...
the reach ...
and the revenue potential ...
of world football.

Not only does this mean guaranteeing a much bigger TV licence revenue ...
from the huge audience numbers we predict ...

Over and above this,
the 3D and freeviewpoint vision rights
are completely separate
from the TV rights
and create dramatic additional revenue opportunities.

More people, in more countries, enjoying football more than ever before.
That is the Next Generation World Cup Japan is proposing.

I am honoured to now welcome a long standing friend of Japan ...
and the Chairman, CEO and President of Sony Corporation
Sir Howard Stringer

Sir Howard.

ハワード・ストリンガー氏スピーチ (英語) 全文

Thank you Tashima-San.

It's a real privilege to be here ...
in front of such a distinguished audience.

I am mad about football.
But I have to admit to a shameful fact.
Many, many years ago, at school in England, I was in the rugby team.
Some typically idiotic school rule meant that rugby players were strictly banned from football.
But a group of us would sneak out at weekends for the thrill of kicking a round ball not a funny shaped one.
Yes, I was an illegal teenage footballer.

[looks at team photo]
And that, believe it or not, is me.

So when the bid committee approached me ...
with a request to be part of the team ...

I was thrilled.

I am passionate about football. And I am passionate about Japan.

But I have to confess ...
that my first reaction ...
was to say ? isn't 2022 a little soon?

After all, the 2002 Japan-Korea hosted FIFA World Cup seems like it only happened yesterday.
Or it does at my age!

And I know that some people have the same first reaction to Japan's bid.
Too soon.

Now in my business,
'too soon' is a phrase we have heard many times.

It was 'too soon' to launch the walkman.
What were we thinking about, expecting people to go round listening to music through headphones?

Too soon for Video Camera, for PlayStation.
Too soon for 3D TV. The list goes on.

One of the reasons why I most admire FIFA ...
is that you have had the courage to be pioneers.

In the 1970s,
when people said it was too soon for global commercial sponsorship in sport,

you went ahead.
You lead the world.
And the world followed you.

When you said that football should be for the world ...
not just for Europe and Latin America ...

you lead the world.

And the world fell in love with your beautiful game.

On some occasions, I am proud to say that FIFA and Sony have been pioneers together ?
for example, with the world's first 3D FIFA World Cup earlier this year.

I believe this bid is an incredible opportunity.

For Japan, of course. But also for FIFA,
to lead the world again.

The truth is that the world is changing faster than any of us in this room can fully understand.

In 2022, on current trends there will be at least two billion screens in people's hands - the successors of
today's smart phones, palm tops and the rest -
which will all be able to receive broadcast quality TV.

Think what that means for how, and where, people will follow the World Cup.

But it's not just about making football more accessible for the technology-rich,
for people who can afford the latest gadgets.

It's also about using technology to deliver the thrill of the World Cup ...
to tiny remote villages ...
in the most distant parts of the world, places with no electricity ...
and no TV.

We showed how that could be done in Africa this year...
with big portable screens and solar generators.

Let's make 2022 the year football really touches the whole world.

Just imagine the crowds in 400 stadiums watching matches from Japan...

Not looking up at a big screen ...
but looking down at the pitch, turned into a giant screen.

This is the real change.
Bringing the world closer together.

And I can tell you ...

this is not science fiction.
In 2022, this will be science fact.

Twelve years is a very long time in technology.
Here, today, Japan's FIFA World Cup bid is our opportunity ...

to give something back to FIFA ...
to give something back to football ...
and to give something back to the world.

To strengthen that opportunity ...
with the commitment of the Government of Japan ...

I would now like to welcome Mr Kan Suzuki...
representing the government of Japan on behalf Prime Minister Naoto Kan.
Thank you.

鈴木寛文部科学副大臣スピーチ(英語)全文

Thank you Sir Howard.

I am truly honoured to be here ...
representing the Prime Minister and the Government of Japan.

I have to confess that I am both proud ...
and excited ...
to be here...
in front of the FIFA Executive Committee ...

because when I was at high school ...
I had posters of at least two of you on my bedroom walls!
Mr Beckenbauer, Mr Platini, my childhood heroes.

I still manage to put on my boots from time to time ...
To play midfield for the Japanese Diet Football team.

Five days ago ...
I was in the Japanese Parliament ...
when legislation was presented ...
asking the Government to support our bid and to make all necessary preparations.

That legislation has been passed ...
by a unanimous vote ...
of all 480 Diet members.

I hope that gives you some idea of the enthusiasm ...
the passion ...
for this bid, which will promote world-wide fraternity
I am authorised to give you our government's absolute guarantee that the promises we have made to you...
Political, Financial, Technological...will be delivered in full.
But I would like to go further.
We do not want FIFA to see this commitment as being limited to the official terms of our guarantee.
The Government of Japan wants FIFA to know...that we are willing to accommodate all your needs.

President Blatter,

I know that you received a personal letter from our Prime Minister...
which included the words ...
'See you in Zurich!'

I bring you the Prime Minister's apology for not being here ...
and I hope you understand that recent events ...
make it difficult for him to travel at this time.

I believe that, as Sir Howard has said ...
our bid is an opportunity ...
not just for Japan ...

but for FIFA and for the next generation.

I humbly ask you to choose our bid ...
as your legacy ...
for the World Cup ...
the Next Generation.

I would now like to ask Mr Ogura to close our presentation.

Mr Ogura.

小倉純二委員長スピーチ(英語)全文

Thankyou Mr Suzuki.

FIFA has already given so much to Japan.

Mid way between Europe and Latin America, we successfully hosted the Toyota Cup and the FIFA Club World Cup.

We were co-hosts of the first-ever joint World Cup.

FIFA's mission and responsibility is to take the potential of the World Cup as far as it will go...
for the next generation.

The challenge for FIFA ...
the challenge for football ...
is to identify the next revolutionary idea ...
the next amazing commercial opportunity ...
the next big step.

The challenge for FIFA is to embrace ...
to own...
the technology revolution.

This is an opportunity.
The kind of opportunity which comes once in a generation.
Maybe once in a lifetime.

It's what the world expects of you.
And Japan can make it happen.

Our dream ...
is to be ready for the next generation.

As you can see, we have plenty of dreams for 2022.

You know that our bid includes a lot of future technology.
Sir Howard has already told us this is science fact, not science fiction.

President Blatter, dear colleagues

Our bid is very simple.
Our dream is for a world cup which more people in more Countries will enjoy more than ever before in history.
This is the next great journey which FIFA can take.
This is the next great adventure where FIFA can lead.

This is truly a World Cup...
for the next generation.

This is my dream ...

For the 2022 FIFA World Cup.

Please support Japan.
I would like to thank you for your kind attention.
Thank you all.

That ends our presentation.

10. 2022年 FIFA ワールドカップ™招致評価レポート

10.1 FIFA 評価レポート：日本（和訳）

目次

1. 評価グループ長からの書簡
- 2 対象範囲及び主要日程
3. エグゼクティブ・サマリー
4. 招致提案評価報告
 - 4.1 招致立候補国と開催都市
 - 4.2 開催理念
 - 4.3 サッカーの発展
 - 4.4 持続可能な社会と人の発展
 - 4.5 環境保護
 - 4.6 スタジアム
 - 4.7 開催地指定チームホテルと開催地指定トレーニングサイト
 - 4.8 チームベースキャンプホテルとチームベースキャンプトレーニングサイト
 - 4.9 宿泊施設
 - 4.10 FIFA 本部
 - 4.11 輸送
 - 4.12 情報技術と通信ネットワーク
 - 4.13 安全と治安
 - 4.14 健康と医療サービス
 - 4.15 競技会関連イベント
 - 4.16 メディア設備、通信及び広報
 - 4.17 放送権とマーケティング権
 - 4.18 資金調達と保険
 - 4.19 発券業務
 - 4.20 法的保証と政府保証

附属書 1 国内輸送網（略）

附属書 2 開催都市輸送網（略）

附属書 3 法的リスクの概要

附属書 4 運営上のリスク

この報告書の全てのデータは、2010年5月14日提出された招致ブック、及び2010年9月30日までに招致委員会から受け取った追加的な説明に基づいたものであることに留意願います。

この報告書の英語、フランス語、スペイン語又はドイツ語のテキストの解釈に齟齬がある場合、英語のテキストが優先します。

1. 評価グループ長からの書簡

会長
理事会メンバーの皆様

2018年及び2022年のFIFAワールドカップの招致提案に係るFIFA評価グループは、2022年FIFAワールドカップの開催の日本の招致提案の評価報告書を謹んで提出いたします。二つの共同招致提案を含む9件の招致提案が全て提出されました。以下のページの日本の招致提案に関する評価を事実調査プロセスに関する説明と併せてご覧下さい。

FIFAの招致プロセスは、透明性と公平性の原則に基づいたものであり、招致委員会は、立候補に係る文書を包括的かつ具体的なものとすることを確保するために、FIFAから規則及びガイダンスを受け取っています。

我々は、招致プロセス中に11ヶ国の招致委員会及び人々から受けた温かい歓迎と協力、特に、我々の要件を満たそうとういう決意に大変感謝しています。過去6ヶ月間ともに過ごした間における評価グループのメンバー全員の貢献、エネルギー、専門性及び友情に感謝を表したいと思います。また、このプロジェクトを成功裏に終了させる上で重要な役割を果たしていただいたFIFAの職員にも感謝いたします。

我々は、健全性、客観性及び透明性の精神で、我々の作業を完了いたしました。

ハロルド・メインーニコルズ
2018年及び2022年FIFAワールドカップ招致提案評価グループ長

2. 対象範囲及び主要日程

対象範囲

招致プロセスの一環として、FIFAは、各招致立候補国に、FIFAワールドカップを開催するためのインフラ、法的条件、運営及びレガシーに関する理念を含む招致文書を提供するよう要請しました。この招致提案評価報告書は、招致文書において提供されている情報を評価し、どの程度要件が満たされているかを示すとともに、FIFAワールドカップを開催するためのFIFAの要件との潜在的な相違及びそれに係るリスクを指摘したものです。

この報告書は、これまでのFIFAワールドカップを開催及び準備したFIFAの経験、招致立候補国により提供された情報、提案及び表明、並びに、開催地及び施設のサンプル評価を通じた現場での視察中に集めた情報を踏まえた公平な評価に基づいたものです。

9つの招致立候補国は、提出された招致文書、及び具体的なインフラについて明確化し確認することを目的として実施された視察に基づいて評価されています。

招致プロセスにおける主要日程

2009年3月16日	2018年及び2022年 FIFA ワールドカップ 招致登録
2009年9月18日	招致委員会設立
2009年12月11日	招致契約書署名
2010年4月14日	2018年 FIFA ワールドカップの JFA の招致提案の撤回
2010年5月14日	招致提案文書の FIFA への提出
2010年7月19日～22日	FIFA による日本視察
2010年12月2日	FIFA 理事会による 2018年 FIFA ワールドカップ及び 2022年 FIFA ワールドカップ開催国指名

3. エグゼクティブ・サマリー

日本の招致提案の開催理念は、オーディオ、ビデオ及び情報技術を利用したサッカーの新しいコンテンツ、新しいハイテク・スタジアムの体験、グローバルファンフェスト、革新的なインターネット事業、そして、教育活動の5つの主たる部分から構成されている。招致提案は、全国及び地方のサッカー協会、地方自治体当局（適切に締結された開催都市契約による）、及びスタジアム当局（適切に締結されたスタジアム契約による）によって支持されている。

招致提案においては、11の開催都市と13のスタジアムが提案されており、これは FIFA の12スタジアムの最低要件を上回っている。提案されている13のスタジアムのうち、12のスタジアムは既に存在しており、これらは改築されることになり、また、1つのスタジアムが新たに建設される。スタジアムの建設と改築用には、7億～13億米ドルの予算が見積もられている。8つのスタジアムは、2002年 FIFA ワールドカップで使用されたことによって確認されているように、FIFA の従来の要件を満たしている。しかしながら、2022年 FIFA ワールドカップを日本が開催することになった場合、将来における FIFA ワールドカップのスペースと質の要件を満たすことについて、特別の注意が必要となる。

サッカーの発展という点については、開催提案は、日本及びアジアにおける既存の活動の上に構築しようとしており、また、更なる発展に向けた活動のための収益を生み出すために、例えば、グローバルファンフェストやインターネット事業といった開催理念のいくつかの要素をてこ入れし、商業化することを計画している。日本サッカー協会（JFA）及びJリーグは、全世界において高い評価を受けており、チームは、クラブレベル及び国際レベルにおいて様々な成功を収めている。日本は、最近20年間において国際的なサッカーイベントを開催してきた経験があり、2002年 FIFA ワールドカップ及び2001年 FIFA コンフェデレーションズカップを共催し、また、数回の FIFA クラブワールドカップを成功裏に開催している。

招致委員会は、必要な数の開催地指定チームホテル（VSTH）と契約しているが、必要な数の開催地指定トレーニングサイト（VSTS）と契約していない。招致委員会は、必要な数のチームベースキャンプ（TBC）の

ホテル及び練習会場と契約している。招致委員会は、要件については十分に理解しているものと思われるが、場所によっては、契約済みの適切な施設には、提供数に限りがある。

宿泊施設については、96,000室が既に契約されており、これは FIFA の最低要件である60,000室を上回っている。全体としては、招致提案は、公正な契約により合意された条件で幅広い種類の豊富な客室を提供することを申し出ている。FIFA 本部については、提案しているホテルの契約した客室総数は、700室の要件を満たしていない。オフィス用スペースの考え方に関する追加的な情報が必要である。

日本には、数多くの国際空港及び国内空港、並びに、充実した道路と鉄道のネットワークからなる素晴らしい輸送インフラがある。しかし、ピーク時における輸送能力を増強し、イベントの輸送業務を円滑化するための輸送量削減措置が不可欠である。

また、日本は、強力な情報通信技術（ICT）インフラを擁しており、FIFA の要件を満たしているように思われる。

大規模イベントのための安全及び治安、健康及び医療サービスに関する国際基準も満たされているようである。しかし、政府保証第4号（安全及び治安）の条件の全てが満たされているわけではないことから、安全と治安の理念の実践は完全には保証されていない。

招致委員会は、持続可能な社会と人の発展に向けての活動及び、環境保護計画に関する招致委員会としての理念を提出した。

招致委員会は、大会関連イベントとして適切な提案も提出している。

マーケティング、メディア及びコミュニケーションの問題にも対応している。招致ブックにおいて提供されている情報によれば、日本では大規模なイベント及びサッカーのスポンサーシップの市場は十分に確立され発展しているようである。しかし、必要な保証として、政府保証第6号（商業的権利の保護及び利用）の一部としては、保証及び確認が提供されておらず、FIFA の全体としての商業プログラムは、保証することができていない。FIFA ワールドカップが日本で開催された場合、テレビ収入が減少し、その結果、ヨーロッパでの商業的な利益が減少するリスクがある。想定されるヨーロッパでの収入の喪失を相殺するためにアジア・オセアニアからの収入が大幅に増加することが必要であろう。

招致委員会は、2021年と2022年の FIFA コンフェデレーションズカップと FIFA ワールドカップについて、8億4340万米ドル（経常）の支出予算を提出している。この予算は、根拠となる情報を添付することなしに、所定のフォーマットで提出されたものである。販売可能なチケットを約3,280,000枚と予測している。

日本が開催権を得た場合、FIFA の法的リスクは、中程度のもののように思われる。政府保証及び政府宣言は、

政府文書に関する FIFA の要件を遵守しては提供されていないことから、必要な政府の支援は、確保されていないが、日本政府は、大規模なスポーツイベントの開催及び準備を支援してきた経験があり、主要な許可を提供し、イベントの開催者の懸念に対応する意図は証明されており、また、必要な政府保証及び法令を制定する意図を表明している（期限を受け入れていない）。また、契約文書に関する要件は満たされている。

4. 招致提案評価報告

招致立候補登録において FIFA が設定した要件に応じて、日本サッカー協会（JFA）は、招致プロセスを取り扱う招致委員会を設立した。招致文書は、2010年5月14日、FIFA 会長に提出された。視察訪問は、2010年7月20日から22日まで実施され、FIFA 視察団は、合計で約71時間日本に滞在した。

視察訪問は良く構成されており、包括的な情報が提供された。日程には、大阪と東京が含まれていたが、大阪では、視察団は、開幕戦と決勝戦の会場として建設されるスタジアムに関する情報を受け取った。また、視察団は、FIFA 総会の会場候補、FIFA ファンフェストの会場候補、チームベースキャンプの候補、国際放送センター（IBC）の場所の候補、及び、FIFA 本部のホテル候補も訪問した。東京では、グループステージのスタジアムの一つである埼玉スタジアム2002、チームベースキャンプのホテル、及び、予選抽選会と本大会組み合わせ抽選会の会場候補を視察した。この施設訪問中の所見は、以下の招致提案評価報告書に含まれている。

4.1 招致立候補国と開催都市

招致立候補国に関する一般的な情報

日本の人口は約1億2700万人である。日本の時間帯は、UTC+9であり、夏時間は実施されていない。同国の公式言語は日本語である。

日本は、立憲君主を擁する議会制民主主義であり、天皇の権限は、外交的な機会のみで制限されている。権力は、主に、政府の長である日本の首相、及び、選挙で選出される衆議院と参議院からなる国会（二院制議会）の選挙されたその他の議員が持っている。

日本の地方政府は、県と市町村という二段階で構成されている。同国は、47都道府県に分かれており、都道府県それぞれは、多数の市町村から構成されている。市町村には、市、町、村及び特別区の4種類がある。全ての都道府県及び市町村政府には、議会、行政機関及び選挙された長がある。地方政府は、それぞれ火災、防災及び災害対応、環境問題、保健及び福祉、インフラ、産業及び労働について責任を負っている。地方政府は、市民に直接サービスを提供しており、それぞれの域内の市、町及び村の管理について責任を負っている。

FIFA ワールドカップが、国及び地方の両方のレベルに影響を及ぼす大規模なスポーツイベントであるという事実に鑑み、日本政府の内閣は、招致計画全体を承認している。さらに、2022年 FIFA ワールドカップ日本招致委員会及び開催候補都市の地方政府両方の代表からなる「2022年 FIFA ワールドカップ招致連絡協議会」が設立されている。世界的な経済大国である日本は、名目国内総生産（GDP）では世界第二位であり、購買力平価では第三位である。また世界第四位の輸出国であり、世界第五位の輸入国である。銀行、保険、不動産、小売、運輸、電気通信及び建設が全て主要な産業である。2009年の一人当たり GDP は、約32,500米ドルであり、推定失業率は5.1%であった。

開催都市に関する一般的な情報

北から南に向かって記載されている FIFA ワールドカップの11の開催候補都市は、札幌、茨城、埼玉、東京、横浜、新潟、静岡、豊田、大阪、神戸及び大分である。日本の気候は、北と南では大きな違いがあるが、平均気温は22℃から25℃、湿度は60%から80%の間であり概ね温暖である。同国は、地理的特徴に基づいて、6つの主要な気候圏に分類されている。北海道、中央高地及び瀬戸内海は、温暖な気候で、一週間の降雨量は適度であるが、日本海及び太平洋側、並びに、琉球諸島は温暖、亜熱帯地域であり、特に、台風が頻繁に来る5月から7月半ばまでの雨の多い季節には、激しい降雨があり得る。環太平洋火山帯上に位置する日本では、3つの構造プレートが交差しており、頻繁に軽度の地震があり、まれに火山活動がある。

主要行事

6月と7月のトーナメント期間中に行われるトーナメントの運営に影響を及ぼし得る国民の休日、祝祭日又は主要なスポーツイベントは存在しない。

4.2 開催理念

日本は、208の加盟協会のできるだけ多くの人々に FIFA ワールドカップを提供するための5つの主たる提案に重点を置いた包括的かつ十分に構成された開催理念を提供している。招致提案には、(ビデオ、オーディオ及び情報通信技術を使った)新しいサッカーの概念、(日本の超臨場感技術を使った)新たなスタジアム体験、及び、(FIFA のハイパーアプリケーションの形態での)最新の技術によって可能になった革新的なインターネット事業を提供することによってサッカー及びその周辺にサービスを拡大する提案が含まれている。全世界の208の加盟協会の約400カ所の会場で実施されるユニバーサルなファンフェストを中心とした教育活動は、多くの人々に FIFA ワールドカップを体験するチャンスを提供するよう実施されることになる。この技術革新は3億6000万の人々に行き渡り、世界中でのサッカーの宣伝及び発展に積極的な効果があるものと見込まれている。

日本は、かなりの国際的なサッカーイベントを開催してきた経験があり、2002年 FIFA ワールドカップ及び2001年 FIFA コンフェデレーションズカップの共催に成功し、また、複数回の FIFA クラブワールドカップ、1993年の FIFA U-17 世界選手権及び1979年の FIFA ワールドユース選手権を開催している。

日本が開催権を得た場合、FIFAの商業権プログラムとの整合性及び統一性を確認するために主たる提案の更なる分析が必要となろう。詳細については、開催契約第19章を参照されたい。

4.3 サッカーの発展

日本は、全世界におけるサッカーの発展に貢献し、それによって、既にアジアで実施されている活動を強化及び継続する方法に関する素晴らしい提案を提出している。招致提案は、日本及びアジアにおける既存の活動の上に構築しようとするものであり、また、更なる発展に向けた活動のための収益を生み出すために、例えば、グローバルファンフェストやインターネット事業といった開催理念のいくつかの要素をてこ入れし、商業化することを計画している。しかし、広範な開発プログラムの実施方法及びそのための資源に関して提供されている内容は不十分である。招致提案には、「208 Smiles プロジェクト」が言及されているが、その目標には次のものが含まれている。

- a) 最高の施設にコーチとチームを迎え、女子サッカーを発展させること。
- b) FIFA女子ワールドカップを開催すること。
- c) JFAのドリームアジアプロジェクトを拡大すること。
- d) スポーツと健康に関する計画を支援すること。
- e) FIFAとシニアサッカートーナメントを開催すること。
- f) ユニバーサルファンフェストを通じて、世界中に普及レベルのサッカーを広めること。
- g) FIFAと障害者サッカー競技大会を開催すること。

JFAとJリーグは、そのサッカーの発展活動によってアジア及び世界中で高く評価されている。JFAは、長年にわたりアジアにおけるサッカーの発展を促し、多くの加盟団体と経験を共有し、AFCプロフェッショナルリーグプロジェクト、JFAのドリームアジアプロジェクト、並びに、有資格指導者及び審判インストラクタープログラム等の積極的な影響を持つ発展のための事業活動を行っている。招致提案における国際的発展に関する提案の影響を最大化するためにFIFA/MA共同発展委員会を設立することが必要となろう。

4.4 持続可能な社会と人の発展

提供された情報は完全であり、FIFAワールドカップに関連する持続可能な社会と人の発展のための計画が幅広く記載されている。

招致提案は、FIFAワールドカップによって、利害関係者全員が、企業の社会的責任（CSR）活動に参加することが可能になることを想定している。かかる活動の主要な社会的側面は、貧困と差別を防ぎ、社会的調和を生み出すための子どもの教育、成人の肥満、糖尿病、心臓病及び高血圧の予防に重点をあてた健康の促進、

ユニバーサルファンフェスト及びワークショップを通じて社会的な問題への対応についての認識を高めるコミュニケーションである。プログラムの対象範囲は、国内については健康関連要素が主であり、また、世界的にはコミュニケーションの要素が主なものとなる。

招致ブックでは、JFAが国連グローバルコンパクトへ参加していることが言及されているが、提案の認識向上部分を実践するその他のパートナーの候補については明示的には言及されておらず、政府機関（例えば、日本の国際協力機構）の関与については触れられていない。継続中のJFAこころのプロジェクト（教育）、Jリーグ介護予防事業（健康）、及び、208 Kids' Dreams（若者のワークショップ）が、プロジェクトの具体的な例としてあげられている。持続可能な社会と人の発展のための提案されているプログラムは、現在のFIFA CSR戦略及び計画と極わずかに関連性があるにすぎない。

招致提案では、JFAの現在のCSR計画に密接に関係した若干の重点分野及び計画のみを中心とした積極的かつ善意に基づいた提案が提供されている。しかし、こうした計画を統合するために必要なプロセス及び資源は、詳細には提示されていない。

潜在的なリスクとしては、プログラムの国際的な要素が、短期的な影響を伴うコミュニケーションキャンペーンのみになってしまう可能性があること、並びに、FIFAワールドカップの持つ力及びそれによって生み出される関心を考慮すると、プログラム全体が、他の社会的問題について世界的に展開するためには、十分には野心的ではない可能性があるということである。

4.5 環境保護

日本は、要請されたあらゆる点について、JFAの現在及び過去の環境活動を含め、明確かつ簡潔な情報を提供している。

LOCは、環境専門家のアドバイス、及び環境省とJFAが編集したスポーツイベントの二酸化炭素排出の評価及び削減マニュアルに基づいて環境への影響を評価し、また、FIFAワールドカップに関係する環境保護に関する全体的な計画とガイドラインを作成することになる。プロジェクトには、スタジアムのクリーンアップ、無料の公共輸送機関、及び、飲食品用の再利用可能な容器が含まれることになる。また、招致委員会は、全ての炭素排出輸送機関を削減しようとしている。

JFAは、環境の原則に取り組む国連グローバルコンパクト及びチャレンジ25キャンペーン（地球温暖化を防ぐための政府のキャンペーン）に既に参加している。さらに、JFAは、スタジアム・クリーンアップ・キャンペーン、及び、学校や公園に芝生を植えるためのグリーンプロジェクトを実施している。関係省庁、国内及び国際的な機関、地方政府、環境研究グループ及び地方の環境グループからなる環境諮問委員会による指針を踏まえ、LOCの環境管理部門は、提案されている環境保護計画を実施することになる。提案されている

活動を実施するために必要な資源、及び、スケジュールは、詳細には提示されていない。また、6つのコア分野の目標は明確に説明されているが、数値化が行われていない。

招致ブックによれば、JFA は、既に環境問題に積極的に取り組んでおり、日本において環境プロジェクト及び環境キャンペーンを展開した豊富な経験がある。JFA は、日本政府や様々な国内の利害関係者とのみならず、全世界において豊富な経験を有する国連環境計画（UNEP）とも作業を行うことになる。しかし、提示されている基本理念は、FIFA ワールドカップの世界的な重要性に見合った全ての開催分野において環境プログラムを実施するには不十分である可能性がある。

4.6 スタジアム

分析及びコメント

- 全てのスタジアムは、105x68メートルのピッチサイズの要件を満たしている。
- 全てのスタジアムは、芝のピッチになる。
- 12の既存のスタジアムは、2016年から2019年に改築されることになり、その設計段階は2014年に開始される。
- 大阪エコ・スタジアムは、2014年から2019年の間に建設され、その設計段階は2010年に開始される。FIFAの要件が満たされることについての保証が与えられている。
- 現在、13のスタジアムのうち9つのスタジアムがFIFAの照明に関する最低要件（2,000ルクス）を満たしていない。
- 最新の施設と技術（例：映像、カメラ、音響）が全てのスタジアムに設置される。
- 大阪エコ・スタジアムでは、開幕戦と決勝戦が開催される。
- 大分と新潟のスタジアムは、市の中心部との連絡は主としてバスに依存することになるが、これは、一時的なイベント輸送業務にとって課題となり得る。
- 11のスタジアム（大阪エコ・スタジアムと大分を除く全て）は、現時点では様々な構成グループ（VIP、メディア）のためのFIFAの座席要件を満たしていないようである。
- 5つのスタジアム（埼玉スタジアム2002、国立霞ヶ丘競技場、ユニバー記念競技場及び大分スポーツ公園総合競技場）は、現時点においては、FIFAの駐車場に関する最低要件を満たしていないようである。
- 総じて、スタジアムは、FIFAのスペース及び技術的な要件を満たすために改修することが必要である。

現地輸送

スタジアムは、国内に平均的に分散しており、関係都市間には多数の輸送機関の路線が存在する。全般には、インフラ及びスタジアムと市の中心部を結ぶ公共交通機関は、観客を迎える良好な状態を確保するためには十分なように思われる。しかし、追加的な一時的なイベント輸送業務、及び、交通量削減措置が必要となり得る。

スタジアムとの契約上の根拠

一方的に締結されたスタジアム契約は、13の全てのスタジアムから提供されている。スタジアム契約は全て、一切の変更なくスタジアム契約のテンプレートに完全に従ったものである。

結論

招致提案においては、11の開催候補都市と13のスタジアムが提案されており、これはFIFAの最低要件を上回っている。提案されている13のスタジアムのうち、12のスタジアムは既に存在しており、これらは改築されることになり、また、1つのスタジアムが新たに建設される。スタジアムの建設と改築用に、7億～13億米ドルの予算が見積もられている。スタジアム内部の構成及びインフラを分析した結果、例えば、埼玉スタジアム2002には、各種構成グループを受け入れるために利用できるスペースが限られていることについてのいくつかの疑問が生じる。同様に、一時的なイベント用の構造物を収容するには、ほとんどのスタジアムの内部及び/又は周辺エリアにおいてスペースが足りないように思われる。例えば、計画中の大阪エコ・スタジアムの周りのエリアは限定的であるように思われる。8つのスタジアムは、2002年FIFAワールドカップで使用されたことによって確認されているように、以前のFIFAの要件を満たしていた。しかしながら、2022年FIFAワールドカップを日本が開催することになった場合、将来におけるFIFAワールドカップのスペースと質の要件を満たすことについて、特別の注意が必要となろう。

4.7 開催地指定チームホテルと開催地指定トレーニングサイト

招致ブック及び関係文書は、提案されている全ての開催地指定チームホテル（VSTH）及び開催地指定トレーニングサイト（VSTS）に関する基本的な情報を提供しており、それぞれが施設のクオリティー、場所及び実施経験に基づいて選択されたものであることが明記されている。招致提案では、28のVSTHが提案されているが、これは、13の試合会場についての招致委員会の計画に基づく必要な数を上回っている。しかし、提案されているVSTHのうちの2つは、チームベースキャンプ（TBC）ホテルとしても提案されているものであり、従って、その数は26まで減少することになるが、これは、必要な数に丁度あうものである。宿泊施設には、四つ星及び五つ星のホテルも均等にバランス良く含まれている。招致ブックの情報テンプレート6において提供されている詳細によれば、一カ所の開催地につき2つのVSTHが提案されているが、例外として、東京、大分及び大阪は、四つ提案されている。豊田及び大分それぞれ1つの合計2つのVSTHは、現時点においては、十分な数の客室を提供していない。また、大分の2つのホテルのうちの1つは、水準に違いがあるため、調整が必要となる可能性がある。

招致提案は、46のVSTSを提案しているが、これは13の試合会場用の招致委員会の計画に基づいて必要となる52カ所には6カ所不足している。さらに、VSTS候補のうち4つは、TBCトレーニングサイトの候補でもあり、従って、この数は更に減少する可能性がある。4カ所の開催地では、VST候補のうちの2つについては、ピッチが同じ運動施設のグラウンド上にあるようであり、この状態は、近すぎるという懸念を生じ

させるものである。茨城（60km）、及び、おそらく東京のうちの1カ所（26km）を除き、VSTS 候補は全て、VSTH からの距離は、必要とされている20分以内にあるようである。いくつかのVSTSの投光器の能力は、現時点においては、500ルクスというFIFAの最低要件に適合しておらず、また、いくつかのVSTSは、十分な観客スタンドがないが、招致ブックは、招致が成功した場合、開催契約に記載されている仕様は全て満たされることを示している。VSTSのほとんどが、10年以上経つものであることから、多くのサイトは、2022年までに改修/修繕が必要になるものと推定される。VSTSの改修にかかる可能性がある費用は、予算においては安く見積もられているように思われる。

結論としては、招致提案はTBCホテルの再配分が未決定であることを前提に、VSTHに関する最低限の招致要件を満たしているようである（2つのVSTHが、TBC施設として二重にカウントされている）。しかし、VSTSは、必要な数に足りていないが、開催地1カ所につき3つのVSTSという最終的な選択基準は満たすことができそうである。4カ所のVSTSは、TBC施設として二重にカウントされており、いずれにするのかを明確化することが必要になろう。また、更に4カ所のVSTSは、他のVSTS候補と近すぎるという問題が生じる可能性がある。最後に、VSTS候補は、残りのVSTSの全ての改修が実施されることを条件として、クオリティの要件は満たすであろう。

契約上の根拠

必要な26のVSTHのうち、招致委員会は、26カ所と契約している。必要な52のVSTSのうち、招致委員会は46カ所と契約している。招致委員会によれば、ホテル契約は全て一切の変更なしに該当するホテル契約のテンプレートを完全に遵守したものである。トレーニングサイト契約は全て一切の変更なしに、トレーニングサイト契約のテンプレートを完全に遵守したものである。

4.8 チームベースキャンプホテルとチームベースキャンプトレーニングサイト

招致ブック及び関連文書は、チームベースキャンプ候補についての基本的な情報を提供している。招致提案は、87のチームベースキャンプ（TBC）ホテルと、71のTBCトレーニングサイトを提案しているが、これは、事実上、重複なしに最高71組のTBCのホテルとトレーニングサイトの組み合わせを提供するものであり、この数は、FIFAの64組の要件を上回っている。しかし、この数字には、VSTHとVSTSのリストにも掲載されている2つのホテルと4カ所のトレーニングサイトが含まれており、このため総数は少なくなる可能性がある。TBCは、64都市に分散しており、その多くは、2002年FIFAワールドカップ中にも使われたものである。宿泊施設には、三つ星、四つ星及び五つ星のホテルも均等にバランス良く含まれている。

ホテルの平均客室数は、178室であり、これは、多くのチームが必要とするよりも多い。87のホテル候補のうち29は、100室未満のものである。しかし、2つのホテルには24室しかなく、これはおそらくチームの代表団を収容するには小さすぎるであろう。TBCトレーニングサイトとTBCホテルの間の距離は適切であり、大半は10キロ未満しか離れていない。トレーニングサイトの規模、投光器の強度、及び、トレーニングサイ

トの施設は、全般的には、開催契約に従ったものであり、また、招致委員会は、招致が成功した場合、全ての要件が完全に満たされることになることを保証している。トレーニングサイトは、その大きさ、経年数という点では様々であり、これから建設しなければならないものもいくつか含まれている。結論としては、招致ブックにおいて提供された情報は、相互に車で20分以内の距離にある質の高いホテルとトレーニングサイトを確保するというFIFAの要件に適合しているようである。

契約上の根拠

招致委員会が契約しているTBCホテルの数は、必要な数の64を上回っている。招致委員会が契約したTBCトレーニングサイトの数は、必要な数の64を上回っている。招致委員会によれば、ホテル契約は全て一切の変更なしに該当するホテル契約のテンプレートを完全に遵守したものである。トレーニングサイト契約は全て一切の変更なしにトレーニングサイト契約のテンプレートを完全に遵守したものである。

4.9 宿泊施設

日本は、開催候補都市の市内及び周辺の利用可能な客室に関する正確かつ透明性のある情報を備えた明確で良く整理された宿泊施設計画を提案している。日本のホテル部門は、年間800万人の外国人来訪者に宿泊施設を提供している多くの伝統的な企業から構成されている。

招致委員会は、質及び数の両方においてFIFAのイベント要件を満たすバランスのとれた宿泊施設を申し出ている。実際には、日本は、既存のホテル在庫で全ての構成グループを収容することができそうである。東京と静岡で、若干の新たな建設プロジェクトが計画されているのみである。合計で、127,000室以上が掲載されている。ホテルが最も集中しているのは、開催候補都市のうち東京、大阪及び札幌の市内及び周辺である。

招致委員会は、関係する全ての都道府県で契約に署名しており、利用可能な宿泊施設は、FIFAの基準を大きく上回っている。合計で、全国で96,000室以上が既に契約上保証されており、これらの契約のFIFAの要件との適合性は、サンプル評価によって確認済みである。この数は、必要な60,000室を上回っている。平均で全てのホテルの客室在庫の77%が契約上保証されているが、FIFAホテル契約のテンプレートでは、各ホテルについて80%とすることが義務付けられている。

宿泊施設計画は、新しいホテルの建設に依存する必要がなさそうである。東京と大阪では、利用できる客室が多いが、これは、埼玉等の小規模な開催地にとって助けとなるものであり、また、大阪のIBC用の宿泊施設等の追加的なイベント需要を満たすものである。東京と大阪において契約上保証されている客室の数は、FIFAワールドカップ決勝戦を開催するためには十分であり、また、サポーター及び来訪者用の十分な収容力も残されている。同様に、札幌、豊田及び横浜における契約上保証されている客室数も、FIFAワールドカップの開戦用として現在予想されているイベント用客室照会数を上回っているが、サポーター用の収容力には限りがある。全ての開催候補都市には、グループリング用として契約上保証された十分な数の客室がある。

全国では、幅広い宿泊施設が利用可能であり、それらは主として三つ星から五つ星、及び、若干の二つ星の物件も含まれている。標準的な客室に基づいた現時点で合意されている宿泊料の平均価格は、次のようになっている。

五つ星は、425米ドル（東京）から129米ドル（茨城）

四つ星は、196米ドル（横浜）から142米ドル（神戸）

三つ星は、97米ドル（東京）から61米ドル（大分）

招致ブックによれば、客室料は安定しており、大規模なイベント際の需要の増加によってほとんど影響を受けることはない。この価格政策の信頼性は、FIFAのホテル契約を受け入れている日本のホテル側の割合が高いことによって実証されているが、これは、FIFA及びパートナーを、膨大な宿泊料や不公正な条件から守るものである。要するに、招致提案は、FIFAの宿泊施設の要件を満たしており、公正で契約上合意されている条件による広範かつ豊富な客室の供給に基づいたものである。

4.10 FIFA 本部

招致委員会は、FIFA本部用のホテル及びFIFA VIP用ホテルをそれぞれ一つずつ提案しており、両方について十分な情報を提供している。FIFA本部は、決勝戦の開催都市にあるホテルニューオータニ大阪になる。このホテルには、525の客室がある（そのうち360室が契約されている）。VIP用ホテルは、リッツカールトン大阪であり、このホテルには292の客室がある（そのうち235室が契約されている）。FIFA本部のホテルは、FIFA総会の会場と極めて近い位置にある。また、大阪エコ・スタジアムからはわずか5kmであるが、関西国際空港からは52kmある。

FIFAは、8,000㎡のオフィススペースを必要としている。提供されている情報によれば、ホテルニューオータニ大阪の4,283㎡の会議用スペースが、18の会議室におけるオープンプランのオフィス用に留保され、残りの3,720㎡は、客室をオフィススペースに転換することによって利用可能になる。しかし、客室のオフィススペースへの転換は、FIFAの要件を緩和するものではない。結論としては、候補ホテルの契約済みの客室総数は、700室の要件を満たしていない。オフィス用スペースの考え方に関する追加的な情報が必要である。

4.11 輸送

全国レベルでの輸送

日本は、国内の輸送インフラの概要、輸送戦略案、及び、データ・地図集の3つの主たる部分からなる明確かつよく整理された輸送に関する文書を提出している。日本の地上輸送インフラは、日本の隅々まで全体で2,000kmをカバーしている。2010年現在、高速鉄道である新幹線は、いくつかの開催候補都市を直接結んでおり、列車は、時速300kmまで達する。開催候補都市間では多数の新たな新幹線の路線の建設が続いてお

り、2020年には完成している予定である。この結果、ほとんど全ての開催候補都市間で高速で信頼できるサービスが提供されることになる。日本では、全国に広がる約9,000kmの自動車道からなる発達した高速道路網が既に運用されている。11の開催候補都市のうち9都市は、半径250～300km以内に位置しており、この結果、道路での平均移動時間は、3時間から3時間半である。同国が長く伸びた形状をしていることにより、札幌と大分は、他の主要な開催候補都市からは遠く（それぞれ750～800km、及び、600～650km）、移動時間は長時間となる。

開催都市レベルでの輸送

招致委員会は、試合日の開催候補都市内の無料の公共輸送サービスに基づいた全体的な輸送の戦略と理念を提案している。試合後4時間、必要な場合には24時間のシャトルバスの運行を含む柔軟性のある公共輸送サービスの提供は、輸送関連の環境への影響を最小化し、二酸化炭素の排出を減少させるものである。排出ゼロの電気自動車及び低排出のハイブリッドバスが競技大会中、いくつかの構成グループに対し公式自動車として提供されることになる。

全般的には、開催候補都市のインフラは、全国における良好な状態を反映したものである。13のスタジアムのうち11のスタジアムは、2つの主要なクラスターにあり、このため、互いに2時間の移動時間で行き来することができる。

- 東京、横浜、埼玉及び茨城は、相互の移動時間と距離が比較的短いことからまとめて考えることができる。これらの都市は、それぞれ独自の飛行場と、新東京国際空港への良好な接続という2つの空港のオプションを提供している。こうした都市のスタジアムは全て、市の中心部から10～15km以内の場所にある。こうした問題になっているスタジアムは全て、少なくとも地方の鉄道路線に接続されており、また、近くに新幹線、及び、高速道路へのアクセスがある場合もある。
- 大阪、神戸及び豊田（列車で1時間の距離）も、まとめて考えることができる。上述の通り、スタジアムは比較的都心部に近く、このため、主要な飛行場や駅への連絡も容易である。
- 新潟と札幌（2020年までに新幹線網に接続される予定）では、スタジアムは都心にあり（半径5km以内）、また、都市部の交通網も良く発達しており、鉄道及び/又は地下鉄の路線が、スタジアムと都心及び主要な会場（FIFAファンフェスト、主要なホテル地区及びその他の会場）を結んでいる。
- 大分と静岡の市内及び周辺の輸送インフラはそれほど良く発達しているわけではない。大分は、飛行場から遠く（約60km）、また、新幹線の接続はない。このため、現地/地方の鉄道及び自動車道のみアクセス可能である。静岡は、東京と大阪・神戸という巨大都市圏の間にあるとはいえ、主たる鉄道の駅及び空港から容易に到達できる範囲にはない。さらに、都心と主要な大会関係の会場が、主たる宿泊施設がある場所とスタジアムから若干距離があるところに位置している。

航空輸送

日本は、空港の状況についての明確な情報を提出しており、国際的な航空輸送ハブ及び国内航空市場の状況についての包括的な概観を提供している。

日本には、全国に分散している4つの国際空港があり、これらの空港は、大会中、海外からの来客を迎えるための完全な装備を整えている。東京地区には、羽田東京国際空港（HND）と成田国際空港（NRT）があり、後者は、2009年に拡張され、高速鉄道システム（成田スカイアクセス）により30～40分で東京に接続されている。一方豊田と静岡は、中部セントレア国際空港（NGO）があり、大阪と神戸には、関西国際空港（KIX）がある。これらの4つの主要な国際空港はいずれも、試合の前後10時間における十分な旅客処理量がある）に加えて、国内の約90の空港が国内線のサービスを提供している。開催候補都市間で最長の距離は、札幌と大分間であるが、これは、ほぼ3時間半かかるが、開催候補都市間の平均は2時間を下回っている。

現時点では、羽田東京国際空港だけは、現在から2022年の間に修復が実施される予定である。この修復によって、試合の前後10時間の現在の処理能力が、到着・出発旅客14,000人分増えることになる。

開催候補都市では、大分、神戸、静岡そして新潟のみに小規模な空港があるが、これらの空港の年間旅客者数は、約300万人である。しかし、招致提案では、大会中、こうした空港の全てが、チャーター便及びプライベートジェットの発着を処理するよう整備されることになり、試合の前後10時間は十分な処理が可能になり、包括的な航空輸送網が確保されるとしている。

張り巡らされた新幹線網は、大分を除く全ての開催候補都市における航空輸送にとっての適切な代替輸送手段である。なお、大分についても、日本で最も交通量の多い飛行場の一つである福岡空港から120kmも離れていない。

結論

全体として、日本には素晴らしい輸送インフラがある。4つの主要な国際空港は、全国に分散して配置されており、これによって、イベント中の来訪者の到着が容易になる。さらに、隅々まで行き届いた道路と高速鉄道網は、国内の信頼できる輸送手段を提供している。スタジアム間を地上輸送手段で2時間以内の移動時間で行き来できる主要な都市のクラスターが2つ存在する。しかし、ピーク時における輸送能力を増強し、イベントの輸送業務を円滑化するための輸送量削減措置が不可欠である。長時間の移動時間を必要とするのは、札幌と大分だけである。

附属書1－国内輸送網（略）

附属書2－開催都市輸送網（略）

4.12 情報技術及び通信ネットワーク

提出された文書は、極めて詳細というものではないが、主要な情報通信技術（ICT）の要件を全て幅広くカバーしている。同文書は、日本における現在及び計画されているITインフラについて、商業的及び法的な側面、並びに、競争という点における市場の状況をもカバーしつつ説明している。また、同文書には、ユビキタスネットワークストラクチャを創設するための「u-Japan」戦略について記載されているが、これは、どこでも、いつでも、なんにでも、誰でも容易にアクセスすることができるというもので、FIFAの構成グループの多くのニーズをも満たすものである。日本におけるインターネットの浸透度は、ブロードバンドの利用可能性、インターネットのユーザー数、インターネットを使用している世帯、及び、インターネットを使ったサービスという点では高い。光ファイバーは、ほとんど全国で利用可能であり、既に、全開催候補都市で利用可能になっている。固定電話網及び携帯電話網は、全ての大会の開催地で利用可能であり（例：チームベースキャンプ、スタジアム、ホテル）また全国に固定電話の固定料金制がある。日本と外国との間の光ファイバー通信容量は、日本と米国との間の海底ケーブルである「Unity」の開設後は、ほぼ13.18Tbpsとなる予定である。

日本は、10基の電気通信及び放送衛星をもっているが、これらの衛星は、国際放送のバックアップ又はサポートとして活用することができる。周波数は、総務省により規制されているが、総務省は、2002年 FIFA ワールドカップ及び1998年冬期オリンピック競技大会においてこの分野での経験がある。携帯電話市場は、競争が激しく、5つの主要な会社から構成されている。特定の領域における独占の状態を防ぐために商法が施行されている。

提供された情報の中には、例えば、固定電話の100%カバー率や、全国的な定額制等、後の段階において確認を要すべきものもある。また、来訪者が、外国の携帯機器を日本で使用できるかどうかについては更なる詳細な情報が必要である。電子マネーのソリューション（例：チケット販売又は公共輸送機関）に携帯機器を統合するという招致提案は、現実的ではない可能性がある。しかし、日本は、ICTにおける世界のリーダーの一つであり、インフラの継続的な向上を通じてその地位を達成しており、このことは、日本の将来の計画に信頼性をもたらすものである。

日本は、強力な（ICT）インフラがあることが一般に知られている。しかし、提案は、FIFA ワールドカップのICTの全ての要件に対応することについては十分に詳細なものではない。文書では、こうしたイベントにおける日本の経験が強調されているが、インフラをどのように強化するかについては十分な説明がなされていない。しかしながら、招致提案において記載されている多くの能力や、日本の国際接続性の余地は、イベントの要件に沿ったものであるものと思われる。しかし、ICTの実施に対する完全なサポートは、必要な保証、約束及び確認が政府保証第7号の一部として提供されていないことから、確保されていない。

4.13 安全と治安

招致ブックは、FIFA ワールドカップで予想される治安の理念に関する全ての要素についての短い簡潔な概観を提供している。この理念は、全国及び開催地固有のレベルの双方における全関係者のニーズに対応したものである。

招致提案では、国際テロ活動の問題についてオープンに取り扱われており、また、警戒態勢にある全ての当局を取り込んだ統合的なアプローチを予定しており、更に、国際機関やこの分野におけるその他の主要なプレーヤーとの幅広い協力も含まれている。この概観は、一般的な要件及び具体的な要件の両方に対応したものであり、治安上の観点から FIFA ワールドカップの円滑な開催にとって関係がある全ての分野について簡潔に検討したものである。

政府の治安体制に関する有益な情報でふくらんでいる招致ブックは、提供されている保証という点では、FIFA の期待を全て満たすものである。日本は、2002年の FIFA ワールドカップを含め、長年にわたりスポーツイベントの開催に豊富な経験があるが、治安の理念は、独りよがりになる余地はない。しかし、安全及び治安の理念の実践は、政府保証第4号の全ての条件が満たされているわけではないので、完全には確保されていない。

全体としては、主要なイベントに係る国際的な安全及び治安の基準は、満たされそうである。

4.14 健康と医療サービス

招致委員会は、十分かつ良質の情報を提供しており、それには、一般的な健康上の推奨事項、医療制度に関する説明、医療費、イベント中に使用する医療施設候補、及び、FIFA ワールドカップに提供される緊急医療、並びに、全ての開催地における病院のリストが含まれている。医療施設、大規模救急医療に関する予防措置及び手順は、国際基準に適合したものである。風土病や伝染病に関する主な健康上のリスクはなく、また、特別の予防接種の必要もない。大規模イベントでのチーム、代表団及び来訪者に対する医療サービスの提供に関する医療制度、提案されている医療施設、並びに、予防及び計画は、国際基準を満たしている。医学的な観点からは、予想されていない伝染病又は発生を除き、日本でイベントを開催することに関しては、大きなリスクはない。全体として、健康及び医療サービスに関する FIFA の要件及び国際基準は満たされるものと予想される。

4.15 競技会関連イベント

招致委員会は、競技会関連イベントに関する素晴らしい情報を提供しており、また、開催契約に記載され

ている要件を網羅している。

予選抽選会、FIFA コンフェデレーションズカップ抽選会、本大会組み合わせ抽選会、及び、チームワークショップについての候補会場である、東京国際フォーラム及びパシフィコ横浜は、こうしたイベントを開催するために十分な収容力があり、また、抽選会場、放送施設、メディアセンター、商業的展示エリア、チームワークショップ、会議室、及び FIFA の事務所に十分なスペースがあるように思われる。東京国際フォーラムには7つのホールと34の会議室がある。パシフィコ横浜には、1つの会議場と、37の会議室、そして、20,000 m²の展示スペースがある。

こうした場所は、最新の設備とトップレベルの技術も提供している。招致ブックによれば、両方の会場の近辺には、様々な構成グループが利用できる十分な数のトップレベルの宿泊施設がある。パシフィコ横浜は、主要な国際空港から2時間の場所にあるが、輸送リンクは素晴らしい。

審判のワークショップ用に提案されている会場であるリーガロイヤルホテル堺は、FIFA の現在の審判ワークショップの要件を網羅しているように思われる。同ホテルは、審判本部ホテルの候補である。FIFA 総会の候補会場である大阪国際会議場及び大阪城ホールは、両方とも、FIFA の要件を満たしているようであり、また、高級ホテルに隣接した場所にあるというメリットもある。結論としては、大会関連イベントに関する招致委員会の計画は、FIFA の要件を満たしているようであり、候補会場は、イベントに適しているようである。

4.16 メディアの施設、通信及び広報

IBC

招致委員会は、国際放送センター（IBC）用にいくつかの場所を提案している。しかし、こうした場所の候補の利用可能性に関する詳細な情報は提供されていない。2002年 FIFA ワールドカップを共催した経験から、招致委員会は、IBC の主要な要件については熟知しているものと推定される。

会場及びスタジアムでのメディア用施設及びサービス

招致委員会から受け取った情報と説明の質は十分なものである。招致提案は、サッカー及び FIFA ワールドカップへの強いコミットメントを証明している。日本では、まだ記憶に新しい2002年の経験が役立っており、メディア用に提案されている施設の質の高さは、招致ブックに十分に反映されている。

招致委員会は、メディアが使用するあらゆる新しい技術を推進しようとしており、また、最新の技術的な発展を採用することを提案している。

FIFA ワールドカップを開催した過去の経験を活かし、招致委員会は、強力な招致提案を提出しており、また、メディアに高い快適性と効率性を提供することができるあらゆる進歩を促進することを望んでいる。大会開

係イベントのサイトにおけるメディア用のスペース及びインフラは、容易に要件を満たしている。既存のスタジアムでは、一時的なメディア用の構造物（メディア席、ミックスゾーン、及び、スタジアムメディアセンター用）が必要になるところ、これは全体のスペース配分において対応する必要がある。

要約すると、メディアの施設及びサービスに関しては大きなリスクは存在しない。

コミュニケーション及び広報

コミュニケーションの理念は十分には詳細になっていない。招致提案は、様々なPR活動、特に、慈善事業及びFIFAファンフェストの要素について提案している。サッカーをコミュニケーションの道具として使い、特に、新しいメディアを目玉にして、全世界のメディアの関心を集めることに強い重点が置かれている。招致委員会が、FIFA加盟団体1つにつき少なくとも1チームの約6000人の子ども達を、FIFAワールドカップを経験し、教育活動に参加してもらうために招待することを含め、社会的活動ができるだけ強調されることになる。現役及び元の国の代表選手が、学童に如何に目標や夢に集中するのか、また、敗北に如何に対処するのかについて教えるという既存のこのころプロジェクトは、継続するようである。

多数の日本のメディア団体がサッカーに関係している。6人のフリーのテレビブロードキャスターが、主要なサッカーイベントにかなりの放送時間を割いている。さらに、日本の2つの全国的な通信社、全国紙（朝日新聞の場合読者は800万人に達する）、及び数十のサッカー雑誌やウェブサイトは、一年中サッカーに関する情報を提供している。

コミュニケーション戦略は、平和、相互理解そして環境問題に対する意識を促進することを目的としたものとなる。FIFAファンフェスト・プロジェクトは、(正式の招致スローガンである「208 Smiles」に反映されているように) 208の全てのFIFA加盟団体を関与させて世界中で行うことが計画されているが、これは、大規模なロジスティックス上の取り組みが必要となる。

4.17 放送権とマーケティング権

テレビ及び放送権

FIFAは、その収入のかなりの部分を（放送権の販売を通じた）テレビ収入で得ているが、これは、主として世界各地におけるテレビ視聴率及び関連した数値に基づいたものである。テレビ視聴率は、世界のそれぞれの領域における試合の生放送が行われる時間の影響を受ける。過去においては（及び、2014年FIFAワールドカップにも同じことが当てはまることになる）、世界のマーケットからのテレビ収入は、均等に分散しておらず、ヨーロッパは、まだ最大の割合のテレビ収入を生み出している。テレビ収入が、FIFAワールドカップのテレビ視聴率に密接に関係していることから（広告支出は、テレビ視聴率如何であり、また、テレビ視聴率は、それぞれの国で異なっている）、日本がFIFAワールドカップを開催した場合（以前のFIFAワールドカップのキックオフの時間と類似のパターンを前提とすると）ヨーロッパからの収入が減少するリスクがある。

日本の時間帯は、UTC+9（協定世界時よりも9時間進んでいる）にあるが、これは、ヨーロッパのテレビ視聴者からすれば、朝早くから試合を見せられることになる。ヨーロッパでは、一般的に一日の早い時間には、プライムタイムやプライムタイムに近い時間に比べると視聴者が少なく、メディア会社にとっては放送権を活用することが難しくなる。米州では、東部の時間帯では真夜中か明け方、西部の時間帯では夜遅くか真夜中に試合が生放送されることになる。FIFAは、全世界からの収入をバランスがとれたものとなるように努めており、この目標は長期的には達成可能なものであるが、2022年までに達成することは難しいということに留意することは重要である。この目標に向かって作業するため、特に、ヨーロッパにおける前述のリスクと相殺するため（アジア/オセアニア、ヨーロッパ/アフリカ及び米州の主要な時間帯に基づいて世界を3つの大きなブロックに分割すると）、アジア/オセアニア及び米州の割合を大幅に増やすことが必要である。テレビ視聴率と、FIFAワールドカップのマーケティング権保持者の露出価値等、FIFAワールドカップに関連するその他の数値の間に相関関係があることに留意すべきである。

スポーツマーケティング及びスポンサーシップ市場

日本のスポーツマーケティング慣行及び国内のスポンサーシップ市場に関し、日本が提出した情報の質は高い。それには、日本において開催された国際的及び国内のスポーツイベントのリスト、並びに、日本におけるサッカー及びその他の主要なスポーツイベントのスポンサーシップを得た約30社のリストが含まれている。

1億2500万を超える人口を擁し、サッカーへの関心のレベルが高く、トップリーグの試合の平均観客数が19,000人と見積もられており、日本におけるファン層は、かなりのものである。日本は、現在、世界第二位の経済大国であり、発達したスポンサーシップ市場がある。日本は、FIFAのコマーシャルアフェリエイトにとって重要な市場とみなされている。招致ブックでは、日本では、許可のない大会の呼称又はロゴの使用並びにアンブッシュ・マーケティングは厳格に統制されており、刑事罰の対象であると述べられている。また、LOCは、アンブッシュ・マーケティングに関するFIFAの立場を支持し、適切な権利保護プログラムを立ち上げることについての決意を表明している。しかし、必要な保証として、政府保証第6号（商業的権利の保護及び利用）の一部としては、保証及び確認が提供されておらず、FIFAの権利保護プログラムを保証することができていない。

屋外宣伝媒体在庫

開催都市の特定の場所におけるFIFA及び/又はLOCによる屋外宣伝媒体在庫の使用は、お祭り気分を醸成し、FIFAの対アンブッシュ・マーケティング戦略の重要な部分となる。各開催候補都市において確保されている屋外宣伝媒体在庫に関し招致委員会によって提供された情報は限定的であり、このため客観的に評価することができない。

要求した情報のかなりの部分が無く、「TBC」と記載されており、各開催候補都市において確保されている屋外宣伝媒体在庫の数量は明確にされていない。日本が2022年FIFAワールドカップの開催国に指名された場合、必要な在庫がFIFAの要件に沿って確保されることを確実にするために各開催候補都市の屋外宣伝媒体

在庫の状況を再検討すべきである。

FIFA 視察団は、大阪（開幕戦及び決勝戦の開催候補都市）における主たる FIFA ファンフェストの会場候補である大阪城ホールを訪問した。同ホールは、象徴的な都心の場所にあり、公共輸送機関（バス及び鉄道）にも恵まれている。FIFA ファンフェスト用に指定されている場所（西の丸庭園及び大阪城内の近隣の地区）のスペースは、FIFA の要件に対応するであろう。日本が FIFA ワールドカップを開催することに指名された場合、現場において利用可能なスペースは、決勝戦のための追加的な収容需要を予想した上で、更に検討すべきである。包括的なユニバーサルな FIFA ファンフェストの提案の一環として、招致委員会は、開催候補都市それぞれについて2カ所の FIFA ファンフェスト会場を提案している。

4.18 資金調達と保険

招致委員会から提出された2021年 FIFA コンフェデレーションズカップ及び2022年 FIFA ワールドカップの支出予算は、詳細なコスト推進要因というよりもむしろ高レベルの情報を提供している。支出予算は、年ごとの支出を表しており、それぞれ28と45の詳細な項目が含まれている。

支出予算

FIFA コンフェデレーションズカップ及び FIFA ワールドカップの支出予算（米ドル及び日本円建て）は次の通りである。

表（略）

招致委員会は、予算には予備費が含まれていないことを確認している。

支出予算では、インフレは、年間インフレ率を0%として考えられている。その結果、総支出予算のインフレを除いたものとインフレを調整したものは、同じである。招致委員会は、日本政府がインフレ予測を公表しないことから、2022年までの期間のインフレ率を予測することは極めて困難であると述べている。招致ブックによれば、1999年から2008年までの日本のインフレ率は、-0.9%から1.4%の間であった。過去のインフレ率に鑑み、招致委員会は、支出予算用のインフレ率を0%にしている。

日本円100円=1米ドルの固定された為替レートは、全ての年について適用されている。招致委員会は、2022年までの外国為替レートの動きを一定の確度を持って予測することは現実的ではないと述べている。招致ブックによれば、円ドル為替レートは、2000年から2009年までの期間は、1米ドルに対し95円から130円の範囲内にあり、より最近の2008年から2009年までの期間では、95円から117円の範囲であった。招致委員会は、1米ドル当たり100円の固定した為替レートの適用は、歴史的なレートを考慮したものであると述べている。

重要な予算分野

招致委員会は、総職員報酬額を8,380万米ドル、全体の支出予算総額の約10%としており、また、詳細な職員配置計画は、後に作成すると付け加えている。FIFA ワールドカップのスタジアム運営費は、2億620万米ドルとなり、予算を作成するために使われた方法は、「スタジアム及びスタジアムを所有する自治体によって異なる」と言及されている。3,000万米ドルが、独立の電力供給の提供に割当てられている。FIFA ワールドカップの輸送費は、1億2,240万ドルになる。フライト及び車両の数は示されておらず、後に、具体的なトーナメント計画に基づいて計算されることになる。

保険

FIFA ワールドカップの保険代の総額は2,360万米ドルと報告されており、そのうち1,760万ドルは、キャンセル・延期・場所の変更に割り当てられることになる。

結論

招致委員会は、計算の元となっているコスト推進要因に関する詳細な情報を提供することなく、所定の様式で予算を提出している。

コスト推進要因が提供されていないことによって、個々の予算項目についての詳細な分析が妨げられている。予算を作成する際に用いられた前提及びコスト推進要因の詳細な内訳を含む追加的な情報は、予算の財務パラメータと、意図されている大会の執行との相関関係を理解するために必要になる。

4.19 発券業務

招致委員会から提供された数値に基づけば、提案されているスタジアムは、FIFA の正味の座席数の要件を満たしているようであり、また、視界が遮られる座席の数は少ないようである。メディア及びVIP向けの座席割当ては少なく、正味の収容人数を決定するためには、無料チケット分を追加的に控除する必要がある。VIP用座席の数が限られていること以外には、接遇用の収容人数についての詳細な情報はないが、これは必要とされている5~8%を下回っている可能性がある。施設の図面は提供されていない。

日本では、スタジアムが満席になること（正味収容人数の100%、又は、総座席数の80%に該当する）を予測することは合理的であり、その結果、販売可能なチケットは約3,280,000枚となる。この招致提案の課題は、屋内の接遇用スカイボックス及びビジネスシートがほとんどないことであろう。日本ではテントの建設費が極めて高額であり、開催国によって予算手当がされている場合を除き、屋外のスペースは解決策にならない。スタジアムでの接遇は伝統的な日本の文化にはなく、在庫はマーケティング要件及び国際的な要件を満たしていないであろう。ほぼ全てのスタジアムが既に存在しているということは、座席数を確実にし、早い時期からの発券業務を可能にするものである。大阪での新しいスタジアムの建設は、開幕戦及び決勝戦に関する

発券の要件を満たすために必要である。

販売可能チケットの予測は提供されているが、発券の数字は、接遇分を含むように調整し、また、カテゴリーを見直すことが必要であろう。

4.20 法的保証と政府保証

招致委員会は、必要な契約書及び政府の開催関係文書全ての完全に締結されたものを提出している。FIFA のテンプレート文書の内容についての招致委員会の遵守状況及びその結果生じる FIFA にとってのリスクの概観は、附属書 3 に記載されている。

開催契約は、FIFA のテンプレートから一切の乖離なしに適切に締結された形で提出されている。一方的に締結された開催都市契約は、11 の全ての開催候補都市から提供されている。開催都市契約は全て一切の乖離なしに開催都市契約のテンプレートを完全に遵守したものである。スタジアム及びトレーニングサイトに関する契約文書の評価は、上記の関係箇所に記載されている。招致委員会は、法的に執行可能な政府保証を提供していない。全ての政府文書には、FIFA のテンプレート文書からの大きな乖離が含まれており、特に次のような FIFA が求めている重要な点が含まれていない。

- 日本における免税措置が FIFA 及びその他の受益者に対し認められておらず、現在の法令及び規則の適用のみが確認されている。
- 必要な治安対策及び緊急措置についての約束が一切行われていない。安全と治安に関する若干の必要な保証、約束及び確認のみが提供されている。
- 商業的権利の保護及び利用に関する保証、約束又は確認が一切提供されていない。国際条約及び著作権の適用のみが確認されている。その他の知的財産権については言及されていない。
- 差別が起こらないことについての確認はなされておらず、また、補償が認められておらず、追加的な法的保証が提供されていない。法的問題及び補償に関し、若干の必要な保証、約束及び確認のみが与えられている。

しかし、首相及び日本の議会の議長代行は、日本が開催国に指名された場合、政府文書に含まれている全ての義務、約束及び保証を受け入れ、また、必要な立法措置をとる強い意思を表明している。これらに関しては、期限は受け入れられていない。

政府法律声明には、執行可能性及び必要な法令の変更に関する声明は含まれておらず、また、FIFA が求め

ている事項のいずれについても取り扱われていない。法的意見は、FIFA のテンプレートから実質的に乖離したものであり、確固たる引用根拠を提供しておらず、引き続き多くの前提及び条件に従うことを条件としている。それにも拘わらず、日本が FIFA ワールドカップの開催権を得た場合、日本政府は、大規模なスポーツイベントの開催及び準備を支援してきた経験があり、主要な許可を提供し、イベントの開催者の懸念に対応する日本政府の意思は証明されている。

結論

日本が開催権を得た場合、FIFA の法的リスクは中程度のもののように思われる。契約文書に関する要件は満たされているが、政府保証及び政府宣言は、政府文書に関する FIFA の要件を遵守した形では提供されていないことから、必要な政府の支援は確保されていないものの、日本政府は、大規模なスポーツ行事の開催及び準備を支援してきた経験があり、主要な許可を提供し、イベントの開催者の懸念に対応する意図は証明されており、また、必要な政府保証及び法令（期限は受け入れていない）を制定する意図を表明している。

付属書 3: 法的リスクの概要

法的文書	FIFA のリスク	所見
政府文書		
政府保証	中位のリスク	追加的な保証、約束及び立法措置が必要であるが、日本政府はこれまでの経験があり、重大な許可を行う意図を証明しており、必要な政府保証を提供し立法措置を行う意図を表明している(期限は受け入れていない)。
契約文書		
招致契約	低位のリスク	FIFA の要件に遵守した完全に締結済みの文書を提出した。
開催都市契約	低位のリスク	FIFA の要件に遵守した完全に締結済みの文書を提出した。
スタジアム契約	低位のリスク	FIFA の要件に遵守した完全に締結済みの文書を提出した。
トレーニングサイト契約	中位のリスク	FIFA の要件に遵守した完全に締結済みの文書を提出したが、6 通のトレーニングサイト契約がない。29 のトレーニングサイトの場所を明確化することが必要
確認契約	低位のリスク	FIFA の要件に遵守した完全に締結済みの文書を提出した。
総合		
法的総合リスク	中位のリスク	

付属書 4: 運営上のリスク

運営	FIFA のリスク	所見
競技		
スタジアム建設	低位のリスク	一つのスタジアムを建設(大阪)。当初予算の再検討が必要な可能性あり
スタジアム運営	中位のリスク	将来における FIFA ワールドカップのスペースと質の要件を満たすことについて、特別の注意が必要となる。
チーム施設	低位のリスク	法的なリスクは中程度である。招致委員会は、要件については十分に理解しているものと思われるが、場所によっては、施設の数の提供数に限りがあるようである。最終的な選択基準を満たし、不足を補うことができようである。
競技関連イベント	低位のリスク	
輸送		
空港及び国際経路	低位のリスク	既存のインフラ及び計画されている(保証されている)インフラは、要件を満たすことになると思われる。
陸上交通	低位のリスク	信頼できる高速で効率的な既存の地上輸送機関(高速鉄道及び道路)
開催都市内交通	低位のリスク	既存の信頼できる効率的な地方輸送機関。11 の開催候補都市のうち(大分以外の)10 都市に十分な能力あり。
宿泊		
宿泊全般	低位のリスク	96,000 室が契約済み。各開催候補都市に十分な既存在庫。輸送機関との良好な接続
テレビ		
国際放送センター(IBC)	低位のリスク	

10.2 FIFA 評価レポート：2018/2022 年大会招致立候補国比較

FIFA 評価レポート：2022 年大会招致立候補国比較

付属書 3: 法的リスクの概要

法的文書	日本	米国	オーストラリア	韓国	カタール
政府文書					
政府保証	中位のリスク	中位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
契約文書					
招致契約	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
開催都市契約	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
スタジアム契約	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
トレーニングサイト契約	中位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
確認契約	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
総合					
法的総合リスク	中位のリスク	中位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク

付属書 4: 運営上のリスク

運営	日本	米国	オーストラリア	韓国	カタール
競技					
スタジアム建設	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
スタジアム運営	中位のリスク	低位のリスク	中位のリスク	中位のリスク	中位のリスク
チーム施設	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク	高位のリスク
競技関連イベント	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
輸送					
空港及び国際経路	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
陸上交通	低位のリスク	中位のリスク	中位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
開催都市内交通	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
宿泊					
宿泊全般	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク	中位のリスク	中位のリスク
テレビ					
国際放送センター(IBC)	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク

FIFA 評価レポート：2018 年大会招致立候補国比較

付属書 3: 法的リスクの概要

法的文書	ロシア	イングランド	スペイン/ポルトガル	オランダ/ベルギー
政府文書				
政府保証	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
契約文書				
招致契約	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
開催都市契約	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
スタジアム契約	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
トレーニングサイト契約	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
確認契約	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
総合				
法的総合リスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク

付属書 4: 運営上のリスク

運営	ロシア	イングランド	スペイン/ポルトガル	オランダ/ベルギー
競技				
スタジアム建設	中位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
スタジアム運営	中位のリスク	中位のリスク	中位のリスク	中位のリスク
チーム施設	低位のリスク	低位のリスク	中位のリスク	中位のリスク
競技関連イベント	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
輸送				
空港及び国際経路	高位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
陸上交通	中位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
開催都市内交通	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク
宿泊				
宿泊全般	中位のリスク	中位のリスク	低位のリスク	中位のリスク
テレビ				
国際放送センター(IBC)	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク	低位のリスク

11. 広報・報道関係資料

11.1 メディアリリース実績

実施日	内容	備考
2009年		
12.8	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致が閣議了解を得る	
12.9	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会が FIFA へ「招致契約書」を提出	招致ブックや各種契約書提出について基本合意する手続きを完了
2010年		
1.6	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会メンバーについて	政財界、学術界よりご参画いただき、24名のメンバーで立ち上げ
1.14	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™ 開催地自治体・チームベースキャンプ正式申請書の提出自治体について	各自治体より立候補のあった開催地スタジアム13件、チームベースキャンプ64件を発表
1.27	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致活動の「招致アンバサダー」が決定	オシム元日本代表監督、長谷部誠選手ら7名を発表
1.28	2018/2022年日本招致活動のオフィシャル招致パートナーが決定	朝日新聞社、アディダス ジャパン株式会社、産経新聞社、株式会社 JTB グローバルマーケティング&トラベル、スカパー JSAT 株式会社、西鉄旅行株式会社が決定
2.12	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™ 日本招致委員会/招致連絡協議会メンバーについて	日本招致委員会の特別顧問ならびに招致連絡協議会会員を発表
2.24	中山 雅史選手・藤田 俊哉選手・宮本 恒靖選手 「招致アンバサダー」就任のお知らせ	日本サッカー界を引っ張る3名が就任
2.26	Jリーグクラブ選手が「招致アンバサダー」に就任	J1クラブを代表する各選手、開催地自治体の大分を代表する選手が就任
3.26	2018/2022年日本招致活動のオフィシャル招致パートナー、新たに6社決定	キリンホールディングス株式会社、近畿日本ツーリスト株式会社、株式会社テレビ朝日、日清オイログループ株式会社、日本テレビ放送網株式会社、びあ株式会社が決定
4.16	2018/2022年日本招致活動のオフィシャル招致パートナー、新たに3社決定	株式会社 TBS テレビ、日本経済新聞社、株式会社フジテレビジョンが決定
4.30	「ワールドカップを日本へ！」トークバトル開催のお知らせ	札幌、埼玉、東京、豊田、大阪の全国5カ所で開催
5.7	2018/2022年 FIFA ワールドカップ™ 日本招致委員会/招致連絡協議会メンバーについて	日本招致委員会メンバーの交替、招致連絡協議会の開催地自治体からの会員を発表
5.11	招致活動を2022年大会に絞り込み、13のスタジアムを提案へ	第2回日本招致委員会/招致連絡協議会での報告を経て発表
5.14	2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会が、FIFA に「招致ブック」を提出	FIFA に提出した招致ブックの仕様、概要を発表
5.26	6月2日横浜開港記念日「2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致イベント in 横浜」開催	横浜市主催。キックオフセレモニーには横浜市 林文子市長、『キャプテン翼』漫画家 高橋陽一氏が出席
5.31	「サンシャインシティ」でワールドカップ日本招致を応援	サンシャインシティで行われた招致応援イベントに協力
6.7	オフィシャル招致パートナーに株式会社テレビ東京が新たに決定	オフィシャル招致パートナーは16社に
6.24	凸版印刷株式会社がオフィシャル招致パートナーに	オフィシャル招致パートナーが17社に
6.30	大阪市の小学生45,000人のメッセージが大阪市役所・区役所に登場	寄せられたメッセージは FIFA インспекションの会場にも展示
7.9	FIFA インспекション 日本視察スケジュールについて	視察行程(7/19～22、大阪市・堺市・埼玉県・東京都)を発表
7.10	本田圭佑選手が「招致アンバサダー」に就任	2010FIFA ワールドカップ™、日本代表躍進に貢献の本田選手が就任
7.13	森島寛晃氏が「招致アンバサダー」に就任	インспекションへの参加も発表
7.16	通天閣が FIFA ワールドカップ招致応援でブルーにライトアップ	FIFA インспекション視察団が来阪する19日、20日に点灯
7.20	FIFA 視察団が内閣総理大臣を表敬訪問	総理主催ディナーにも出席
7.20	浦和レッズ 阿部勇樹選手、ボンテ選手が FIFA インспекションに出席	埼玉スタジアム2002視察に帯同
7.20	2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致 新聞全面広告を掲載	朝日新聞、産経新聞、日本経済新聞朝刊に掲載した広告を発表
7.21	岡田武史監督が「招致アンバサダー」に就任	インспекションへの参加も発表
7.26	2022年 FIFA ワールドカップ™日本招致委員会 委員長に小倉純二が就任	前 JFA 会長の退任にともない、25日付の JFA 理事会で就任が決定

8.10	2022年 FIFA ワールドカップ™ 日本招致委員会メンバーについて	JFA 理事会の役員変更にもなうもの
8.12	JFA サッカーモバイル 招致特設コンテンツがオープン	招致活動の基本情報や最新活動ニュースを無料で提供
9.3	SAMURAI BLUE ザッケローニ監督が「招致アンバサダー」に就任	「日本という国をリスペクト」と招致応援を表明
9.3	全国各地で一般招致応援団を募集	Jリーグのスタジアムで招致応援団カードを発行
9.9	ユニクロがオフィシャル招致パートナーに	「JFA キッズプログラム公式パートナー」が招致パートナーに
9.14	パトリック・エムボマ氏が「招致アンバサダー」に就任	招致アンバサダーは全33名に
9.16	日本航空がオフィシャル招致パートナーに	パートナーは全19社に
10.1	オフィシャル招致グッズを販売	Tシャツやタオルなど全6種類
10.20	「ワールドカップを日本に！」出陣式～招致応援団、集まれ！～	11月11日から13日まで3日間連続で壮行イベントを実施
11.17	「2018/2022FIFA ワールドカップ™招致評価報告書」に伴う小倉委員長コメント	
11.26	衆議院本会議で「2022年ワールドカップサッカー大会招致に関する決議」	全会一致で決議
11.27	最終プレゼンテーションに、2002年生まれの佐々木りおさんが登壇	次世代ワールドカップの象徴として登壇
11.30	最終プレゼンテーションに、ソニー株式会社 ハワード・ストリンガー会長が登壇	テクノロジーがいかに世界を一つにするかを説明するべく登壇

11.2 招致関連テレビ報道時間調査 (調査期間:2010/11/27~12/4) 合計 120 番組(9 時間 07 分 05 秒)

放送日	局	番組名	開始時間	終了時間	ヘッドライン	出稿開始	出稿終了	出稿時間				
11/27	土	NHK	NHK 週刊ニュース	8:15	8:45	来週の予定	8:44:14	8:44:34	20 秒			
				12:00	12:15	【サッカー】2022年W杯招致・開催地決める会合に向け出発	12:07:56	12:08:57	1分1秒			
				18:00	18:10	菅首相と民主党・鳩山前首相会談・「支持率が1%になっても辞めない」菅首相はサッカーW杯2022年大会の開催地決定会合がスイスで開かれることから、民主党・鳩山前首相に「政府専用機を用意するので、日本への招致に向け現地訪問をして欲しい」と要請。	18:00:12	18:01:57	1分45秒			
				22:55	23:25	【サッカー】2022年W杯招致・開催地決定会合へ	23:19:09	23:20:11	1分2秒			
		NTV	月刊サッカーアース	26:35	27:35	【サッカー】2022年ワールドカップ招致・城彰二がイベントに登場	27:22:00	27:22:26	26 秒			
				12:15	12:30	【サッカー】W杯・2022年・12月2日開催地決定	12:21:54	12:22:27	33 秒			
		TBS	報道特集	17:30	18:50	菅首相と鳩山前首相・2人だけで会談菅首相は鳩山前代表にサッカーの2022年W杯の開催地を決めるために来月スイスで開かれる国際サッカー連盟への理事会出席を要請していた。	17:37:41	17:38:28	47 秒			
				17:51:00	17:51:30	【サッカー】W杯2022年開催招致・日本サッカー協会・小倉会長スイスへ出発	17:51:00	17:51:30	30 秒			
		CX	FNN スーパーニュース	17:30	18:00	【サッカー】W杯日本招致へ！スイスへ出発	17:52:49	17:53:32	43 秒			
				11/28	日	NHK	NHK ニュース	07:00	07:45	【サッカー】2022年W杯・日本招致委員会・スイス到着	7:16:03	7:17:13
サンデースポーツ	22:21	23:10	【サッカー】2022年W杯・日本招致委員会メンバーがスイス到着	23:03:45			23:05:03	1分18秒				
11/29	月	NHK	NHK ニュース	おはよう日本	今週の予定 ■木・2022年サッカーW杯開催地決定	4:58:30	4:59:00	30 秒				
					今週の予定 ■木・2022年サッカーW杯開催地決定	5:29:10	5:29:36	26 秒				
11/30	火	NHK	ニュースウオッチ9	21:00	22:00	【サッカー】FIFA・現理事3人に新疑惑	21:47:50	21:48:53	1分3秒			
				23:25	23:50	< Biz スポ Sports > 【サッカー】FIFA・現理事3人に新疑惑	23:46:50	23:47:54	1分4秒			
				04:30	08:00	NHK ニュース	04:30	08:00	【サッカー】2022年ワールドカップ招致へ・日本最後のリハーサル	6:36:11	6:38:08	1分57秒
				06:38:08	6:38:39	【サッカー】2018年ワールドカップ招致へ・英国・有名人も続々と集結	6:38:08	6:38:39	31 秒			
				06:38:39	6:39:24	【サッカー】2022年ワールドカップ招致へ・日本最後のリハーサル	6:38:39	6:39:24	45 秒			
				11:00	11:05	【サッカー】W杯招致に向け・要人がチューリヒ入り	11:02:37	11:03:38	1分1秒			
				21:00	22:00	【サッカー】2022年W杯招致・最後のプレゼンテーションへ	21:49:44	21:53:19	3分35秒			
				23:25	23:50	< Biz スポ Sports > 予告・【サッカー】W杯招致・プレゼンテーション開始	23:25:37	23:25:53	16 秒			
				23:42:52	23:47:11	< Biz スポ Sports > 【サッカー】2022年W杯招致	23:42:52	23:47:11	4分19秒			
				04:00	05:20	Oha! 4 NEWS LIVE	04:00	05:20	2022年W杯招致・最終プレゼンへ・切り札は・・・	5:00:45	5:02:20	1分35秒
11/30	火	NHK	ズームイン!! SUPER	05:20	08:00	< 530ヘッドライン > 2022年W杯招致・きょう日本がプレゼン	5:32:59	5:34:36	1分37秒			
				5:49:11	5:50:40	< 530ヘッドライン > 【サッカー】W杯開催地はどこに!?・ベッカムも登場!	5:49:11	5:50:40	1分29秒			
				6:04:22	6:06:00	< NEWS SUPER > 【サッカー】日本の切り札は8歳の少女	6:04:22	6:06:00	1分38秒			
				7:09:07	7:10:10	< ZOOM NEWS > 【サッカー】2022年W杯開催地・日本2度目の開催なるか?	7:09:07	7:10:10	1分3秒			
				7:10:10	7:13:49	< ZOOM + > 【サッカー】2022年W杯開催地・日本2度目の開催なるか?	7:10:10	7:13:49	3分39秒			
				22:54	23:58	< ZERO SPORTS > 【サッカー】20年ぶりのW杯招致へ・日本では意外な反応	23:18:00	23:26:40	8分40秒			
				23:55:55	23:56:00	< ZERO SPORTS > 【サッカー】20年ぶりのW杯招致へ・日本では意外な反応	23:55:55	23:56:00	5 秒			
				08:30	09:55	はなまるマーケット	08:30	09:55	< はなまるニュース > 【サッカー】W杯開催地決定へ 日本招致の目玉はソニー会長	9:52:00	9:53:35	1分35秒
				16:53	19:00	Nスタ	16:53	19:00	< こちら運動部 > 【サッカー】2022年W杯開催地・2日深夜発表	18:44:07	18:44:17	10 秒
				18:46:31	18:48:49	< こちら運動部 > 【サッカー】2022年W杯開催地・2日深夜発表	18:46:31	18:48:49	2分18秒			
22:54	23:45	ニュース23クロス	22:54	23:45	予告・2022W杯開催地決定へ・日本は!?	23:22:29	23:22:39	10 秒				
23:27:54	23:31:25	< スポーツクロス > 【サッカー】2018 & 2022・W杯開催地は・・・	23:27:54	23:31:25	3分31秒							
11/30	火	NHK	FNN スピーク	11:30	12:00	【サッカー】2022年ワールドカップ招致へ最終リハ	11:39:02	11:39:15	13 秒			
				11:40:15	11:41:16	【サッカー】2022年ワールドカップ招致へ最終リハ	11:40:15	11:41:16	1分1秒			
				11:41:16	11:43:58	【サッカー】2022年W杯・日本単独開催の「夢」は・・・	11:41:16	11:43:58	2分42秒			
				17:34:30	17:35:22	< にゅーすクリップ > 【サッカー】ベッカムが招致・射止めるか? W杯2018	17:34:30	17:35:22	52 秒			
18:39:07	18:39:16	< スポーツの力 > 予告・【サッカー】W杯招致へ眠れない夜	18:39:07	18:39:16	9 秒							

12/1	水	CX			<スポーツの力> 2022年W杯招致・日本のライバルは5カ国	18:41:01	18:42:06	1分5秒		
					<スポーツの力>【サッカー】2022年W杯招致争い・秘策あり!	18:44:45	18:44:58	13秒		
			すぼると!	23:55	24:35	【サッカー】FIFA理事会・22年W杯開催地・いよいよあす決定!	24:09:44	24:11:37	1分53秒	
					予告・2022年日本単独開催なるか?!あす決定!W杯開催地はどこに?	24:29:19	24:29:29	10秒		
					あすの予告▽日本開催なるか?!2018、2022年W杯開催地決定!よる11時55分から放送。	24:33:55	24:34:00	5秒		
			EX	やじうまテレビ!〜マ	04:55	08:00	<マルっとスポーツ!>【サッカー】なでしこジャパン・女子Wカップ組み合わせ	5:40:29	5:41:10	41秒
				スーパードキュメント	08:00	09:55	今日の予定稿 ■スポーツ・2022FIFAワールドカップ・招致国が最終プレゼン	9:52:54	9:52:57	3秒
				ワイド!スクランブル	11:24	13:05	<ANNニュース>予告・【サッカー】2022年は日本も有力	11:45:08	11:45:17	9秒
							<ANNニュース>【サッカー】2022年W杯招致・日本・有力候補として急浮上	11:48:53	11:50:09	1分16秒
				スーパーJチャンネル	16:53	19:00	<NEWS ナマよみ>ラインナップ ■2022年W杯招致日本有利?	18:36:01	18:36:08	7秒
				報道ステーション	21:54	23:10	【サッカー】「22年W杯招致」最終演説・劣勢日本「急浮上」の理由	22:20:27	22:23:50	3分23秒
							【サッカー】「22年W杯招致」最終演説・劣勢日本「急浮上」の理由	22:24:50	22:28:30	3分40秒
	TX	バラエティ7・neo sports	24:13	24:28	【サッカー】いよいよあす決定・ワールドカップ開催国は	24:14:50	24:19:28	4分38秒		
12/2	木	NHK	NHKニュースおはよう日本	04:30	08:00	【サッカー】2022年W杯招致・日本がプレゼンテーション	5:31:17	5:33:02	1分45秒	
					予告・【サッカー】2022年W杯招致の行方は	6:00:35	6:00:52	17秒		
					予告・【サッカー】ワールドカップ招致の行方は	7:00:07	7:00:34	27秒		
					【サッカー】ワールドカップ招致・日本がプレゼンテーション	7:13:07	7:19:38	6分31秒		
			首都圏ネットワーク	18:10	18:59	【サッカー】2022年W杯招致	18:18:05	18:21:27	3分22秒	
			NHKニュース7	18:59	19:30	【サッカー】2022年W杯開催地・決定へ	19:17:51	19:20:21	2分30秒	
					【サッカー】2022年W杯開催地・決定へ	19:20:21	19:21:20	59秒		
					【サッカー】2022年W杯開催地・決定へ	19:21:20	19:23:11	1分51秒		
			ニュースウオッチ9	21:00	22:00	【サッカー】W杯・2022年の開催地は?	21:09:57	21:16:29	6分32秒	
					【サッカー】W杯・2022年の開催地は?	21:16:29	21:20:04	3分35秒		
					【サッカー】2018年W杯招致・イングラ	21:55:39	21:59:29	3分50秒		
					ンドは?					
					サッカーW杯どこへ?	21:59:45	21:59:59	14秒		
			Bizスポ	23:25	23:50	予告・2022年W杯開催地はどこに	23:25:35	23:25:55	20秒	
					< Biz スポ Sports > 【サッカー】2022年W杯開催地・まもなく発表	23:43:17	23:43:22	5秒		
					< Biz スポ Sports > 【サッカー】2022年W杯開催地・まもなく発表	23:47:56	23:49:27	1分31秒		
			ニュース(25:28)	25:28	25:31	【サッカー】2022年W杯・日本落選「カタル」で開催	25:28:00	25:31:00	3分0秒	
			NTV	Oh!4 NEWS LIVE	04:00	05:20	< HEADLINE・NEWS > ラインナップ ■ W杯開催地・決定へ	4:01:51	4:01:57	6秒
				< HEADLINE・NEWS > 予告・サッカーW杯・2022年・W杯開催地・決定へ	4:02:26	4:02:43	17秒			
				< HEADLINE・SPORTS > 予告・【サッカー】2022年サッカーW杯開催地・3日決定!!	4:21:11	4:21:41	30秒			
				<おはよんスポーツ> 【サッカー】2022年サッカーW杯招致へ	4:48:04	4:50:31	2分27秒			

12/2	木	NTV			3日に開催地決定・2022年W杯招致・最終プレゼン	5:02:54	5:04:32	1分38秒	
			ズームイン!! SUPER	05:20	08:00	予告・【サッカー】日本がW杯招致プレゼン	5:20:09	5:20:48	39秒
						<530ヘッドライン>【サッカー】W杯招致最終プレゼン・先端技術をアピール	5:30:01	5:31:43	1分42秒
						<ヘッドライン>予告・W杯招致へ最終プレゼン	6:00:22	6:00:36	14秒
						<NEWS SUPER > 【サッカー】W杯招致へ最終プレゼン	6:03:20	6:05:03	1分43秒
						< ZOOM NEWS > 【サッカー】W杯招致・日本がプレゼン	6:31:06	6:32:04	58秒
						< ZOOM NEWS > 【サッカー】2022年W杯招致・日本がスイスでアピール	7:03:09	7:04:16	1分7秒
						< ZOOM + > 【サッカー】2022年W杯開催地は?招致の切り札・佐々木りお	7:04:16	7:05:41	1分25秒
						< ZOOM NEWS > 【サッカー】2022年の開催地は?・W杯招致で日本がPR	7:05:41	7:08:35	2分54秒
			スッキリ!!	08:00	10:25	2022年W杯招致へ最終プレゼン	10:10:38	10:12:06	1分28秒
			PON!	10:25	11:30	<PON!×NNNストレイトニュース>【サッカー】2022年W杯招致・最終プレゼンで日本は	11:11:49	11:12:31	42秒
			NNNストレイトニュース	11:30	11:45	【サッカー】2022年W杯・最終プレゼン・日本訴え	11:36:14	11:37:14	1分00秒
			DON!	11:55	13:55	<NEWS エクスプレス>【サッカー】2022W杯開催地・2日夜決定へ	13:35:21	13:35:32	11秒
						<NEWS エクスプレス>【サッカー】2022W杯開催地・2日夜決定へ	13:38:52	13:42:30	3分38秒
			情報ライブ ミヤネ屋	13:55	15:50	【サッカー】2022年W杯開催地2日夜決定へ・日本開催の可能性は?	14:35:32	14:37:17	1分45秒
						【サッカー】2022年W杯開催地2日夜決定へ・日本開催の可能性は?	14:38:47	14:42:36	3分49秒
						【サッカー】2022年W杯開催地2日夜決定へ・日本開催の可能性は?	14:44:46	14:46:16	1分30秒
						【サッカー】2022年W杯開催地2日夜決定へ・日本開催の可能性は?			
news every.	16:53	19:00	【サッカー】2022年W杯招致・各国がPR・日本の切り札は8歳少女	16:53:00	16:53:16	16秒			
			【サッカー】2022年W杯招致・各国がPR・日本の切り札は8歳少女	17:04:09	17:04:25	16秒			
			【サッカー】2022年W杯招致・各国がPR・日本の切り札は8歳少女	17:06:55	17:12:55	6分0秒			
			<きょうコレ>ラインナップ ■ W杯開催地…日本は?	18:45:08	18:45:20	12秒			
			<きょうコレ>【サッカー】2022年W杯開催地…日本は?	18:45:21	18:45:30	9秒			
NEWS ZERO	22:54	23:58	予告・2018年、2022年W杯開催地がまもなく決定	22:56:41	22:56:51	10秒			
			今夜決定・2022年W杯・日本再び開催なるか	23:00:00	23:08:39	8分39秒			
			【サッカー】2022年W杯開催地・間もなく決定	23:55:12	23:55:50	38秒			
TBS	TBSニュースバード	04:45	05:14	コーナーエンディング ▽2022年サッカーワールドカップの開催地が2日深夜に決定する。	5:07:46	5:07:59	13秒		
	早ズバツ!ナマたまご	05:15	05:30	<みのにバトンタッチ!このあと「朝ズバツ!」>「日本へ再び・2022年ワールドカップ招致・最終アピール」	5:29:26	5:30:00	34秒		
	みのもんたの朝ズバツ!	05:30	08:30	オープニング 2022年サッカーW杯招致へ、日本のプレゼン終了	5:30:00	5:32:44	2分44秒		
			<スポーツ&芸能>【サッカー】2022年ワールドカップ招致・日本最終プレゼン	5:49:56	5:50:51	55秒			

12/2	木	TBS			<朝ズバッ!スポーツ>【サッカー】2022年W杯を再び日本へ!招致最終プレゼン	6:30:00	6:34:20	4分20秒	
					<朝ズバッ!ニュース>予告・2022年W杯招致・最終プレゼン	7:11:52	7:11:58	6秒	
					<朝ズバッ!ニュース>2022年ワールドカップ招致・日本最終プレゼン	7:18:08	7:19:20	1分12秒	
			はなまるマーケット	08:30	09:55	<はなまるニュース>【サッカー】2022年に向け「次世代のワールドカップを」	9:52:00	9:53:48	1分48秒
			ひるおび!	11:00	13:50	<JNN NEWS>【サッカー】2022年サッカーW杯・日本が招致演説	11:39:06	11:40:48	1分42秒
						<JNN NEWS>W杯・招致レース・米国・市民の関心は…	11:40:48	11:41:53	1分5秒
			Nスタ	16:53	19:00	<Nスタ HEADLINE>W杯開催は?	17:44:53	17:45:00	7秒
						【サッカー】2022年・開催国は今夜決定・日本の評価急上昇	17:45:00	17:46:24	1分24秒
						【サッカー】日本“有利”に?・W杯まもなく決定	17:48:39	17:52:55	4分16秒
						<こちら運動部>【サッカー】W杯開催地・どこに…	18:47:26	18:48:45	1分19秒
						エンディング ▽2022年W杯開催地についてスタジオコメント	18:58:12	18:58:20	8秒
			ニュース23クロス	22:54	23:45	<クロストップ>【サッカー】2022年サッカーW杯開催地・まもなく決定	22:56:30	22:59:18	2分48秒
						<クロストップ>【サッカー】2022年サッカーW杯開催地・立候補各国がアピール	22:59:18	23:01:21	2分3秒
						<クロストップ>【サッカー】2022年サッカーW杯開催地・まもなく決定・日本開催の可能性は?	23:01:21	23:02:25	1分4秒
						<クロストップ>【サッカー】2018年W杯招致・イングランド・ベッカムも登場	23:02:25	23:03:15	50秒
						<クロストップ>予告・2022年W杯招致!日本大逆転は?・決定直前!・現地から中継	23:03:15	23:03:26	11秒
						【サッカー】W杯開催地まもなく決定・日本「混戦なら勝機」・結果発表は1時間後	23:03:26	23:05:53	2分27秒
						<NEWS FILE>【サッカー】2022年W杯招致・最後のプレゼン終了	4:02:13	4:04:20	2分7秒
						<きょうの予定> ▽サッカーW杯開催地決定控え各地でイベント。	4:24:10	4:24:40	30秒
						<FIRST NEWS>【サッカー】2022年W杯招致・最後のプレゼン終了	4:28:19	4:30:26	2分7秒
<朝イチめざにゆ〜よ〜>サッカーW杯理事会・きょう最終演説	4:36:15	4:37:13				58秒			
めざましテレビ	05:25	08:00	予告・【サッカー】2022年W杯招致へ・日本が最終プレゼン	5:25:00	5:25:10	10秒			
			予告・【サッカー】FIFA・W杯招致合戦・日本最後のアピール	5:26:25	5:27:10	45秒			
			予告・【サッカー】FIFA・W杯招致合戦・日本2022年へアピール	5:28:30	5:28:59	29秒			
			<NEWSON>ラインナップ ▽速報!2022年W杯招致・最終プレゼン	5:30:00	5:30:12	12秒			
			<NEWSON>【サッカー】2022年W杯招致・最後のプレゼン	5:30:12	5:35:20	5分8秒			
			<めざスポ5>予告・【サッカー】FIFA W杯・日本開催へ猛アピール	5:42:52	5:43:08	16秒			

12/2	木	CX			<めざスポ5>【サッカー】W杯・日本開催へ猛アピール	5:44:18	5:46:14	1分56秒			
					<めざスポ5>【サッカー】益田市・キャンプ地立候補	5:46:14	5:48:08	1分54秒			
					<めざスポ5>【サッカー】W杯招致・日本が最終プレゼン	5:48:08	5:48:48	40秒			
					<めざまし600NEWS>2022年W杯開催へ・5カ国が最終プレゼン	6:00:00	6:01:27	1分27秒			
					<めざスポ>【サッカー】初の単独開催なるか・2022年W杯へ最後のアピール	6:20:50	6:22:15	1分25秒			
					<フォーカス ONE>予告・米×韓×豪×カタール・日本招致ライバル分析	6:22:15	6:22:26	11秒			
					<フォーカス ONE>米×韓×豪×カタール・日本招致ライバル分析	6:24:26	6:27:56	3分30秒			
					<めざまし630NEWS>ラインナップ ▽2022年W杯招致最後のプレゼン	6:30:00	6:30:10	10秒			
					<めざまし630NEWS>【サッカー】2022年W杯招致・最後のプレゼン	6:30:10	6:31:14	1分4秒			
					<OH! My にちNY>【サッカー】W杯理事会きょう最終演説	6:38:08	6:39:16	1分8秒			
					【サッカー】大詰めW杯招致合戦・少女パワー日本アピール	7:00:00	7:00:03	3秒			
					【サッカー】大詰めW杯招致合戦・少女パワー日本アピール	7:06:34	7:09:38	3分4秒			
					【サッカー】もう1つのW杯招致・小さな町の大きな期待	7:09:38	7:10:30	52秒			
					【サッカー】大詰めW杯招致合戦・日本人気はワースト2	7:10:30	7:11:15	45秒			
					【サッカー】日本の壁は4カ国・2022年W杯招致行方	7:11:15	7:14:05	2分50秒			
					W杯プレゼン会場生報告・日本vsライバル国の評価	7:14:05	7:17:09	3分4秒			
					とくダネ!	08:00	09:55	<得もり>【サッカー】2022年W杯招致合戦・日本最終プレゼンの切り札は?	8:48:28	8:50:54	2分26秒
								<得もり>【サッカー】2022年W杯招致合戦・日本最終プレゼンの切り札は?	8:51:02	8:52:07	1分5秒
					知りたがり!	09:55	11:30	<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	10:00:57	10:04:32	3分35秒
								<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	10:04:32	10:05:03	31秒
					<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	10:17:59	10:19:42	1分43秒			
					<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	10:21:42	10:23:11	1分29秒			
					<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	10:23:11	10:28:25	5分14秒			
					<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	10:28:25	10:33:21	4分56秒			
					<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	10:33:21	10:35:35	2分14秒			
					<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	10:35:35	10:40:28	4分53秒			
					<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	10:42:28	10:46:04	3分36秒			
					<まとまりました!ヨコ並び研究>かぶりネタランキング ■2022年サッカーW杯・日本招致アピール	10:48:20	10:48:49	29秒			
					<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	11:19:43	11:19:54	11秒			

12/2	木	CX			<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	11:21:20	11:23:16	1分56秒	
					<イチバン知りたがり>【サッカー】2022W杯・今夜決定・日本は勝てるのか?	11:23:16	11:24:04	48秒	
		FNNスピーク	11:30	12:00	【サッカー】W杯招致へ・最終プレゼン	11:34:19	11:36:20	2分1秒	
					【サッカー】W杯招致・最終決戦・・・投票システムは	11:36:20	11:38:35	2分15秒	
					ラインアップ ■2022年W杯今夜開催地決定	11:57:00	11:57:06	6秒	
		FNNスーパーニュース	16:53	19:00	<スポーツの力>【サッカー】2022年W杯招致・あと5時間で開催地決定	18:44:37	18:45:54	1分17秒	
		ニュースJAPAN	23:30	23:55	【予告・直前中継！W杯「日本開催」は？】	23:30:37	23:30:43	6秒	
					【サッカー】2022年W杯・まもなく発表・日本開催は？現地から生報告	23:31:04	23:34:27	3分23秒	
					【サッカー】2022年W杯・まもなく発表・日本開催は？現地から生報告	23:34:27	23:37:34	3分7秒	
		すばると！	23:55	24:35	予告・W杯サッカー開催地SP！！2022年日本開催は！？生中継	23:55:00	23:55:15	15秒	
					予告・日本で再びW杯開催なるか？決定の瞬間をスイスから生中継！	23:55:37	23:55:45	8秒	
					【サッカー】日本悲願のW杯単独開催は？	23:56:45	23:58:19	1分34秒	
					現地スイスから最新情報	23:58:19	23:59:22	1分3秒	
					【サッカー】W杯開催地巡るFIFAの思惑と権力闘争	23:59:22	24:01:09	1分47秒	
					【サッカー】2018年&2022年W杯・日本開催の可能性は…	24:01:09	24:04:36	3分27秒	
					予告・2018・2022年W杯はどこで！？	24:04:36	24:04:41	5秒	
					予告・2022年W杯どこで？日本、韓国、米国、カタール、オーストラリア	24:12:57	24:13:07	10秒	
					【サッカー】FIFA・W杯開催地は？	24:15:07	24:16:15	1分8秒	
					【サッカー】2022年ワールドカップ招致国	24:25:45	24:29:13	3分28秒	
		EX	やじうまテレビ！～マルごと生活情報局	04:55	08:00	【サッカー】W杯招致へ日本がプレゼン	4:55:38	4:56:10	32秒
					予告・【サッカー】2022年W杯招致なるか！？	4:59:16	4:59:38	22秒	
					<500ニュースマルわかり>ラインナップ	5:01:06	5:01:11	5秒	
					▽W杯招致へ日本がプレゼン	5:01:11	5:02:13	1分2秒	
					<5:25ニュースマルわかり！>【サッカー】日本の切り札は・サッカーW杯招致へプレゼン	5:25:11	5:28:00	2分49秒	
					<ANNニュース>予告・最後のアピール	5:50:00	5:50:07	7秒	
					<ANNニュース>【サッカー】2022年W杯サッカー招致・日本が最後のアピール	5:50:13	5:51:39	1分26秒	
					<朝刊マルっとチェック>W杯開催地決定へ・日本招致に厳しい状況	6:10:45	6:11:37	52秒	
					<朝刊マルっとチェック>W杯最終プレゼン・日本はどうだった？	6:11:37	6:14:44	3分7秒	
					<630ニュースマルわかり>ラインナップ	6:30:00	6:30:12	12秒	
					W杯招致へ日本がプレゼン	6:30:12	6:31:02	50秒	
					<630ニュースマルわかり>【サッカー】W杯招致へ日本がプレゼン	7:01:00	7:04:24	3分24秒	
					<700ニュースまるわかり>【サッカー】W杯招致・日本のプレゼンの切り札は…	9:18:23	9:21:07	2分44秒	
		スーパーモーニング	08:00	09:55	<スパモニ情報局>【サッカー】W杯招致・でもその前に！？	9:18:23	9:21:07	2分44秒	

12/2	木	EX			<スパモニ情報局>【サッカー】W杯招致対戦！場外戦勃発・橋下知事は賛成？反対？	9:22:53	9:26:36	3分43秒	
					今日の予定稿 ■スポーツ・2022年W杯開催国・発表へ	9:53:04	9:53:06	2秒	
			ワイド！スクランブル	11:24	13:05	<ANNニュース>日本は8歳の女の子・米国はあの大物も	11:48:40	11:50:19	1分39秒
			スーパーJチャンネル	16:53	19:00	【サッカー】2022年W杯招致・命運握る8歳少女	17:06:02	17:11:22	5分20秒
					【サッカー】2022年W杯招致・命運握る8歳少女	17:13:23	17:14:10	47秒	
					【サッカー】2022年W杯招致・命運握る8歳少女	17:14:10	17:15:06	56秒	
					【サッカー】2022年W杯招致・命運握る8歳少女	17:15:06	17:16:58	1分52秒	
					【サッカー】2022年W杯招致・命運握る8歳少女	17:16:58	17:18:01	1分3秒	
			報道ステーション	21:54	23:10	【サッカー】2022年W杯まもなく発表・あるか日本「逆転」決め手は	22:18:00	22:26:35	8分35秒
		TX	モーニングサテライト	05:45	06:40	【サッカー】W杯・日本招致委が最終演説	6:17:17	6:18:25	1分8秒
			Emorning	08:56	11:25	【サッカー】2002年・W杯招致で最後のプレゼン	9:20:45	9:21:00	15秒
					【サッカー】2002年・W杯招致で最後のプレゼン	9:21:30	9:22:46	1分16秒	
					【サッカー】日本・最終プレゼン「次世代W杯」強調	11:00:30	11:00:42	12秒	
					【サッカー】日本・最終プレゼン「次世代W杯」強調	11:02:42	11:04:00	1分18秒	
					<日経 CNBC>2日の予定 FIFA(国際サッカー連盟)理事会で18年と22年のW杯開催地決定	11:21:56	11:22:32	36秒	
			NEWS FINE	15:35	16:00	【サッカー】2022年サッカーW杯開催地決定へ	15:38:07	15:39:24	1分17秒
					東京市場・個別銘柄の動き「W杯招致でソニー CEO が力説」	15:41:30	15:42:00	30秒	
			ワールドビジネスサテライト	23:30	24:28	オープニング ▽FIFAワールドカップ開催国の発表については、番組内で最新情報を伝える予定。	23:30:18	23:30:29	11秒
					【サッカー】予告・2022年の開催地は…会場から生中継	23:41:40	23:41:47	7秒	
					【サッカー】2022年・W杯誘致・日本アピール	24:19:34	24:24:40	5分6秒	
					【サッカー】2022年・W杯誘致・日本アピール	24:26:18	24:26:38	20秒	
			バラエティ7・neo sports	24:28	24:43	予告・【サッカー】2022年FIFA・サッカーW杯開催地発表	24:35:36	24:35:43	7秒
					【サッカー】2022FIFAワールドカップ・開催地ついに決定	24:39:44	24:42:25	2分41秒	
12/3	金	NHK	NHKニュースおはよう日本	04:30	08:00	【サッカー】2022年W杯・開催地はカタール・日本は落選	4:30:40	4:32:41	2分1秒
					予告・2022年W杯・日本落選・開催地はカタール	5:00:22	5:00:38	16秒	
					【サッカー】2022年W杯・開催地はカタール・日本は落選	5:01:15	5:03:16	2分1秒	
					2022年W杯・日本落選	5:30:24	5:30:40	16秒	
					予告・【サッカー】2022年W杯・開催地はカタールに決定	6:00:17	6:00:28	11秒	
					【サッカー】開催地はカタール・日本は落選	6:01:38	6:03:45	2分7秒	
					【サッカー】2022年ワールドカップ・日本落選・開催地はカタール	6:30:00	6:32:42	2分42秒	

12/3	金	NHK			予告・【サッカー】2022年サッカーワールドカップ開催地・中東カタール・日本落選	7:00:07	7:00:35	28秒		
					【サッカー】2022年ワールドカップ開催地・日本落選	7:03:33	7:09:28	5分55秒		
					【サッカー】2022年ワールドカップ開催地・カタール	7:11:02	7:11:21	19秒		
					【サッカー】2022年ワールドカップ・日本落選・開催地はカタール	7:58:45	7:59:01	16秒		
			首都圏ネットワーク	18:10	18:59	【サッカー】ワールドカップ・2022年・開催地はカタール	18:21:24	18:23:12	1分48秒	
					ニュースラインナップ ■ 2022年ワールドカップ・日本選ばれず	18:50:23	18:50:27	4秒		
			NHK ニュース7	18:59	19:30	【サッカー】FIFA・W杯の開催地が決定	19:24:01	19:26:33	2分32秒	
			ニュースウォッチ9	21:00	22:00	【サッカー】2018年・2022年のW杯開催地決まる	21:54:55	21:57:05	2分10秒	
			Bizスポ・ワイド	22:55	23:50	< Biz スポ Sports > 【サッカー】2018年・2022年のW杯開催地決定	23:38:33	23:39:37	1分4秒	
			NTV	Oha! 4 NEWS LIVE	04:00	05:20	< HEADLINE・NEWS > ラインナップ ■ 22年W杯・日本落選	4:01:38	4:01:43	5秒
						< HEADLINE・NEWS > 予告・日本落選・2022 FIFA WORLD CUP はカタール	4:02:10	4:02:24	14秒	
						【サッカー】W杯・2022年・開催地はカタールに決定	4:02:38	4:04:20	1分42秒	
						< HEADLINE・SPORTS > 予告・【サッカー】日本落選・22年W杯はカタールで開催	4:21:00	4:21:22	22秒	
						【サッカー】W杯・2022年・開催地はカタールに決定	4:28:45	4:30:21	1分36秒	
						<おはよんスポーツ> 【サッカー】スイス・チューリヒ・国際サッカー連盟・理事会	4:49:27	4:50:50	1分23秒	
						【サッカー】日本は落選・2022年W杯はカタール開催	4:58:30	5:00:19	1分49秒	
						<おはよんスポーツ> コーナーオープニング ▽ サッカーW杯開催決定の映像	5:09:53	5:09:55	2秒	
						<おはよんスポーツ> 【サッカー】スイス・チューリヒ・国際サッカー連盟・理事会	5:09:56	5:11:23	1分27秒	
						< FLASH NEWS > まとめ・【サッカー】W杯2022年・開催地はカタールに決定	5:15:46	5:16:05	19秒	
		ズームイン!! SUPER			05:20	08:00	予告・【サッカー】2022年W杯・日本落選	5:20:13	5:20:32	19秒
						< 530ヘッドライン > 【サッカー】2022年W杯はカタール・日本2回目の投票で落選	5:30:03	5:31:47	1分44秒	
						<ヘッドライン> 予告・日本・W杯開催ならず	6:00:06	6:00:13	7秒	
				< NEWS SUPER > 【サッカー】日本・W杯開催ならず	6:00:34	6:02:17	1分43秒			
		< ZOOM NEWS > 【サッカー】W杯招致・日本落選	6:31:03	6:31:50	47秒					
		< ZOOM NEWS > 【サッカー】ワールドカップ開催国・2022年はカタールに…日本は落選	7:04:40	7:09:04	4分24秒					
スッキリ!!	08:00	10:25	< 大竹真のNEWS ッス > 【サッカー】2022年W杯・開催地は?	8:50:27	8:52:24	1分57秒				
			< 大竹真のNEWS ッス > 【サッカー】2022年W杯・開催地は?	8:54:24	8:57:39	3分15秒				
			【サッカー】2022年日本W杯開催ならず	10:10:22	10:12:03	1分41秒				
PON!	10:25	11:30	< NNN ストレイトニュース > 2022年W杯はカタール	11:11:47	11:11:52	5秒				
NNN ストレイトニュース	11:30	11:45	【サッカー】2022年W杯・カタールで開催決定	11:37:45	11:38:51	1分6秒				

12/3	金	NTV	DON!	11:55	13:55	< NEWS エクスプレス > 【サッカー】2022年杯・カタールで開催決定	13:35:58	13:37:55	1分57秒		
			news every.	17:00	19:00	【サッカー】2022年W杯はカタール・日本落選に失望広がる	17:17:10	17:18:55	1分45秒		
						< きょうコレ > ラインナップ ■ 日本W杯開催地「落選」	18:44:32	18:44:45	13秒		
			NEWS ZERO	23:58	24:58	【サッカー】W杯開催地決定! 各国の反応は?	24:08:40	24:13:57	5分17秒		
						【サッカー】W杯開催地決定! 各国の反応は?	24:56:34	24:56:41	7秒		
			TBS	TBS ニュースバード	04:45	05:14	【サッカー】2022年W杯開催地・日本落選・カタールに	4:45:18	4:46:10	52秒	
					早ズバツ! ナマたまご	05:15	05:30	【サッカー】FIFAワールドカップ・22年カタール・日本落選	5:15:15	5:17:22	2分7秒
					みのもんたの朝ズバツ!	05:30	08:30	【サッカー】2022年FIFAワールドカップ・開催国決定	5:30:14	5:33:09	2分55秒
							< 朝ズバツ! ニュース > 【サッカー】W杯単独開催・日本かなわず	5:40:22	5:42:02	1分40秒	
							< 朝ズバツ! ニュース > 【サッカー】FIFAワールドカップ招致レース・勝った国・敗れた国	5:42:02	5:43:40	1分38秒	
						< スポーツ & 芸能 > 【サッカー】FIFA2018年 & 2022年W杯開催国決定	5:49:38	5:51:02	1分24秒		
						< けさの顔 > 予告・【サッカー】2022年W杯日本は・・・	6:01:11	6:01:15	4秒		
						< 朝ズバツ! ニュース > 【サッカー】2022年W杯・日本落選・開催地はカタール	6:03:00	6:04:54	1分54秒		
						< 朝ズバツ! ニュース > 【サッカー】W杯招致レース・勝った国・負けた国	6:04:54	6:06:30	1分36秒		
						< 朝ズバツ! スポーツ > 【サッカー】開催国決定	6:30:30	6:33:42	3分12秒		
						< 朝ズバツ! ニュース > 予告・2022年W杯の開催国は! ?	7:08:58	7:09:21	23秒		
						< 朝ズバツ! ニュース > 「2022年W杯」開催国発表・日本は?	7:10:51	7:12:26	1分35秒		
		はなまるマーケット			08:30	09:55	< はなまるニュース > 【サッカー】W杯招致レース・勝った国敗れた国	9:52:00	9:53:53	1分53秒	
		ひるおび!	11:00	13:50	< JNN NEWS > 【サッカー】W杯開催地・日本は落選	11:35:04	11:37:25	2分21秒			
		Nスタ	16:53	19:00	< こちら運動部 > コーナーオープニング ▽ 2022年サッカーW杯開催地・日本落選の話題	18:44:03	18:44:19	16秒			
					< こちら運動部 > 【サッカー】2022はカタール・歓喜の涙	18:47:03	18:47:43	40秒			
		S☆1・スーパーサッカー〜J	24:55	25:25	【サッカー】2018 & 2022・W杯開催国決定	24:56:05	24:56:57	52秒			
		CX	めざにゅ〜	04:00	05:25	【サッカー】2022年W杯開催地はカタール	4:00:22	4:01:21	59秒		
< NEWS FILE > 2018、2022年・W杯開催地カタール決定・日本落選	4:03:21					4:04:40	1分19秒				
< FIRST NEWS > 【サッカー】日本は落選・2018、2022年W杯開催地決定	4:29:03					4:30:23	1分20秒				
< 朝イチめざにゅ〜よ〜 > サッカーW杯招致・米国落選・国民はショックなし	4:34:46					4:35:46	1分00秒				
< MEZA NEWS > 【サッカー】2022年サッカーW杯・日本落選	4:37:03					4:38:19	1分16秒				
【サッカー】2022W杯はカタール・日本落選	4:59:00					4:59:21	21秒				
< TOP NEWS > 【サッカー】日本は落選・2018、2022年W杯開催地決定	5:00:16					5:02:26	2分10秒				

12/3	金	CX			< TOP NEWS > 【サッカー】W杯・2022年・開催地選考・日本2番目に落選	5:02:26	5:03:07	41秒	
					< TOP NEWS > 【サッカー】カタール「理念」と「資金力」	5:03:07	5:04:01	54秒	
					< TOP NEWS > 【サッカー】日本は新味欠け、設備が弱い	5:04:01	5:05:04	1分3秒	
			めざましテレビ	05:25	08:00	予告・【サッカー】W杯開催地決定・日本落選・18年はロシア・22年はカタール	5:25:00	5:25:10	10秒
					予告・【サッカー】W杯開催地決定・18年はロシア・22年はカタール・日本落選	5:26:25	5:27:01	36秒	
					予告・【サッカー】W杯開催地決定・18年ロシア・22年カタール	5:28:30	5:28:55	25秒	
					< NEWSON > ラインナップ ▽ 22年W杯はカタール・日本は落選	5:30:00	5:30:12	12秒	
					< NEWSON > 【サッカー】日本は落選・2018、2022年W杯開催地決定	5:30:12	5:34:00	3分48秒	
					<めざスポ5> 予告・【サッカー】W杯開催地・日本は落選・肩落とす日本サッカー協会	5:42:29	5:42:45	16秒	
					<めざスポ5> 【サッカー】W杯開催地決定・18年ロシア・22年カタール	5:43:55	5:48:05	4分10秒	
					<めざまし600NEWS> 2022年W杯・日本招致ならず	6:00:00	6:01:47	1分47秒	
					<めざスポ> 2018年・2022年・サッカーW杯開催地が決定	6:17:13	6:17:51	38秒	
					<フォーカスONE> 予告・2022年サッカーW杯・中東カタールで初開催	6:22:27	6:22:40	13秒	
					<フォーカスONE> 2022年サッカーW杯・中東カタールで初開催	6:24:40	6:27:56	3分16秒	
					<めざまし630NEWS> ラインナップ ▽ 2018、2022年W杯開催地決定	6:30:00	6:30:12	12秒	
					<めざまし630NEWS> 【サッカー】日本は落選・2018、2022年W杯開催地決定	6:30:12	6:31:23	1分11秒	
					<めざまし630NEWS> 【サッカー】言わせTEL	6:31:23	6:34:40	3分17秒	
					<OH! My にちNY> ワールドカップ招致・米国人は「？」	6:38:08	6:39:10	1分2秒	
					<めざまし700NEWS> 【サッカー】日本落選にガックリ・・・2022年W杯はカタール	7:00:00	7:02:08	2分8秒	
					<めざまし700NEWS> 【サッカー】22年中東カタールで初開催・熱くて豊かなW杯に!	7:02:08	7:03:50	1分42秒	
					<めざまし700NEWS> 【サッカー】2022年W杯・日本落選・その瞬間会場は	7:06:02	7:08:57	2分55秒	
			とくダネ!	08:00	09:55	<得もり> 【サッカー】2022年サッカーW杯・中東・カタールで初開催	8:51:36	8:53:54	2分18秒
			知りたがり!	09:55	11:30	<あさネタ> 【サッカー】サッカーW杯・開催地決定!・2022年・日本はどうなった!?	10:09:43	10:12:50	3分7秒
						<あさネタ> かぶりネタランキング4位・2022年W杯開催地はカタール・9分。	10:12:50	10:13:19	29秒
			FNNスピーク	11:30	12:00	【サッカー】2022年W杯・日本の夢散る	11:33:16	11:35:09	1分53秒
						【サッカー】2022年W杯・わずか2票・・・日本の敗因は	11:35:09	11:36:15	1分6秒
			FNNスーパーニュース	16:53	19:00	<にゅーすクリップ> 【サッカー】日本がつくり・・・W杯はカタール	17:20:10	17:21:06	56秒
			すぽると!	24:23	25:05	【サッカー】FIFAワールドカップ・開催国	24:25:08	24:29:10	4分2秒

12/3	金	EX	やじうまテレビ!〜マルごと生活情報局	04:55	08:00	予告・【サッカー】2022年サッカーワールドカップ開催国・カタールに決定	4:55:50	4:56:09	19秒			
					予告・【サッカー】2022年サッカーワールドカップ開催国・カタールに決定	4:59:16	4:59:34	18秒				
					<500 ニュースマルわかり> 【サッカー】サッカーW杯・日本落選	5:01:34	5:02:50	1分16秒				
					<5:25 ニュースマルわかり!> 【サッカー】サッカーW杯開催地決定	5:25:11	5:29:47	4分36秒				
					<ANN ニュース> 【サッカー】FIFAワールドカップ・2022年開催はカタール	5:50:00	5:50:06	6秒				
					<ANN ニュース> 【サッカー】FIFAワールドカップ・2022年開催はカタール	5:50:13	5:53:10	2分57秒				
					<朝刊マルッとチェック> 日本・サッカーW杯招致ならず	6:11:37	6:14:37	3分0秒				
					<630 ニュースマルわかり> 【サッカー】W杯開催地・カタールに決定	6:32:33	6:32:43	10秒				
					<630 ニュースマルわかり> 【サッカー】W杯開催地・カタールに決定	6:34:28	6:42:23	7分55秒				
					<700 ニュースまるわかり> 【サッカー】サッカーW杯・開催地決まる	7:01:29	7:11:24	9分55秒				
					<マルッとスポーツ!> 【サッカー】2022年W杯招致・開催地はカタール	7:24:33	7:24:36	3秒				
					<マルッとスポーツ!> 【サッカー】2022年W杯招致・開催地はカタール	7:24:42	7:25:22	40秒				
					ワイド!スクランブル	11:24	13:05	<ANN ニュース> 予告・【サッカー】日本落選・2022年W杯はカタール	11:45:15	11:45:26	11秒	
								<ANN ニュース> 【サッカー】W杯開催地・ロシアとカタールに決定	11:47:29	11:51:00	3分31秒	
					TX	モーニングサテライト	05:45	06:40	【サッカー】日本・2022年W杯開催ならず	6:15:45	6:15:59	14秒
								【サッカー】日本・2022年W杯開催ならず	6:16:59	6:17:55	56秒	
						Emorning	08:56	11:25	【サッカー】2022年W杯・日本開催ならず	9:20:12	9:20:27	15秒
								【サッカー】2022年W杯・日本開催ならず	9:20:58	9:22:04	1分6秒	
								【サッカー】2022年W杯・日本開催ならず	11:02:39	11:03:45	1分6秒	
						NEWS FINE	16:52	17:20	予告・日本・残念	17:13:01	17:13:10	9秒
					【サッカー】中東カタールで開催・2022年W杯・日本は落選	17:15:10	17:16:12	1分2秒				
12/4	土	NHK	NHK 週刊ニュース	08:15	08:45	【サッカー】2022年W杯開催地決定	8:41:18	8:42:29	1分11秒			
			NHK 海外ネットワーク	18:10	18:42	<今週の世界> 【サッカー】2日(木)・W杯開催地決定	18:25:59	18:26:49	50秒			
		NTV	ウェークアップ! ぷらす	08:00	09:25	<今週のニュース ウェークザウィーク> 【サッカー】2022年ワールドカップ・日本開催ならず	8:07:51	8:08:35	44秒			
			月刊サッカーアース	26:05	27:05	【サッカー】2018年・2022年W杯開催国決定	26:52:34	26:53:09	35秒			
		TBS	知っとこ!	07:30	09:25	<知っとこ! 1週間> 【サッカー】2022年W杯・開催地決定	8:04:26	8:06:04	1分38秒			
			情報7days ニュースキャスター	22:00	23:24	<今週のニュース7days> 【サッカー】2022年W杯開催地・日本落選	22:20:16	22:20:42	26秒			
			S☆1	24:00	24:58	<ワルスタ> 【サッカー】W杯開催地決定・泣き笑い	24:36:40	24:39:01	2分21秒			
		CX	めざましどようびメガ	09:55	10:40	<イコクのつばやき de WEEK> 【サッカー】2022年W杯開催国決定	10:03:23	10:06:55	3分32秒			

12. 招致 PR 用制作物一覧



ステッカー



ピンバッジ



Tシャツ



ストラップ



タオルマフラー



ぬいぐるみ (大)



ぬいぐるみ (小)



タオルハンカチ



紙袋 (大)



紙袋 (小)



法被



手ぬぐい



ポスター



扇子



ネクタイ



サッカーボール



ポスター・チラシ



スタジアム・バナー

13. FIFA 理事会メンバー (2010年12月2日現在)

大陸連盟	役職	氏名	その他役職	国籍	就任年
FIFA	会長	ジョゼフ・S・ブラッター		スイス	1998年
AFC	副会長	鄭 夢準		韓国	1994年
	理事	モハメド・ビン・ハمام	AFC 会長	カタール	1996年
	理事	ワラウィ・マクディ		タイ	1997年
	理事	小倉 純二	JFA 会長	日本	2002年
CAF	副会長	イッサ・ハヤトゥー	CAF 会長	カメルーン	1990年
	理事	アモス・アダム*		ナイジェリア	2006年
	理事	ジャック・アヌマ	コートジボアール協会会長	コートジボアール	2007年
	理事	ハニー・アボ・リダ		エジプト	2009年
CONCACAF	副会長	ジャック・A・ワーナー	CONCACAF 会長	トリニダードトバゴ	1983年
	理事	チャック・プレーザー	CONCACAF 専務理事	米国	1996年
	理事	ラファエル・サルゲロ		グアテマラ	2007年
CONMEBOL	上級副会長	フリオ・H・グロンドーナ	アルゼンチン協会会長	アルゼンチン	1988年
	理事	ニコラス・レオス	CONMEBOL 会長	パラグアイ	1998年
	理事	リカルド・テシェイラ	ブラジル協会会長	ブラジル	1994年
OFC	副会長	レイナルド・テマリー*	OFC 会長	タヒチ	2004年
UEFA	副会長	ミッシェル・プラティニ	UEFA 会長	フランス	2002年
	副会長	アンヘル・マリア・ビジャル・ジョーナ	スペイン協会会長	スペイン	1998年
	副会長	ジェフ・トンブソン	前イングランド協会会長	イングランド	2007年
	理事	ミッシェル・ドーグ		ベルギー	1988年
	理事	セネス・アージック	トルコ協会名誉会長	トルコ	1996年
	理事	ビタリー・ムトコ	ロシア協会会長	ロシア	2009年
	理事	フランツ・ベッケンバウアー		ドイツ	2007年
	理事	マリオス・レフカリティス	キプロス協会名誉会長	キプロス	2007年

*印は職務停止中

14. FIFA 理事関連受発信文書

FIFA 理事関連受発信文書リスト (抜粋)

ブラッター FIFA 会長表敬訪問 (2010年5月)			
05/07	ブラッター FIFA 会長	→	犬飼 JFA 会長
05/07	ブラッター FIFA 会長	→	鳩山総理大臣

招致協力依頼 (2010年9月)			
09/03	小倉 FIFA 理事/JFA 会長/委員長	→	FIFA 理事各位 (各言語翻訳)
09/10	ブラッター FIFA 会長	→	小倉 JFA 会長
09/16	グロンドーナ FIFA 上級副会長	→	小倉 JFA 会長/FIFA 理事/委員長
10/26	ヴァルク FIFA 事務総長	→	小倉 JFA 会長

大会構想プレゼンテーションに対する御礼 (2010年10月)			
10/07	小倉 FIFA 理事/JFA 会長/委員長	→	ヴァルク FIFA 事務総長
10/12	ヴァルク FIFA 事務総長	→	小倉委員長

招致協力依頼 (2010年11月)			
11/17	小倉 FIFA 理事/JFA 会長/委員長	→	FIFA 理事各位 (各言語翻訳)
11/17	11/17 付レター添付写真		
11/23	ブラッター FIFA 会長	→	小倉 FIFA 理事/JFA 会長/委員長

御礼状 (2010年12月)			
12/09	小倉 FIFA 理事/JFA 会長/委員長	→	FIFA 理事各位 (各言語翻訳)
12/07	ブラッター FIFA 会長	→	小倉 JFA 会長
12/07	ドーグ FIFA 理事	→	小倉 FIFA 理事/JFA 会長/委員長
12/13	レフカリティス FIFA 理事	→	小倉 FIFA 理事/JFA 会長/委員長
12/14	ヴァルク FIFA 事務総長	→	小倉 FIFA 理事

05/07 ブラッター FIFA 会長 → 犬飼 JFA 会長

LE PRÉSIDENT

FIFA

For the Game. For the World.

Japan Football Association
Mr. Motoaki Inukai
President
JFA House
Football Ave.
Bunkyo-ku
Tokyo 113-8311
Japan

2010年5月7日

FIFA ブラッター会長より JFA 犬飼会長宛
5月3日、川端文部科学大臣及び小松在スイス日
本大使と共に FIFA 本部へお越しいただき、お礼申
上げます。我々の友情の絆の強さを再認識致し
ました。また、心のこもったプレゼントをいただ
き、大変感謝いたします。

Zurich, 7 May 2010

Dear President, *dear friend,*

I would like to kindly thank you for your visit on Monday 3 May together with Mr. Tatsuo Kawabata, Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology and his delegation, as well as the Japanese Ambassador in Switzerland Mr. Komatsu.

It was a pleasure for me to welcome such a high delegation at the Home of FIFA and the talks we had were marked by sincere friendship and respect.

I particularly wanted to thank you wholeheartedly for the precious present you gave me during the visit.

Looking forward to seeing you soon again, I remain,

Yours sincerely,

Joseph S. Blatter

Joseph S. Blatter

cc. Junji Ogura, FIFA Executive Committee Member

Fédération Internationale de Football Association
FIFA-Strasse 20 P.O. Box 8044 Zurich Switzerland Tel +41-(0)43-222 7777 Fax: +41-(0)43-222 7878 www.FIFA.com

05/07 ブラッター FIFA 会長 → 鳩山総理大臣

LE PRÉSIDENT

FIFA

For the Game. For the World.

Mr Yukio Hatoyama
Prime Minister of Japan
Tokyo,
Japan

鳩山首相宛て

JFA 会長及びワールドカップ日本招致委員会委員長を務める
犬飼氏との訪欧の際、文科省の川端大臣より
4月27日付の鳩山首相からのレターを受領したことをご連絡。
2009年9月の訪日時での会談の謝意と首相就任への祝辞、
引き続き日本のサッカーへの支援を要請。
FIFA ブラッター会長 より

Zurich, 7 May 2010

Dear Prime Minister,

I would like to acknowledge receipt of your letter dated 27 April which was handed over to me by the Minister of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Mr Tatsuo Kawabata, during his visit together with the President of the Japan FA and Chairman of the Japan Bid Committee, Mr Motoaki Inukai, at the Home of FIFA this week.

I remember with pleasure our meeting on occasion of my visit to Japan last September and I would like to extend my compliments to you after you took office as the Prime Minister of Japan on 16 September, wishing you hereby continuous success.

Furthermore, I would like to inform you that we have taken note of the agreement of the Cabinet to back Japan's bid. Your support will undoubtedly help to develop football in your country and it will provide a solid basis for future success.

Finally, I wish your entire nation, its citizens and especially its young people a peaceful and happy future accompanied by continued prosperity and growth.

I look forward to seeing you again soon.

Yours faithfully,

Joseph S. Blatter

Joseph S. Blatter

09/03 小倉 FIFA 理事 / JFA 会長 / 委員長 → FIFA 理事各位 (各言語翻訳)

JUNJI OGURA
Executive Committee Member

100 YEARS FIFA 1904 - 2004



September 3, 2010

Mr. Joseph S. Blatter
President
Fédération Internationale de Football Association

Dear Mr. Blatter,

Thank you for your kind letter congratulating me on my appointment as the president of the Japan Football Association and the Chairman of the Japan Bid Committee for the 2022 FIFA World Cup™. My commitment to the development of football in Japan, in Asia, and throughout the world remains unyielding. I would appreciate your continued friendship and support as I take on the additional challenges and responsibilities that accompany my new roles.

In accordance with the AFC's mandatory retirement age of 70, I shall be stepping down from my present post as FIFA Executive Committee member at the end of the term. These past nine years I served on the FIFA Executive Committee have been a valuable experience for me personally and also for Japanese football. Nothing can replace the friendship I have been able to establish with so many wonderful people from the world football family. I was especially touched to be honoured with the FIFA Order of Merit at the July 9 FIFA Congress and I would like to express my gratitude for your support. It is very encouraging that my humble contribution to football has been recognised and I am truly grateful for all the congratulatory remarks I received at the award ceremony.

As you are well aware, Japan is bidding to host the 2022 FIFA World Cup™. Though some may say that little time has passed since we hosted the 2002 tournament jointly with the Korea Rep., we feel that we hosted only half a World Cup and there is still much work to be done before Japan can join ranks with the leading football nations of the world. For Japan to establish itself as a leading footballing nation and a sustainable contributor to global football, we need your support to bring the 2022 FIFA World Cup™ to Japan.

There are few comments that can surpass the praise we received for the 2002 tournament, which was called "the World Cup of Smiles." In 2022 we want to spread the smiles beyond the host country to all the countries and regions affiliated with FIFA and beyond and to share the inspiration and emotions of the FIFA World Cup™ with the entire world, thus our goal of "208 Smiles."

c/o Japan Football Association
JFA House, 3-10-15, Hongo, Bunkyo-ku, 113-0033 Tokyo, Japan
Tel.: P: +81-3/3312 0240; B: +81-3/3830 2004; Fax: +81-3/3830 2005; E-mail: junjio@jfa.or.jp

JUNJI OGURA
Executive Committee Member

100 YEARS FIFA 1904 - 2004



Joseph S. Blatter

-2-

September 3, 2010

In the Bid Book we submitted to you, we emphasised our outstanding operational capabilities as our cornerstone and added the following three proposals we believe will help us achieve our goal of "208 Smiles":

1. Revolutionary imaging technology based on leading-edge technologies;
2. Revolutionary Fan Fests that will take place in the 208 FIFA-affiliated nations and regions; and
3. Revolutionary next-generation educational activities for children, who are our future.

Each one of these proposals will contribute to the development of global football and the solid promotion of FIFA CSR activities such as "Football for Hope." At the same time, these proposals will further augment the value of the FIFA World Cup™ and provide a concrete strategy for securing FIFA's sustainable development through the creation of a new profit model.

I am confident that our bid proposal will meet the approval of my fellow friends and colleagues at FIFA. The national government of Japan and the local government concerned have assured us that a new stadium with a capacity of 83,000 would be constructed once our bid succeeds. The Osaka Ecology Stadium, which is the candidate venue for the opening and the final match, will be a stadium truly friendly to the environment where measures such as high-efficient solar panels and batteries, biomass power generation based on nearby wind power generators and incineration plants providing all necessary carbon-free energy will be adopted. We sincerely believe that this stadium will contribute in setting a new standard of the stadium for the next generation.

We are confident that there is not a single obstacle in the horizon for us to host the 2022 FIFA World Cup™. I know that you want football to develop more than any one else in the world, and feel confident that Japan's proposal will meet with your satisfaction. I hope I can count on your strong support.

Yours sincerely,


Junji Ogura
Executive Committee Member, FIFA
President, Japan Football Association
Chairman, 2022 FIFA World Cup Japan Bid Committee

各 FIFA 理事宛
以下の内容をもって招致協力を要請
・JFA 新会長及び招致委員長就任に対する御礼への感謝
・FIFA 理事として任期満了を迎えるにあたり、
これまで培ってきた貴重な経験と友情に対する謝辞
・2022 年大会招致に対する協力要請
・大会構想の概要説明
小倉 FIFA 理事 / JFA 会長 / 招致委員長

c/o Japan Football Association
JFA House, 3-10-15, Hongo, Bunkyo-ku, 113-0033 Tokyo, Japan
Tel.: P: +81-3/3312 0240; B: +81-3/3830 2004; Fax: +81-3/3830 2005; E-mail: junjio@jfa.or.jp

09/10 ブラッター FIFA 会長 → 小倉 JFA 会長

09/16 グロンドーナ FIFA 上級副会長 → 小倉 JFA 会長 / FIFA 理事 / 委員長

LE PRÉSIDENT

FIFA

For the Game. For the World.

Japan Football Association
Mr Junji Ogura
President
JFA House
Football Ave.
Bunkyo-ku
Tokyo 113-8311
Japan

小倉 JFA 会長宛て
9/3 付の小倉会長の FIFA 理事引退のご連絡レター受信の連絡と、
これまでの活動への慰労の言葉。
招致ブックサマリー版送付への謝意と招致活動への激励。
ブラッター-FIFA 会長

Zurich, 10 September 2010

Dear President, *my friend,*

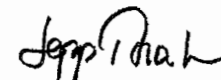
Hereby I would like to acknowledge receipt of your letter dated 3 of September.

I really regret that you have to retire from the FIFA Executive Committee cause of the age limit within your confederation. Let me express my appreciation towards your friendship and all the support given to my person during all these years.

Furthermore allow me a few words to congratulate you and your team for the very interesting initiatives presented in the enclosed "208 Smiles" proposal in relation to the Bid for the 2022 FIFA World Cup™, and the hard work behind the chair of the Bid Committee, wishing you good luck and success with it.

Looking forward to seeing you soon again in Zurich next month on occasion of our next Executive Committee meeting, I remain,

Yours sincerely,



Joseph S. Blatter

16/09/2010 14:13 +54-11-4975-4410

AFA

PAGE 01

ASOCIACION DEL FUTBOL ARGENTINO

Buenos Aires, 14 de septiembre de 2010.

Señor
Junji Ogura
Presidente Asociación Japonesa de Fútbol
Miembro del Comité Ejecutivo de la FIFA
Presidente Comité de Candidatura Japón 2022
S/D.

Estimado Señor Presidente:

Me complace dirigirme a usted para acusar recibo de su conceptuosa nota de fecha 3 del actual.

En primer lugar agradezco, muy sinceramente, los elogiosos términos vertidos hacia el suscrito y al resto de la dirigencia del fútbol argentino y sudamericano.

Respecto al apoyo requerido para que Japón lleve a cabo la Copa Mundial de la FIFA 2022 debo señalarle que, como usted bien sabe, no tenemos más que elogios para vuestro país, dada la excelente relación que mantenemos desde hace muchos años.

De todos modos, este tema será analizado en el seno de la Confederación Sudamericana de Fútbol y su resultado será el que manifestaremos ante la Federation Internationale de Football Association.

Sin otro motivo, aprovecho la circunstancia para saludarlo con mi más distinguida consideración.


Julio H. Grondona
Presidente

小倉 JFA 会長/FIFA 理事/招致委員長宛て
9月3日貴信拝受。

日頃のアルゼンチン及び南米への協力に感謝申し上げます。

2022年の招致活動へのサポートについてですが、

長年の我々との関係からわかるとおり、日本に対する賞賛の言葉以外ありません。

本件については、南米連盟の中で分析される案件であり、結果は FIFA により決定されます。

今後とも宜しくお願いいたします。

グロンドーナ アルゼンチンサッカー協会会長

adidas Coca-Cola Quilmes YPF Claro Aitalcred Standard Bank

Sponsors Oficiales de la Selección Argentina

10/26 ヴァルケ FIFA 事務総長 → 小倉 JFA 会長



Mr. Junji Ogura
President Japan Football Association
JFA House, Football Ave. Bunkyo-ku
113-8311 Tokyo
JAPAN

Zurich, 26 October 2010
SG/bru

小倉 JFA 会長
9/29 付レターとサマリー送付への御礼。
招致の成功を祈る旨。
ジェローム・ヴァルケ FIFA 事務総長

Your letter referring to 2022 and the Bid Book summary

Dear President, *Junji*

I would like to express my sincere pleasure I had reading your letter dated 29 September 2010 and when reviewing the Bid Book summary. I was indeed touched by the proposals leading to the "208 smiles".

There is no doubt that Japan is capable of hosting another very special FIFA World Cup™ – as you have shown already eight years ago in co-operation with South Korea. The Japanese culture and especially its people could again turn such tournament into an unique experience.

As you thoughtfully pointed out, friendship is irreplaceable and support from a friend is important and carrying great weight. And thus, you can be assured that I will give equal support also to your country during the bidding process and of course the 2022 FIFA World Cup™, should Japan succeed.

I look forward to the final stage of the bidding process and the Host Announcement for the FIFA World Cup™ 2018 and 2022 on 2 December this year.

Your Sincerely,
FIFA

Jerome Valcke
Jerôme Valcke
FIFA Secretary General

Fédération Internationale de Football Association
FIFA-Strasse 20 P.O. Box 8044 Zurich Switzerland Tel: +41-(0)43-222 7777 Fax: +41-(0)43-222 7878 www.FIFA.com

10/07 小倉 FIFA 理事 / JFA 会長 / 委員長 → ヴァルケ FIFA 事務総長

JUNJI OGURA
Executive Committee Member

100 YEARS FIFA 1904 - 2004



By Facsimile Transmission

07 October 2010

Mr. Jérôme Valcke
Secretary General,
Fédération Internationale de Football Association

ジェローム・ヴァルケ FIFA 事務総長宛て
チューリヒでの日本招致委員会との面談(プレゼンテーション)の謝礼。
小倉 FIFA 理事/JFA 会長/招致委員長

Dear Mr. Valcke,

I trust this letter finds you fit and well.

First of all, I would like to express our sincere gratitude to you for sparing your precious time for our presentation in Zurich on 5 October despite your busy schedule.

Your evaluation and advice on our bid concept gave us some confidence and I promise you that we will make further effort in convincing all of the EXCO Members that Japan is the choice for 2022.

No matter what the result to be made on 02 December is, we are always grateful for your generous supports to Japan Football Association.

Yours faithfully,

Junji Ogura
Junji OGURA
Executive Committee Member, FIFA
President, Japan Football Association
Chairman, Japan 2022 Bid Committee

10/12 ヴァルケ FIFA 事務総長 → 小倉委員長



Junji Ogura
Chairman, Japan 2022 Bid Committee

小倉日本招致委員長宛て
FIFA での日本招致委員会によるプレゼンテーションの御礼。
ジェローム・ヴァルケ FIFA 事務総長

Zurich, 12 October 2010
SG/gpa

Sent by email: junjio@jfa.or.jp

Dear Mr. Ogura,

Thank you for the interesting presentation of members of your bid committee highlighting the objectives of the 2022 FIFA World Cup™ bid of Japan at the Home of FIFA in Zurich at the beginning of this month.

We value your efforts and your interest in hosting the 2022 FIFA World Cup and are looking forward receiving the presentation of your bid committee to the FIFA Executive Committee at the beginning of December.

Yours faithfully
FIFA

Jérôme Walcké
Secretary General

Fédération Internationale de Football Association
FIFA-Strasse 20 P.O. Box 8044 Zurich Switzerland Tel.: +41-(0)43-222 7777 Fax: +41-(0)43-222 7878 www.FIFA.com

1/1

11/17 小倉 FIFA 理事/JFA 会長/委員長 → FIFA 理事各位 (各言語翻訳)

JUNJI OGURA
Executive Committee Member

100 YEARS FIFA 1904 - 2004



17 November 2010

Mr. Joseph S. Blatter
FIFA President

Dear Mr. Blatter,

I am both anxious and excited as the date for the selection of the Host Countries for the 2018 and 2022 FIFA World Cups draws near and the fate of Japan's bid will be decided. As head of the Football Association and the Bid Committee, I am forwarding you my personal request for your support toward Japan's proposal for the 2022 FIFA World Cup.

It will be an unprecedented moment for FIFA to be voting on two World Cups at the same time, and the outcome is going to reflect the grand vision FIFA and its Executive Committee have for the future of football.

To decide on the fate of the World Cup 12 years in the future requires bold imagination. Such a decision must also encompass a vision for the future which is accompanied by a goal and ideal on a grand scale. The World Cup can be utilised to make positive changes for the next generation, so let us make sure that beyond FIFA's mission lies a future full of hopes and dreams.

We must fulfil our duty in making the right choice that would ensure that FIFA's contribution to the world continues to expand in the future.

Develop the game, touch the world, build a better future.

Japan's proposal embraces the same ideal. Japan envisions a World Cup that is universally experienced by the entire world in 2022 – a World Cup for all football fans and for all children.

Just imagine... a future where everyone in all countries and regions will be able to watch the action on the pitch take place right before their eyes.

Just imagine... a future where children in all countries and regions will be able to communicate directly with other children all over the world.

By implementing an educational programme for the future generation and utilising leading-edge technology, Japan's proposal will make that happen.

Please cast the vote with your heart, your passion, and your vision. Let us demonstrate the integrity of FIFA.

Yours faithfully

Junji Ogura
Member, FIFA Executive Committee
President, Japan Football Association
Chairman, Japan 2022 Bid Committee

各 FIFA 理事宛
以下の内容をもって招致協力を要請
・2018/2022 年大会決定の重要性の強調
・FIFA ミッションに準じた日本のコンセプトの強調
・世界中でワールドカップを開催する具体的イメージ
小倉 FIFA 理事/JFA 会長/招致委員長

c/o Japan Football Association
JFA House, 3-10-15, Hongo, Bunkyo-ku, 113-0033 Tokyo, Japan
Tel.: P: +81-3/3312 0240; B: +81-3/3830 2004; Fax: +81-3/3830 2005; E-mail: junjio@jfa.or.jp

11/17 付レター添付写真



11/23 プラッター FIFA 会長 → 小倉 FIFA 理事 / JFA 会長 / 委員長

LE PRÉSIDENT

FIFA

For the Game. For the World.

Mr Junji Ogura
Japan Football Association
JFA House
Football Ave.
Bunkyo-ku
Tokyo 113-8311
Japan

小倉 JFA 会長宛て

11/17 付レターに対する御礼と、
日本招致委員会への激励の言葉。

FIFA プラッター会長

Zurich, 23 November 2010

Dear colleague and friend, *dear Junji*

Having now returned to Switzerland after a trip to South America, I would like to thank you wholeheartedly for your letter dated 17 November 2010.

FIFA is very encouraged by your vision and your heartening words of support. These will no doubt be one of the key factors in the decision regarding the host of our flagship competition.

I look forward to seeing you in Zurich and I wish you and your bid good luck for the upcoming appointment of the host country of the 2022 FIFA World Cup™.

Yours faithfully,

Joseph S. Blatter

12/09 小倉 FIFA 理事 / JFA 会長 / 委員長 → FIFA 理事各位 (各言語翻訳)

12/07 ブラッター FIFA 会長 → 小倉 JFA 会長

JUNJI OGURA
Executive Committee Member

100 YEARS FIFA 1904 - 2004



9 December 2010

Mr. Joseph S. Blatter
President
Fédération Internationale de Football Association

Dear Mr. Blatter,

As a result of the 2 December vote taken by the FIFA Executive Committee regarding the host countries for the 2018 and 2022 FIFA World Cups, Japan's hope was not fulfilled. I extend my sincere congratulations to Russia and Qatar who have been chosen as the host for 2018 and 2022 respectively.

Both of the countries selected will be hosting the FIFA World Cup for the first time, and I cannot help but remember hearing some say that after co-hosting the 2002 World Cup, it was too soon for Japan.

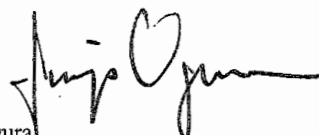
Our bid featured the concept of using leading-edge technologies to host a "Next Generation World Cup" in all 208 countries and regions of the FIFA Member Associations, and it was encouraging to see that our dynamic concept received favourable reviews from many.

During the course of our bidding activities, we were able to introduce the principles and goals of the Japan Football Association and our efforts to contribute to society through such programmes as the "JFA *Kakoro* Project." This was a significant opportunity for us, and I hope that Japan's proposal will be carried out in future World Cups.

The mission of the JFA is "to realise through football the full benefits that sports can bring to our lives – the soundness of our bodies, the expansion of our minds, and the enrichment of our societies." As we seek to further expand the football family, hosting the FIFA World Cup in Japan is one of our key goals, and we intend to bid again in the future.

I would like to thank you for your cooperation and support toward Japan's bid. I hope our bond will remain strong as we continue to work for the benefit of the beautiful game.

Yours faithfully,


Junji Ogura
Member, FIFA Executive Committee
President, Japan Football Association
Chairman, Japan 2022 Bid Committee

各 FIFA 理事宛
以下の内容をもって招致協力に対する謝辞
・開催国として選ばれたロシア及びカタールへの祝辞
・日本の提案が未来のワールドカップへつながることへの期待
・JFA ミッションに沿って再び招致に挑戦することの決意
・招致協力に対する感謝
小倉 FIFA 理事 / JFA 会長 / 招致委員長

c/o Japan Football Association
JFA House, 3-10-15, Hongo, Bunkyo-ku, 113-0033 Tokyo, Japan
Tel.: P: +81-3/3312 0240; B: +81-3/3830 2004; Fax: +81-3/3830 2005; E-mail: junjio@jfa.or.jp

LE PRÉSIDENT



Japan Football Association
Mr Junji Ogura
President
JFA House Football Ave.
Bunkyo-ku
TOKYO 113-8311
Japan

Sent by fax: +81-3/3830 2005

Zurich, 7 December 2010

小倉 JFA 会長宛て

日本の WC 招致に対する御礼。

FIFA ブラッター会長

Dear President, *dear friend,*

I would like to take this opportunity to pass on my sincerest thanks for the commitment and exemplary conduct of your Bid Committee during the long and challenging bid process.

I also wish to congratulate you on your positive spirit towards your competitors, and to place on record my appreciation for the attendance of the high-ranking political dignitaries in your delegation.

As you know, football is a school of life, and one that is based upon discipline, respect and fair play. In football one can win, lose or draw, but in this particular case, it was not possible to have a tie.

I have no doubt that this result will not in any way lessen your country's enthusiasm for the love of our beautiful game.

Nevertheless, football will keep on going from strength to strength and it will continue to excite people and convey a sense of positivity, strength and hope.

Yours sincerely


Joseph S. Blatter

CC: Mohamed Bin Hammam – AFC President

Fédération Internationale de Football Association
FIFA-Straße 20 PO Box 8044 Zurich, Switzerland Tel: +41-(0)43-222 7777 Fax: +41-(0)43-222 7878 www.FIFA.com

12/07 ドーグ FIFA 理事 → 小倉 FIFA 理事 / JFA 会長 / 委員長

MICHEL D'HOOGHE, DR
Membre du Comité Exécutif

100 YEARS FIFA 1904 - 2004



Mr. Junji Ogura
Japan Football Association
JFA House
Football Avenue, Bunkyo-ku
Tokyo 113-8311
Japan

小倉 JFA 会長宛て
日本の WC 招致に対する慰労。
ドーグ FIFA 理事

ref. : MD/CB/10120702

Brugge, 7/12/2010

Dear Mr. Ogura,

Having been beaten myself in our attempt to obtain the World Cup bid I can easily imagine your sadness and disappointment today.

Permit me to tell you I had the greatest appreciation towards your candidature, and I really admired the great efforts you and the team around you were making. We knew, however, that out of a group of 9 candidates there would only be 2 winners, and that there would also be 7 losers. The laws of the sport prescribe us to accept a defeat.

Nevertheless, I am sure that your Association and your whole nation will take profit of your bid, because it will stimulate the practice of football in your country, it will progress all the aspects around "your" football, and it has given an excellent perception of your people, your engagement and your future possibilities to everybody.

With kindest regards,

Dr. M. D'Hooghe

Lange Rei 71, 8000 Brugge, Belgique
Tel.: P: +32-50/336 611; B: +32-50/452 900; M: +32-475/352 222; Fax: +32-50/339 750; E-mail: michel.dhooghe@skynet.be

12/13 レフカリティス FIFA 理事 → 小倉 FIFA 理事 / JFA 会長 / 委員長

MARIOS N. LEFKARITIS
Executive Committee Member

100 YEARS FIFA 1904 - 2004

13th December, 2010

Mr. Junji Ogura,
Member, FIFA Executive Committee,
President, Japan Football Association,
Chairman, Japan 2022 Bid Committee,
JFA House,
3-10-15, Hongo,
Bunkyo-ku,
113-0033 Tokyo,
JAPAN

Dear Mr. Ogura,

Thank you very much for your letter dated 9 December 2010, regarding the decision taken for the World Cups 2018 and 2022.

While I fully understand your disappointment I must praise you personally and the whole team for the respectable way you accepted the result. This demonstrates true fair play.

Rest assured that our bond will remain strong for the benefit of our countries and the game.

Yours faithfully,

Marios N. Lefkaritis

小倉 FIFA 理事 / JFA 会長 / 招致委員長宛
日本の招致に対する慰労及び称賛
レフカリティス FIFA 理事

3 Lotou St, 3110 Limassol, Cyprus
Tel.: P: +357-2/573 2333; B: +357-2/484 8001; M: +357/9962 5353; Fax: +357-2/484 8005; E-mail: mariosl@lefkaritisgroup.com.cy

12/14 ヴァルク FIFA 事務総長 → 小倉 FIFA 理事

FIFA®

For the Game. For the World.

Japan Football Association
Mr Junji Ogura
FIFA Executive Committee member
JFA House
3-10-15 Hongo
Bunkyo-ku
113-033 Tokyo
Japan

By fax
00 81 3 3830 2005

Zurich, 14 December 2010

2018/2022 FIFA World Cups

Dear Ogura-san, *Junji*

Thank you for your letter dated 9 December and for your gracious words congratulating Russia and Qatar on their appointments as hosts for the 2018 and 2022 FIFA World Cups™ respectively.

I would like to commend you and the Japanese Bid Committee for the professional bid that you put forward to host the 2022 FIFA World Cup™. I was impressed by the state-of-the-art technologies that were outlined therein and, also by the goals of the JFA to contribute to society through football initiatives. We hope that this will continue regardless of the fact that Japan was not successful in its bid to host the 2022 edition.

I also look forward to a continued good working relationship with you personally and hope to visit your beautiful country again in the future.

Yours sincerely,
FIFA

Valcke
Gérôme Valcke
Secretary General

小倉 FIFA 理事宛
日本の招致に対する称賛及び JFA による
サッカーを通じた社会貢献活動に対する評価
ヴァルク FIFA 事務総長

Fédération Internationale de Football Association
FIFA-Strasse 20 P.O. Box 8044 Zurich Switzerland Tel.: +41-(0)43-222 7777 Fax: +41-(0)43-222 7878 www.FIFA.com



**BIDDING NATION
JAPAN**

2022年 FIFA ワールドカップ™ 招致活動報告書

発行年月：2011年3月発行

発行者：2022年 FIFA ワールドカップ™ 日本招致委員会

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り（本郷3-10-15）JFA ハウス

財団法人 日本サッカー協会

〒113-8311 東京都文京区サッカー通り（本郷3-10-15）JFA ハウス

Tel：03-3830-2004 / Fax：03-3830-2005

URL：www.jfa.or.jp

編集：株式会社 明元社

写真協力：Jリーグフォト株式会社

印刷：凸版印刷株式会社